静岡県立美術館年報

平成21年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF
ART
2009

静岡県立美術館年報

平成21年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2009

目　次

使命・重点目標・評価指標 ……4
平成21年度　美術館の評価活動 ……5
【館長公約　A】人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します。
【重点目標　1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。
展覧会活動　展覧会一覧 ……7
観覧者数一覧 ……8
（企画展）
よみがえる黄金文明展 ……9
静岡の美術Ⅸ　柳沢紀子展 ……10
パウル・クレー　東洋への夢　展 ……12
特集　狩野派の世界2009　展 ……13
【重点目標　2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します。
（調査研究活動）
紀要の発行 ……14
研究活動 ……15
研究会 ……16
各種資料整理 ……19
博物館実習 ……20
【重点目標　3】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。
収蔵品展 ……22
移動美術展 ……23
平成21年度新収蔵品 ……25
収集品点数一覧 ……46
図書資料の収集・整理 ……48
館蔵品の貸し出し ……49
美術作品の補修 ……57
保存活動 ……58
【館長公約　B】地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します。
【重点目標　1】質の高い教育・普及プログラムを開発します。
（一般向け）
ギャラリートーク ……59
実技・鑑賞講座 ……60
（子ども向け）
実技・体験 ……63
夏休み子どもワークショップ ……66
学校連携普及事業（美術館教室） ……68
【重点目標　2】講座・講演会等を充実します。
講演会 ……76
美術講座 ……76
対外活動 ……79
【重点目標　3】地域住民、企業、ＮＰＯ等と連携した美術館活動を充実します。
ボランティア・地域サポーター ……82
平成21年度　友の会活動 ……86
【館長公約　C】戦略的な広報を展開し、情報発信に努めます。
【重点目標　1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます。
広報活動（ホームページ） ……90
美術館ニュース「アマリリス」 ……91
【重点目標　2】観光などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます。
新たな広報チャンネルの開拓 ……92
【重点目標　3】ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。
ロダン館展示・イベント ……93
【館長公約　D】施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます。
【重点目標　1】館内施設を充実し、満足度を高めます。
施設利用状況（年度別） ……94
県民ギャラリー利用状況 ……95
【重点目標　2】周辺環境やアクセス環境の向上を進めます。
来館者のアクセス満足度 ……96
■付帯資料
平成21年度主要記事 ……97
（展覧会　出品目録）
よみがえる黄金文明展 ……98
静岡の美術Ⅸ　柳沢紀子展 ……104
パウル・クレー　東洋への夢　展 ……108
特集　狩野派の世界2009　展 ……112
収蔵品展 ……114
移動美術展 ……116
（管理運営）
関連法規 ……124
組織・名簿 ……131
歳入・歳出決算 ……132
建築・設備概要 ……133
利用案内 ……139
奥付 ……140

使命・重点目標・評価指標

（平成20年度～平成22年度）

使　命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。
そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

館長公約	
A	人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します
B	地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します
C	戦略的な広報を展開し、情報発信に努めます
D	施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます

重点目標	
1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します
2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します
3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
1	質の高い教育・普及プログラムを開発します
2	講座・講演会等を充実します
3	地域住民、企業、ＮＰＯ等と連携した美術館活動を充実します
1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます
2	観光などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます
3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします
1	館内施設を充実し、満足度を高めます
2	周辺環境やアクセス環境の向上を進めます

評価指標	
1	展覧会の観覧者数
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数(レベル別)
3	作品やテーマに興味を持った人の割合
4	展覧会における新規来館者数の割合
5	展覧会に対する外部評価(レヴュー)【定性】
6	調査研究の発表件数（種類別）
7	内部セミナー・研究会・研修の回数
8	大学等と連携した取組件数
9	インターンシップ受入人数
10	調査研究に関する外部評価（レヴュー）【定性】
11	収蔵品展の観覧者数
12	収蔵品の公開件数（貸出し含む）
13	作品購入件数・購入価格
14	作品寄贈件数・評価価格
15	公開または貸出した展覧会における作品の位置付け等に関する学芸員レポート【定性】
16	学校教育と連携した取組数
17	鑑賞系プログラム数
18	コレクションを活用したプログラム数
19	教育・普及プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
20	講演会等の開催回数
21	学芸員のフロアレクチャー等の数
22	地域住民等と連携した取組件数
23	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
24	地域住民等と連携した取組に関する美術館職員のレポート【定性】
25	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
26	ホームページのアクセス数
27	ホームページの満足度
28	取材の件数
29	広報手法における新たな取組状況に関する美術館職員のレポート【定性】
30	ロダン館の入館者数
31	美術館利用者数（計）
32	鑑賞環境に対する満足度
33	レストラン・カフェ利用者の満足度
34	ミュージアムショップ利用者の満足度
35	来館者のアクセス満足度

平成21年度　美術館の評価活動

■総括

本年度は、6月4日に富士山静岡空港が開港し、本県では就航先等を中心とした観光客誘致のための様々な取組を行った。県立美術館においても、県文化政策室等との連携により、当館の観光ルート化を図るべく、ロダン館を中心としたＰＲ活動を行い、観光ルート化モデル事業「夕暮れロダンツアー」を実施した。またリニューアルのための長期休館を行い、展示室及び県民ギャラリー等の改修工事を実施した。

こうした状況の中で、平成21年度は、以下に示す通り、４つの館長公約を掲げ、重点的に事業に取り組んだところである。

全体的な成果として、美術館利用者数が、目標の250,200人には及ばなかったが、221,185人に達したことが挙げられる。内訳を見ると、展覧会の来館者数（企画展等）が、目標の145,000人には及ばず、119,416人にとどまったが、一方で収蔵品展は、目標の15,000人を超え18,042人に達し、コレクションの鑑賞機会が増える結果となった。

個別に見ると、館長公約Ａ【人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します】については、コレクションに関する学芸員の調査・研究の成果を示すことができた。具体的には、静岡ゆかりの現代作家の全貌を紹介する企画展「静岡の美術Ⅸ　柳澤紀子展」や開館以来収集に努めてきた狩野派コレクションに新出作品を加えて一堂に展示する「狩野派の世界2009」展を開催したことで、本県に優れた芸術的土壌が存在することを改めて示すことができた。

つぎに館長公約Ｂ【地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します】については、コレクションを活用した鑑賞プログラムを学校等と連携して実施したことで、子供たちの美術作品に対する理解を深めることができた。

館長公約Ｃ【戦略的な広報を展開し、情報発信に努めます】については、既存メディアによる広報は、過去3年間、ある一定の成果を上げてきているものの数値は安定しており、新たな広報メディアの開拓とメディアの特性に応じた広報戦略の策定が必要である。

最後に館長公約Ｄ【施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます】については、リニューアルのための長期休館中に、県民ギャラリーの床面をフローリングに替える工事などを行い、アメニティ向上を図るとともに、レストランの業者を公募しメニューを刷新することで、サービスの改善を図ったところである。

■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークスの改定作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取り組みを行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

■平成21年度の活動

平成21年度引き続き、ミュージアム・ナビによる自己点検評価とともに、外部委員による研究評価活動を受けた。それぞれに概要は以下の通りである。

（1）ミュージアム・ナビによる自己点検評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し自己点検を行うことで業務改善に取り組む。それによって、Plan-Do-Check-Action（計画-実行-監視-改善）のサイクルを確立する。

自己点検の拠り所となるのは、来館者に対するアンケート調査である。ボランティアの協力を得て、統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を加え、意味のあるデータを取り出せるよう心がけている。平成21年度は、以下の活動を行った。

（1）アンケート調査結果の集計と分析

Ａ．展覧会観覧者アンケート（4本）

Ｂ．教育・普及プログラム参加者アンケート（実技系・イベント系）

Ｃ．付帯施設（レストラン、ミュージアム・ミュージアムショップ）

Ｄ．美術館ホームページによるアンケート

（2）グループ・インタビュー

（2）研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会及び学芸員の調査

研究に関わる定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼する。

■静岡県立美術館研究活動評価委員

（【　】内は専門分野）

坂 本　満【西洋絵画・日本洋画】／金沢美術工芸大学客員教授・（前）うらわ美術館館長

潮 江 宏 三【西洋絵画・現代美術】／京都市立芸術大学学長

山梨絵美子【日本洋画】／東京文化財研究所企画情報部近現代視覚芸術研究室長

榊 原　悟【日本画】／群馬県立女子大学教授

金 原 宏 行【教育普及・日本画】／常葉学園大学教授、豊橋市美術博物館館長

■開催記録

第1回

平成21年6月8日

・平成20年度研究活動の評価・総括

・平成21年度の研究評価活動についての提言及びスケジュールについて

・「柳澤紀子展」視察

第2回

平成21年9月17日、20日

・「狩野派の世界2009」展視察

○静岡県立美術館研究紀要第25号（平成22年3月31日刊行）掲載論文についての評価

■静岡県立美術館研究活動評価委員設置要綱

（設置）

第1条　静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条　委員は次に掲げる事項について評価を行う。

(1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業。

(2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物。

(3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項。

（組織）

第3条　委員は5名以内とする。

2　特別の事項を調査する必要のあるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

（委嘱）

第4条

委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

（任期）

第5条　委員の任期は2年とする。

2　委員は再任することができる。

（委任）

第6条　この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附　則

この要綱は、平成15年9月1日から施行する。

■評価基準

1）展覧会

1．内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、多様な資料（写真や二次資料等）の積極的な活用、館蔵品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究（記録・整理を含む）等。

2．企画者（学芸員）の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。

3．出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。

4．鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。

5．その他…特に評価に値する事柄。

2）展覧会カタログ／学芸員のエッセイ

1．鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。

2．企画者（学芸員）の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。

3．内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、資料的な価値等。

4．その他…特に評価に値する事柄。

3）研究紀要／館蔵品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

1．内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。

2．研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。

3．学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。

4．資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。

5．その他…特に評価に値する事柄。

4）教育・普及プログラム

1．企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。

2．その他…特に評価に値する事柄。

【館長公約Ａ】人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します。
【重点目標１】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。

■　展覧会活動　展覧会一覧

	企画展 1	企画展 2	企画展 3	企画展 4	企画展 5	企画展 6	収蔵品展 7	ロダン館 ロダン館第２室
4 APRIL	3/31(火)～10(金) 1～6室閉室 4/11(土)～5/15(金) よみがえる黄金文明展 ～ブルガリアに眠る古代トラキアの秘宝～ 4/18（土）～5/17（日） 浜松市美術館 静岡県立美術館・浜松市美術館共同企画 石田徹也展と静岡県ゆかりの画家						3/31（火）～5/15（金） 新収蔵品展	
5 MAY	5/16(土)～5/25(月) 館内整備のため休館							
6 JUNE	5/26(火)～7/5(日) 静岡の美術Ⅸ　柳澤紀子展						5/26(火)～7/5(日) 体で感じるアート	(柳澤紀子展)
7 JULY	7/14(火)～8/30(日) パウル・クレー　東洋への夢						7/7（火）～9/6（日） クレーの時代の日本洋画	7/7(火)～9/6(月) 現代日本の版画
8 AUGUST								
9 SEPTEMBER	9/10(木)～10/18(日) 特集　狩野派の世界　2009						9/8（火）～11/8（日） ランドスケープ・ペインティング［西洋編］	9/8(火)～10/12(日) 近代日本の版画
10 OCTOBER								10/14(水)～11/8（日） 19世紀のフランス版画 －ドラクロワ、コローなど－
11 NOVEMBER	10/24(土)～11/8(日) 第24回　国民文化祭							
12 DECEMBER	11/9(月)～3/31(水) 工事休館 1/5（火）～2/14（日） 佐野美術館 「物語絵の世界　－静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」 2/20（土）～3/28（日） 掛川市二の丸美術館 静岡県立美術館コレクション「日本画にみる風景 富士を愛でる 山水から風景画へ」							1/16(土)～3/31（水） ロダン館のみ開館
1 JANUARY								
2 FEBRUARY								
3 MARCH								

■ 観覧者数一覧

展覧会		会期		観覧者見込数	観覧者数						
		期間	日数		一般	高校・大学	小・中学	70歳以上	招待	実績数	対見込
			日	人	人	人	人	人	人	人	%
企画展	よみがえる黄金文明展	4／11～5／15	31	50,000	19,323	1,001	2,712	5,515	7,189	35,740	71.5
	静岡の美術Ⅸ　柳澤紀子展	5／26～7／5	36	8,000	2,213	444	1,100	497	1,825	6,079	76.0
	パウル・クレー 東洋への夢展	7／14～8／30	42	30,000	8,978	1,513	4,178	887	4,322	19,878	66.3
	特集　狩野派の世界2009	9／10～10／18	35	15,000	6,795	668	777	1,517	3,052	12,809	85.4
	計		144	103,000	37,309	3,626	8,767	8,416	16,388	74,506	72.3
収蔵品展		4／1～3／31	249	15000	7,764	(注) 0	7,668	1,254	1,356	18,042	120.3
合計			249	118,000	45,073	3,626	16,435	9,670	17,744	92,548	78.4
第24回国民文化祭		10／24～11／8	249	11000	－	－	－	－	9,244	9,244	84.0
総合計			249	129,000	45,073	3,626	16,435	9,670	26,988	101,792	78.9
移動美術展	浜松市	4／18～5／17	27	6,000	5,979	514	726	297	944	8,460	141.0
	三島市	1／5～2／14	36	5,500	1,961	－	16	－	2,647	4,624	84.1
	掛川市	2／20～3／28	32	3,500	3,697	－	180	－	663	4,540	129.7

（注）収蔵品展観覧者の「一般」には「大学生」が、「小・中学生」には「高校生」がそれぞれ含まれている。

■ 年度別観覧者数

（単位：人）

年度	観覧者数	年度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成10年度	153,099
昭和62年度	174,031	平成11年度	107,977
昭和63年度	214,156	平成12年度	146,833
平成元年度	229,258	平成13年度	207,340
平成 2 年度	233,904	平成14年度	170,390
平成 3 年度	190,361	平成15年度	184,095
平成 4 年度	173,665	平成16年度	146,706
平成 5 年度	218,921	平成17年度	129,768
平成 6 年度	410,182	平成18年度	222,608
平成 7 年度	245,028	平成19年度	184,535
平成 8 年度	178,701	平成20年度	190,669
平成 9 年度	127,299	平成21年度	101,792
		累計	4,687,064

よみがえる黄金文明展
ブルガリアに眠る古代トラキアの秘宝

主　　催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送、東映
後　　援：外務省、文化庁、ブルガリア共和国大使館
特別協賛：清水銀行
協　　力：ブルガリア共和国文化省、ソフィア考古学研究所・博物館、ブルガリア国立博物館群、ニッセイ同和損保
技術協力：Kanebo
会　　期：平成21年４月11日（土）～５月15日（金）
休 館 日：毎週月曜日（５月４日（月）は開館）

▲チラシ

トラキア王国（現在のブルガリア）は、世界最古の黄金文明を築き上げた民族として世界的に知られており、近年もトラキア墳墓の発見が相次いでいる。本展は、古代史に新たに登場してきたトラキア王国の文明を、ソフィア考古学博物館をはじめブルガリア国立博物館群のコレクションで紹介したものである。

170点が出品された本展では、21世紀の大発見と言われる「トラキア王の黄金のマスク」が日本で初公開され、さらに「世界最古の黄金製品」も展示されるなど、貴重な機会となった。

■カタログ

27.0×22.5㎝　192ｐ.
本文
　ブルガリアの風土と歴史／藤 盛美郎
　古代トラキアの歴史／ペタル・デレフ
　トラキア人：その実像を探る／禿 仁志
図版
　Ⅰ．文明の十字路
　Ⅱ．墳墓に眠る謎
　Ⅲ．黄金の秘宝
〈参考地図〉ギリシア・ローマ時代の金鉱山、銀鉱山
　ブルガリアの世界遺産
エッセー「バラの谷」・トラキア王・考古学／禿 仁志
関連地図
関連年表
「トラキア遺宝」とその背景／禿 仁志
参考文献
用語解説
作品目録

静岡の美術 Ⅸ　柳澤紀子展　－水邊の庭－

主　催：静岡県立美術館、浜松市美術館
助　成：財団法人 地域創造
会　期：平成21年5月26日(火)～7月5日(日)

主　旨：

柳澤紀子は静岡県浜松市出身で、国内外で多くの個展を開催し、高い評価を得ている美術家である。その作品は、一貫して「身体」をテーマとしている。とりわけ近年では、核や宗教問題にも関心を寄せ、現代社会の中で責め苛まれる身体の表現を通して、生命と文明についての鋭い問いを投げかけている。また代表作「水邊の庭」（スイヘンノニハ）は、詩人・吉増剛造が詩を寄せていることで知られ、美術と文学を横断する幅広い活動も特徴のひとつである。

今回の展覧会は、代表作や新作など約100点を一堂に展覧する。また当館には別館のロダン館があり、近代彫刻の巨匠ロダンの彫刻作品が約30点展示されている。それらの中に柳澤の大型作品を点在させる。「身体」をテーマとする柳澤作品とロダン彫刻とのコラボレーションは、野心的な試みとなるであろう。これらを通して、現代における身体の問題、すなわち今を生きる私たちの生の問題に、思いをはせていただければ幸いである。

会期中イベント

・スペシャルトーク
　6月7日（日）午後2時～3時30分　当館講堂にて
　吉増剛造氏（詩人）、林浩平氏（詩人・恵泉女学園大学特任准教授）、柳澤紀子氏（本展出品作家）
　Gozo Cine　Pink dog特別上映
　申し込み不要
・作家によるギャラリートーク
　5月31日（日）　午後2時～3時　柳澤紀子氏×堀切正人（当館学芸員）
　6月14日（日）　午後2時～3時　柳澤紀子氏×川谷承子（当館学芸員）
・実技講座
　6月21日（日）　当館実技室・展覧会場にて
　講師：柳澤紀子氏×山本直氏（彫刻家・静岡県立清水南高校教諭）
　ペーパーコラージュのワークショップ
　参加対象小学生3年生以上

■関連記事、テレビ

「展示室が丸ごと作品　静岡で個展　版画家柳沢さん　美大生と共同制作」『静岡新聞』平成21年5月25日

堀切正人「柳澤紀子展　多様性でロダンに共振」『静岡新聞』平成21年6月6日夕刊

宝玉正彦「若々しい着想と造形　柳澤紀子展」『日本経済新聞』平成21年6月10日

「アートシーン　柳澤紀子展」　ＮＨＫ日曜美術館　平成21年6月14日放映

岸佳子「柳澤紀子展　時代と素材を越えた競演」『毎日新聞』平成21年6月16日

Edan Clrkill 'A local artist with global cred' , The Japan Times, june 19 2009

「イメージ広げ〔空想の翼〕作り」『静岡新聞』平成21年6月22日

大西若人「ロダンと呼応試みる　柳澤紀子さんが大作展示」『朝日新聞』平成21年6月24日夕刊

馬場駿吉「柳澤紀子　〔水邊の庭〕逍遥」『版画芸術』No.145　平成21年9月号　p.84-85

青木健「病んでいる現代の形象化　柳澤紀子展〔水邊の庭〕を見て」『芸術批評誌【リア】』No.22　平成21年10月31日　p.68-69

▲チラシ

■カタログ

発　　行：静岡県立美術館
発 行 日：平成21年５月26日
助　　成：財団法人 地域創造
翻　　訳：南平妙子、坂井由紀
写真撮影：高梨豊、伊藤時男
デザイン：加藤賢策（東京ピストル）
印　　刷：株式会社アトミ
仕　　様：A 4版　112ページ
内　　容：「ごあいさつ」（宮治昭）、インスタレーション展示風景写真（撮影：高梨豊）、「a pink dog 柳澤紀子に。」（吉増剛造）、版画作品図版、「柳澤紀子－大地的な活力の画家」（本江邦夫）、「身体と版画－柳澤紀子氏の作品について」（堀切正人）、「柳澤紀子×建畠晢　対談録」、略歴、参考文献、作品リスト

■出品目録

p.104〜107を参照

パウル・クレー　東洋への夢　Paul Klee and East Asia

主　催：静岡県立美術館、静岡第一テレビ 30 th
後　援：スイス大使館、日本パウル・クレー協会
協　力：スイス・インターナショナル・エアラインズ
協　賛：静岡銀行
会　期：2009年 7 月14日（火）～ 8 月30日（日）
休館日：毎週月曜日

リズミカルな線と色彩豊かな絵画で知られ、20世紀を代表する芸術家であるパウル・クレー（1879－1940）の回顧展。日本ではクレーの個展が複数回開催されてきたが、本展は、クレーと日本および東洋との関わりをとりあげ、これまであまり知られていなかったクレーの新たな側面に迫ることを主旨とした。当館では初のクレーの個展である。出品作品は、浮世絵からの影響がうかがわれる初期の鉛筆デッサンを始め、東洋的要素を感じさせるカリカチュアやカリグラフィー、風景画などのクレー作品約100点に加え、関連する浮世絵とクレーの蔵書約40点など、計140点余りが出品された。クレーの作品および蔵書の約90点の所蔵先は、スイスのクレー・センター、スイスの個人コレクションである。日本では初紹介となる、クレーが夢見た東洋の世界を作品および資料の両面から立証しようとした画期的かつ野心的な展覧会である。

■カタログ
発行：日本パウル・クレー協会
あいさつ　謝辞
隠岐由紀子「芸術刷新の原動力となったジャポニスム」
奥田修「クレーと東洋芸術」
野田由美意「1916年の文字絵制作に至るパウル・クレーと東洋の関係」
奥田修「出品作品をめぐって」
図版
付録（奥田修）
出品リスト
参考文献

■関連事業
□特別講演会
8 月 9 日（日）
「パウル・クレーとはどのような芸術家だったのか」
前田富士男氏（慶應義塾大学名誉教授）
8 月22日（土）
「からだのリズム、かたちのリズム～クレーに近づくもうひとつの試み」
恩地元子氏（東京芸術大学、武蔵野美術大学非常勤講師・表象文化論）
□ロダン館コンサート
8 月29日（土）　16：00～17：00
小杉結ヴァイオリン・リサイタル「パウル・クレーに捧ぐ」
□学芸員によるフロア・レクチャー
7 月26日（日）、8 月14日（金）
14：00～15：00

■メディア紹介
『新美術新聞』（2009年 8 月 1 日・11日合併号）

■出品目録
p.108～111を参照

▲チラシ

「特集　狩野派の世界2009」展

主　催：静岡県立美術館

■概要

狩野派は、その先祖が伊豆出身であると伝えられることや、江戸時代を通じて幕府の直轄地であった駿府（現静岡市）の主要な絵画制作を担当したことなど、静岡とのゆかりが大変深く、静岡県立美術館では開館前から狩野派の作品を系統的に収集してきた。当館蔵の狩野派作品は現在40件を超え、コレクションのなかでも特色ある作品群を形成している。

1999年、2003年につづく6年振り3回目となる今回の狩野派特集では、当館の誇る狩野派コレクションを中心としながら、近年発見・新発見の作品もあわせて展示し、400年にも及ぶ狩野派の変遷を辿った。

■関連事業

（1）特別講演会（場所：当館講堂、14:00〜15:30）
9月21日（月・祝）「探幽のいた季節―二条城の襖絵から館蔵品へ―」
山下善也氏（京都国立博物館連携協力室長）

（2）美術講座（場所：当館講座室、14:00〜15:00）
10月10日（土）「静岡県立美術館の狩野派コレクション」
福士雄也（当館学芸員）

（3）学芸員によるフロアレクチャー（場所：当館展示室、各日14：00〜15：00）
9月13日（日）、9月22日（火・祝）、9月23日（水・祝）、10月17日（土）、10月18日（日）

（4）狩野派コレクション特別鑑賞会（場所：当館講座室、各日10：30〜／13：30〜）
9月27日（日）、10月3日（土）

■図録

27.0×20.5㎝ 30ページ

・構成
第1章 室町〜桃山時代の狩野派
第2章 狩野探幽とその周辺
第3章 京狩野の系譜
第4章 江戸狩野の展開、そして近代へ
作品解説

■関連記事

・「日本美術のススメ」『美術の窓』9月号　生活の友社
・『趣味の水墨画』10月号 ユーキャン
・9月4日
「狩野派400年の系譜たどる」『中日新聞』（広瀬和実記者）
「インフォメーション」『日本経済新聞』朝刊
・9月5日
「県立美術館で「狩野派の世界展」」『毎日新聞』（静岡版）
・9月11日
「狩野派の変遷紹介」『静岡新聞』
「狩野派　時代彩る65点」『中日新聞』
・9月19日
「日本画の魅力伝える」『中日新聞』（広瀬和実記者）
「県立美術館で茶会」『中日新聞』夕刊（松本利幸記者）
・9月28日
「狩野派作品じかに　特別観賞会に24人」『中日新聞』
・10月2日
「力動感ある永徳真筆　静岡で「狩野派の世界」展」『朝日新聞』夕刊（中部版、西岡一正記者）
・10月14日
「「狩野派」再評価の機運　静岡と栃木で検証展」『朝日新聞』（全国版、田中三蔵記者）

■出品目録

p.112〜p.113 を参照

▲チラシ

紀要の発行

当館では、美術館建設準備室時代の昭和58年度に第１号を刊行して以来、ほぼ毎年１回のペースで紀要を刊行してきた。

刊行の目的は、美術館活動の基盤となる学芸員の研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。研究対象は主として館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に従い、広く美術及び美術館をとりまく諸問題まで扱う。

成果品は、全国の研究機関、研究者等へ配布した。

（表紙）

第25号

■**版　型**　29.7×21.0㎝

■**頁　数**　63頁

■**刊行日**　平成22年3月31日

■**内　容**

・口絵図版

《武蔵野図屏風》当館蔵　全図及び部分図

・論文

村上敬

商工省工芸指導所研究序説

P.11-17

川谷承子

画廊とコレクター

実川暢宏氏へのインタビューを通してみる1960～80年代前半の画廊と作品収集の現場

p.19-39

《武蔵野図屏風》修理報告

p.41-49

飯田真

《武蔵野図屏風》

―静岡県立美術館所蔵作品の紹介を中心に

p.50-58

・各論文英文レジュメ

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌などへの寄稿や、図録等の作品解説などは除いている。

◆小針由紀隆
- 「クロード・ロランと戸外制作」『地中海学会月報』325号（平成21年11月）
- 「ローマのフランス・アカデミーと油彩スケッチの展開」『鹿島美術研究』年報第26号別冊（平成21年10月）
- 『ローマが風景になったとき』（春秋社／平成22年２月）

◆飯田　真
- 「天保期の富士山図・谷文晁筆「富士山図屏風」をめぐって」『アマリリス』No.93（静岡県立美術館ニュース／平成21年４月）
- 「《武蔵野図屏風》－静岡県立美術館所蔵作品の紹介を中心に」『静岡県立美術館紀要』第25号（平成22年３月）

◆南　美幸
- 「他者／自己を見る目―ムーアによるロダン批評」『アマリリス』No.94（静岡県立美術館ニュース／平成21年７月）

◆堀切正人
- 「身体と版画―柳澤紀子氏の作品について―」『静岡の美術Ⅸ　柳澤紀子展』図録（静岡県立美術館／平成21年６月）
- 「川村清雄《巨岩海浜図》の寓意について（試論）」『アマリリス』No.95（静岡県立美術館ニュース／平成21年10月）

◆新田建史
- 「静岡県立美術館の地震対策」『J.P.ゲッティ美術館・国立西洋美術館共催国際シンポジウム／美術館・博物館コレクションの地震対策』（国立西洋美術館／平成21年７月）

◆川谷承子
- 「「サイトスペシフィック」から「コミュニティー」へ」『アマリリス』No.96（静岡県立美術館ニュース／平成22年１月）
- 「画廊とコレクター　実川暢宏氏へのインタビューを通してみる1960年～80年代前半の画廊と作品収集の現場」『静岡県立美術館紀要』第25号（平成22年３月）

◆村上　敬
- 「商工省工芸指導所研究序説」『静岡県立美術館紀要』第25号（平成22年３月）

◆泰井　良
- 「公立美術館の「公益性」に関する調査・研究」中間報告書（財団法人地域創造／平成21年３月）

◆石上充代
- 「博物館における「連携」 事例報告
県立美術館ボランティアによる地域連携事業の展開」『静岡県博物館協会 研究紀要』33号（平成22年３月）

◆福士雄也
- 「若沖作品の構図の秘密に迫る－若沖は何を見、何を学んだのか？」『美術の窓』29号（生活の友社／平成22年１月）
- 「「狩野派の世界2009」展余録―戯画としての鍾馗図―」『アマリリス』No.97（静岡県立美術館ニュース／平成22年４月）

研究会

平成21年度に開催した研究会の題目と要旨は以下のとおりである。この研究会は、準備室時代から始まり、ほぼ月１回ペースで現在まで実施されている。発表者である学芸課職員は自由にテーマを設定できるが、当館における展覧会企画や館蔵品研究に関わる発表も多い。発表時間は約40分で、発表後は館長および同僚たちとの質疑応答を行う。20数年続いているこの研究会は、当館でアカデミックな伝統を形成し、ここから有益な示唆を得ることも少なくない。

４月

橋本雅邦《三井寺》における描法、主題の先駆性について

石上充代

1894年(明治27年)、東京美術学校成績物展覧会に教授による模範作として出品された橋本雅邦《三井寺》の描法と主題を検証し、その先駆性を指摘した。

描法では、とくに主人公の女の衣の描写に後の琳派風流行を先取りする表現が見られることが注目される、同時代の若手画家らが西洋絵画の新知見を踏まえて琳派を“再発見”したのに対し、雅邦の琳派風は幕末期狩野派における柔軟で多様な絵画学習の成果と捉えられる点が意義深い。

主題の点では、謡曲「三井寺」に材を取りつつ、狂気の母が行方知れずの我が子を求めて三井寺の階段を駆け上るという劇的な一場面を創作し、画中人物の心理描出に表現の主眼を置いた点に、新しい要素を見出すことができる。

これらの特質は明治30年代以降顕著になる美術院系若手画家らの作風の先駆けとなるものであり、本作は、幕末から近代への橋渡し役を担った雅邦の画業の意義をよく示す作品といえる。

５月

視覚的環境と風景、そして造形芸術
―　「サウンドスケープ」を導きとして

村上　敬

サウンドスケープ論が音楽に対して果たした役割をランドスケープ概念が造形芸術（ここでは視覚芸術と同義）に対して果たすことはできないかというアイディア。発表者はかつてこの題材を扱ったことがあったが、今回は新しいメディアがもたらす新しい視覚環境をも考えていくべきではないかという趣旨の提題を加え、その中で造形芸術が果たすべき役割を検討した。

われわれは、常に自らをとりまく視覚的環境を何らかのフレームで切り取っていることに自覚的になり、そのフレームを人類の生の中で適切に更新していく覚悟を持たなければならない。そのためにわれわれの造形芸術が果たすべき役割もまだ残っているのではないだろうか、というのが一応の結論。

６月

石田徹也とその時代

堀切正人

静岡県焼津市生まれの現代画家、石田徹也（1973～2005年）は、いわゆる団塊ジュニアと呼ばれる世代である。オイルショックの年に生まれ、バブル経済の中で青年期を育ち、バブル崩壊後に社会に出た世代である。阪神淡路大震災、オウム事件、幼年者犯罪、リストラ、就職氷河期、癒しブームなどの暗い世相は、石田の作品にも色濃く反映されている。

石田作品に描かれている個々のモチーフの分析を通して、石田がいかに同時代と向き合い、それを作品に昇華したかを考察した。例えば《(無題７)》(2004頃　静岡県立美術館蔵）では、その制作過程において、同時代イメージが生成消滅しつつ、絵画の意味と空間表現を深化させていくようすがうかがえる。特に横たわる人物のイメージは、癒し系アイドル、アニメやSF作品、労働事故、自傷など様々なイメージを下敷きにし、多層的な意味を孕みつつ造形化されていった。

８月

これからの美術館にできること　「風景ルルル展」の反省と、最近の現代アートの動向から照らし合わせて考える

川谷承子

前年度に開催した自主企画「風景ルルル」展を振り返り、同展のサブテーマとして掲げた「展覧会を媒介にしたゆるやかなコミュニティーの形成」という課題について、実践の結果を検証するとともに、今後の検討事項について考える場とした。「風景ルルル展」では、美術館周辺で人々が集い活動する場所、具体的には美術館ボランティアグループ「草薙ツアー」、美術館近隣のカフェ「スノードール」、静岡県立大学の学生、コミュニティサイト「草薙スクエア」へと、広報と普及の協力を呼びかけたことにより、展覧会を通じた人的交流や、新たな関係性を生み出すことができた。この結果から、今後の美術館で行う次のステップとして、近隣のアートに関心のある人に向けてのものから、より外部に開かれたものにする可能性をさぐること、さらにはアーティストの表現や作品

を媒介に他者への理解を深めるきっかけづくり、および、開かれた鑑賞方法の可能性をさぐる必要があるという結論に至った。

9月

第1回イタリア滞在期のコローとオレーヴァノ風景

小針由紀隆

1825年11月から1828年夏まで、コローは最初のイタリア滞在をはたした。1827年に彼はティヴォリの東側に足をのばし、オレーヴァノとその周辺の風景を描く。この辺鄙な田舎が芸術家の制作活動と結びつくのは、おそらく1800年以降のことであった。写生地としてのオレーヴァノを発見したのは、ローマにながらく定住したドイツ人画家、アントン・コッホであったといわれ、以後もドイツ人たちによってこの集落の眺めはよく描かれている。ローマにおいてコローは、コッホをはじめとするドイツ人画家たちのオレーヴァノ風景を見ていたのではないだろうか。彼は彼らの作品を観察しながら、自分にとって望ましい戸外制作のありよう、すなわち量塊のない前景の簡潔な処理、建築物の連なる中景の手堅い描写、全体をまとめあげる穏やかな色調などを、再確認していたように思われる。本発表は、コローのオレーヴァノでの制作活動に注目し、これまで明確に説明されてこなかったコローとドイツ人のコミュニティーとの関係に一考を加えるものである。

10月

《武蔵野図屏風》研究序説

飯田　真

平成21年度静岡県立美術館の所蔵となった《武蔵野図屏風》についての発表。武蔵野図イメージの展開を紹介するとともに、本作を他の類作と比較し、その特質を考察した。「武蔵野図屏風」と呼ばれる作品には、富士山が描かれているものと、描かれないものがある。富士山のある作品群については、3つの類型群（Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類）が認められる。当館本はⅠ類に類別される。これらの作例を検討し、「武蔵野図屏風」の定型的図様がどのような過程で成立したのか、ひとつの仮説を提示した。すなわち、富士山が描かれる「武蔵野図屏風」の図様が生れる前に、薄、秋草に月の図様、和歌による武蔵野イメージを素直に絵画化した作品があり、そうした作品を下敷きにⅠ類が誕生。その後、山並みを加えたⅡ類が生れ、さらにⅡ類を構図上整理したⅢ類も描かれるという展開である。また、Ⅰ類の中で、当館本は、秋草の描写、特にその配置や群生する形態において、図様としての初発性があり、富士山を描く「武蔵野図屏風」図様の源初的なものであることを指摘した。

11月

狩野栄信をめぐる文化ネットワーク
―『芝園臥龍梅記』を中心に―

福士雄也

江戸中期以降の狩野派において、その閉塞状況を打ち破り得たのは徹底した古画の模写・学習によるところが大きい。しかし、旗本格の奥絵師であっても、大名家に秘蔵されているような名画を閲覧することは必ずしも容易ではなかった。したがって、のちにフェノロサによって評されたような徹底した閲覧のためには、大名家との何らかの縁故が必要であったと考えられる。

そうした事情を知る上で興味深い史料として、本発表では『芝園臥龍梅記』（早稲田大学図書館蔵、以下本史料と表記）を紹介した。まず、跋文から本史料の成立事情を明らかにするとともに、狩野栄信（1775-1828）とその周辺にいた幕府要人との関わりを具体的に示すものとしての重要性を指摘した。さらに、本史料に登場する幕臣たちは鳥類図鑑の制作や古画の閲覧などにも関与しており、こうしたネットワークが栄信の制作活動および書画情報の蓄積にきわめて重要な役割を果たしていた可能性がある。

江戸狩野の中でもとりわけ古画学習の形跡が顕著な栄信・養信の背景にこのような文化ネットワークがあったことは、栄信の二男・朝岡興禎による『古画備考』編纂事業を考える上でも大変示唆的であろう。今後さらに研究を進め、稿を纏めたいと思う。

1月

ゼバルド・ベーハム《ヘラクレスの事績》について

南　美幸

当館でお預かりしている、16世紀ドイツの版画家ゼバルド・ベーハム制作の版画連作《ヘラクレスの事績》についての考察。第一に、とぼしい伝記的情報を頼りに、ベーハムの生涯ならびに同時代ドイツのプロテスタント隆盛の中で、ギリシア神話主題の作品がどのような位置を占めるのかを推測・確認した。第二に、同主題の図像の変遷を、古代ギリシアから同時代の北方およびイタリアの主要な作品によって辿り、ベーハム作品の特質を確認した。同時に、最後に、ベーハム作品の図像的典拠の今後のさらなる調査の方向性について提示した。

2月

「これからの公立美術館のあり方についての調査・研究」について～（財）地域創造での2年間をふりかえって～

泰井　良

筆者は、平成19年度・20年度の2年間にわたり、財団法人地域創造で派遣研修を行った。その際、以下の4つのテーマ、1「公立美術館の現状と課題」、2「公立美術館の経営改革」、3「連携による事業展開」、4「美術館支援方策」を柱とする公立美術館のあり方についての調査・研究に携わった。

第1章では、1980年代から急増した公立美術館の現状と課題について数値化・図式化し、その課題に対する処方箋を示した。第2章では、マネージメントとガヴァナンスについての問題点、経営形態（指定管理者制度・独立行政法人等）の検証に加えて、創造都市やイギリスの地方美術館改革などを分析し、日本の公立美術館改革につながる要素を抽出した。また第3章では、「連携」をキーワードとして、美術館同士の連携である「機関連携」、多業種との連携「機能連携」について、マトリックスによる整理を行った。連携を持続するためには、設置者によるガヴァナンスの強化・充実が必要不可欠である。第4章では、個々の連携を超えた全国組織「全国公立美術館支援機構（仮称）」設立の必要性とその具体的役割について述べた。美術館関係者のみによる自主組織ではなく、専門家と行政とが二層構造となった組織が必要であるとの結論に至った。

本研究により、公立美術館を包括的に分析し、これからの方向性について一つの指針を示すことができた。やはり、これからの公立美術館にとって重要なのは、「コレクション」と「学芸員」、そしてそこから広がる「ネットワーク」である。

3月

（1）平成21年度出張美術講座～富士宮市立富士根南中学校での実践

岡崎隆司

出張美術講座は学習指導要領に美術館の活用が明記され、全国的に学校と美術館との連携に関する研究発表が盛んに行われている中、鑑賞活動と言語能力の育成について実践的な研究を行った中で、観覧による鑑賞後に出張美術講座を行った事例を発表した。

ロダン館彫刻の写真を持参し、生徒が彫刻のポーズを取りながらその人物の気持ちを言語で表現するという授業である。写真は、彫刻を多角度から撮影したもの数枚を並置すること、また個人で考えたことをグループでまとめて発表するというような言語活動の場面を増やすことなどの工夫をした。

ポーズ、特徴的な物、表情などを観察させる導きは大変有効であったが、一方で史実を伝えるタイミングや量についての課題が残った。今後、鑑賞指導者研修会等で先生方と協議し、少しでも充実した授業協力、連携の形を検討していく必要がある。

（2）美術館における作品鑑賞活動の可能性について～鑑賞指導者研修会と出張美術講座

鈴木雅道

本年度は、8月に第1回鑑賞指導者研修会（教員対象）を開催し、100名余の参加者から当館との連携の在り方について意見を集約するとともに、11月から3月までを出張美術講座の重点期間とし、25校余の小～高校にレプリカ等を持参して特別なプログラムで授業を行い、学校との連携を密に行ってきた。その両者のアンケート結果と直接いただいた意見から、先生方が出張美術講座で学芸員に期待することの一部が浮かび上がってきた。

一つは、児童・生徒が鑑賞体験そのものや鑑賞した作品について理解した内容を言語で表現するために必要な「見方」や作品鑑賞のキーワードを提示し、言葉や文字に上手く結びつけること、もう一つは日本画や彫刻といったジャンルの授業を特に望んでいることである。今後、これらを念頭において、さらに充実した連携を行い、鑑賞指導者研修会や鑑賞教材開発に力を入れていく必要がある。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行われており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

（1）作家（現代）人名別ファイル（50音順）

（2）館蔵品資料（館蔵品番号順）

（3）出品作家資料（各企画展ごと）

（4）館蔵品収集に関わる資料（ジャンル別）

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

（1）館蔵品のフィルム

新収蔵品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による大型カメラでの写真撮影をおこなっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジを写真原板として受入番号順フォルダに入れ、キャビネットに整理収納している。また、既存の写真原板には経年変化による色の劣化が見られるものもあるので、予算の範囲内で劣化の激しいもの、使用頻度の高いものについては、再撮影を実施し新しい原板を作成した。

なお、昨今のデジタル写真主流化の流れを受け、ポジフィルムデューブ作業受注を取りやめたり、肝心のデューブ用フィルム（ラボフィルム）の製造を終了する業者・メーカーが出てきている。デジタルデータは利用至便なものであり、市場原理にしたがってそちらに資源を注力せざるを得ないのも理解できる。だが、銀塩写真も文化であり、将来これらの資源が利用できなくなるような事態に陥らないよう、関係業界の節度ある対応や文化政策上の配慮を望みたい。

（2）館蔵品のデジタル画像

コンピュータで利用できるように、平成7年度から館蔵品を撮影した4×5インチまたはブローニー判フィルムのフォトCD化を進めてきた。

平成16年度からは、新収蔵品およびフィルムが劣化した作品の再撮影の機会に、美術品写真の専門家に委託し、デジタルカメラによる直接撮影をおこなっている。作成または撮影されたデジタル画像は、課内メインPCに保存され、インターネット上での公開や各種広報物の作成、講演会や研究会などに活用されている。デジタル画像が作成されていない館蔵品もまだあり、それらの遡及撮影が懸案となっている。

（3）その他

館蔵品のほか寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、さまざまな形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料の整理は、ボランティアによる資料整理グループ「グループD」があたっていたが、ボランティアの組織改編により「資料整理グループ」がこれを引き継いでいる。

■展覧会資料の整理

企画展などの文書および資料については、各企画展ごとに整理がおこなわれ、キャビネットに収められている。

■コンピュータによる各種データ管理

館蔵品データベースや図書データなどのコンピュータ化は市販のデータベースソフト「桐」を使用し、以前より進められてきた。入力作業にはボランティア資料整理グループの支援をいただいている。新たに発生するデータについては、日常業務の延長線上にデータが整っていく方向に道筋を作っている。

（1）館蔵品

館蔵品の基本データと履歴データが入力されている。デジタル画像は主な作品については揃っているが、未作成の作品については順次整備をすすめる必要がある。

履歴データは5種（伝来、修復歴、展覧会出品歴、収蔵品展展示歴、文献掲載歴）のデータファイルで構成され、館蔵品受入番号をキーに基本データのファイルとリンク、さらに画像ファイルとリンクしている。新たに発生する履歴データについては、研究・修復・貸出・特別観覧等の諸業務と連携させ、それらの業務で作成されていくデジタルデータを移植している。

これらのデータの見直し作業や表記の統一などを随時実施、公開用フォーマットの検討をおこなった。データ公開へのコンテンツはほぼ整っているが、インターネット上での公開には検索エンジンの実装や著作権問題といった検討課題も多く、これらの解決と業界標準化が待たれる。

（2）図書

図書は基本的には手作業によって収集・受入・整理作業がおこなわれているが、データはデジタル化されている。

新規受入については、図書担当職員によるデータベース登録がおこなわれている。平成18年度以降、館内および図書閲覧室でのデジタル図書検索がおこなわれている。

博物館実習

当館は、静岡県唯一の県立博物館施設であることから、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。実習生の受入には、つぎの３つを条件とし、本年度は15大学20名の実習生を受け入れた。

（１）県内出身者もしくは県内の大学に在籍していること。

（２）美学美術史学、または美術教育・制作・政策等を専攻し、美術館で実習をおこなう合理的な理由があること。

（３）大学の推薦を受けていること。

当館の博物館実習は、実習生に直に美術館での経験の機会を提供するのみならず、社会の中での美術館の役割を理解し、将来の美術館界を支える一員としての素養を持ってもらうことを目指している。カリキュラムは見学・講義・実習からなり、それぞれを当館学芸課および総務課の職員が担当した。

本年度は昨年度に引き続いて「社会に支持される美術館とは」という総合テーマを設定し、現在の日本の美術館に期待されている社会の要請を実習を通じて学生に考えてもらうことを目指した。このテーマに沿って、当館以外の美術館の現状について調査した事前レポートの発表および実習後の成果をまとめた事後レポートの提出を義務づけ、学習効果の意識化と定着をはかった。

■実習内容

□講義

（1）静岡県立美術館の特徴[他館と比較した場合の特徴や個性についての総論]（学芸部長）

（2）コレクションの形成と収蔵品展の工夫[美術館の核となるコレクション形成の考え方とそれを紹介する収蔵品展の思想と実践について]（学芸課長）

（3）作品の管理・保全[作品の管理・保全について総論と当館での活動の実際]（村上）

（4）展覧会ができるまで-国内編[国内展覧会運営の実際を紹介]（堀切）

（5）展覧会ができるまで-海外編[海外との共同作業を伴う展覧会運営の実際を紹介]（学芸部長）

（6）展覧会ができるまで-現代編[現存作家との共同作業を伴う展覧会運営の実際を紹介]（川谷）

（7）教育普及活動-講座系[講座系の教育普及活動についてその狙いと実例を紹介]（堀切）

（8）教育普及活動-学校連携事業・実技系[学校連携事業や実技系の教育普及活動についてその狙いと実例を紹介]（岡崎）

（9）ボランティア・地域連携活動[ボランティア活動・運営の実際と地域との連携にまつわる実際について]（石上）

（10）美術館評価活動概要[美術館評価活動についての本質と総論]（泰井）

□実習

（1）作品の取扱実習:日本画（学芸課長・石上・福士）、油彩・版画（学芸部長・南・村上）について作品の物理的特性についての説明と実際の取扱研修

□演習

（1）課題発表と課題制作:事前課題の発表とプレゼンの仕方を学習するとともに、事後課題の準備をおこなう（村上）

（2）夏休み子どもワークショップ見学:実際のワークショップを見学するとともに運営補助を実体験（鈴木）

□見学

（1）収蔵庫見学:収蔵庫内の施設や環境について見学（村上・福士）

（2）施設見学:収蔵庫・展示室以外の美術館各部の構造や役割について見学（村上）

（3）埋蔵文化財調査研究所見学:他の文化財調査研究施設の仕事を見学し、美術館や博物館の運営について考える一助とする（村上）

■カリキュラム

[（1）10:00-10:50、（2）11:00-11:50、（3）13:00-13:50、（4）14:00-14:50、（5）15:00-15:50、（6）16:00-16:50]

8月3日（月）

（1）オリエンテーション（村上）

（2）静岡県立美術館の概要（学芸部長）

（3-6）課題発表、実習ノート整理（村上）

8月4日（火）

（1）施設見学・裏方側（村上）

（2）展覧会ができるまで-国内編（堀切）

（3）作品の管理・保全（村上）

（4）展覧会ができるまで-海外編（学芸部長）

（5）美術館評価活動概要（泰井）

（6）課題制作、実習ノート整理

8月5日（水）

（1）収蔵庫見学（村上・福士）

(2) 館内見学・表方側（自由見学）
(3-6) 埋蔵文化財調査研究所見学（村上）

8月6日（木）
(1) コレクションの形成と収蔵品展の工夫（学芸課長）
(2) ボランティア・地域連携活動（石上）
(3-5) 作品の取扱（学芸課長・石上・福士・学芸部長・南・村上）
(6) 課題制作、実習ノート整理

8月7日（金）
(1) 教育普及活動-講座系（堀切）
(2) 教育普及活動-学校連携事業・実技系（岡崎）
(3) 展覧会ができるまで-現代美術編（川谷）
(4-5) 夏休み子どもワークショップ見学（鈴木）
(6) 課題制作・実習ノート整理

収蔵品展

新収蔵品展を含め、当館の収蔵品を幅広くご覧いただくため、現代美術や日本画、日本洋画、西洋絵画等、ジャンルごとにテーマを設定して展示を構成した。

本館１階にあるエントランスの名品コーナーでは、常時３点の作品を無料でご覧いただいている。そのうち１点は、富士山を描いた絵画を展示することとしている。

ロダン館１階の第２展示室では、ロダンと関連するテーマ展示を年４回行った。

本年度の収蔵品展のラインナップはつぎの通りである。

■本館

３月31日（火）～５月15日（金）
新収蔵品展
５月26日（火）～７月５日（日）
体で感じるアート
７月７日（火）～９月６日（日）
クレーの時代の日本洋画
９月８日（火）～11月８日（日）
ランドスケープ・ペインティング［西洋編］

■ロダン館

７月７日（火）～９月６日（日）
現代日本の版画
９月８日（火）～10月12日（月・祝）
近代日本の版画
10月14日（水）～11月８日（日）
19世紀のフランス版画―ドラクロワ、コローなど―

■出品目録
p.114～p.115参照

移動美術展

静岡県立美術館・浜松市美術館合同企画

石田徹也展と静岡県ゆかりの画家

主　催：静岡県立美術館、浜松市美術館
共　催：静岡第一テレビ
協　力：ホテルコンコルド浜松
会　期：平成21年４月18日（土）～５月17日（日）

主　旨：

石田徹也は1973年に焼津市に生まれ。武蔵野美術大学を卒業後、現代社会を鋭く風刺する画風で注目され、新進気鋭の画家として頭角を現した。しかし2005年５月、踏切事故により不帰の人となった。没後、画集が発行され、またNHK「新日曜美術館」で大きく紹介されて、社会に大きな衝撃を与えた。各地で開催されている回顧展には、多くの来場者に大きな感銘を与え続けている。
本展は、生地静岡県の西部で開催される初めての回顧展である。静岡県立美術館に寄贈された代表作21点を中心に約70点を展示する。

またあわせて、「静岡県ゆかりの画家」をテーマに、県立美術館および浜松市美術館所蔵の名品約50点も展示し、ゴールデンウィークや浜松まつりで来場する多くの方々に、石田作品と美術鑑賞の機会を提供しようとするものである。

会期中イベント
・浜松市美術館学芸員による「石田徹也展ギャラリートーク」
　4/25（土）、5/2（土）、5/5（火）、5/6（水）、
　5/16（土）　各回午後２時～
・講演会「石田徹也の作品について」　講師：堀切正人（静岡県立美術館主任学芸員）
　4/26（日）午後２時～３時30分
・石田徹也《飛べなくなった人》をテーマにした親子対象のＷＳ
　5/3（日・祝）午後２時～４時
・「静岡県ゆかりの画家・ギャラリートーク」　講師：石上充代（静岡県立美術館学芸員）
　5/9（土）午後２時～
・県立美術館ボランティアによる「静岡県ゆかりの画家　ギャラリートーク」
　4/29（日・祝）、5/4（月・祝）、5/17（日）
　午後２時～、午後３時～　各回とも20分間

■関連記事

■出品目録
p.116～p.119を参照

▲チラシ

物語絵の世界
―静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる―

主　　催：静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島市教育委員会
後　　援：静岡県教育委員会
助　　成：三島信用金庫、(有) 沼津しらゆり
協　　賛：伊豆箱根鉄道株式会社
会　　期：平成22年１月５日（火）－２月14日（日）
開館時間：午前10時－午後５時（入館は４時30分まで）
休 館 日：毎週木曜日（２月11日は開館）
会　　場：佐野美術館
観 覧 料：一般・大学　700円　　小・中・高生　300円
　＊毎週土曜日は小中学生無料
　＊15名以上の団体は各２割引
観覧者数：4,624人

静岡県立美術館が改修工事のため、平成21年11月より22年３月まで休館することに伴い、収蔵作品の展示機会を確保するため、特別に開催された移動美術展で、佐野美術館との共同企画となった。県立美術館収蔵の日本画作品を中心に、佐野美術館所蔵品を加えて、「物語絵」をテーマに展観した。普通の移動展では作品保全の点から展示できない池大雅《龍山勝会・蘭亭曲水図屏風》（重要文化財）などの名品を含め、以下の展示構成により物語絵の世界を紹介した。

展示構成
Ⅰ．時代を動かした俊英たち～日本の歴史物語
Ⅱ．仙境に遊ぶ文人たち～中国の故事
Ⅲ．やまと心をつむぐ王朝人たち～日本の王朝文学
Ⅳ．人生を語る主人公たち～中国の公話・訓話

■関連事業
・連続講座「物語絵の世界～県立美術館日本画コレクションから」　佐野美術館講堂
　第１回目/１月11日（月祝）14:00～
　　「池大雅と江戸絵画」飯田真（当館学芸課長）
　第２回目/１月31日（日）14:00～
　　「近代日本画における物語」石上充代（当館学芸員）
　第３回目/２月11日（木祝）14:00～
　　「狩野派の絵画を中心に」福士雄也（当館学芸員）
・解説ボランティアのギャラリートーク
　会期中毎週水・土・日曜日（１月30日を除く）
　11:00～／14:00～　展示室
・共同授業「ミニチュアマイ屏風をつくろう」
　三島市立北中学校1年（208名）
　三島市立中郷西中学校１年（109名）
　三島市立南中学校１年（167名）
　（１月に鑑賞授業実施の後、制作を行い、その成果を２月20日～４月５日まで佐野美術館ロビーに展示した。）

■出品目録
p.120～p.121を参照

静岡県立美術館コレクション
日本画にみる風景
―富士を愛でる　山水から風景画へ―

主　　催：静岡県立美術館、掛川市二の丸美術館
会　　期：平成22年２月20日（土）－３月28日（日）
開館時間：午前９時－午後５時（入館は４時30分まで）
休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）
会　　場：掛川市二の丸美術館
観 覧 料：一般　　200円（160円）
　　小中学生　100円（80円）
　＊（　）内は20名以上の団体割引料金
観覧者数：4,540人

静岡県立美術館が改修工事のため、平成21年11月より22年３月まで休館することに伴い、収蔵作品の展示機会を確保するため、特別に開催された移動美術展で、掛川市二の丸美術館との共同企画となった。県立美術館収蔵の日本画作品を、「風景」をテーマに展観した。展示構成は以下のとおりで、２月23日の「富士山の日」制定にあわせ、「富士山の日制定記念」事業とした。

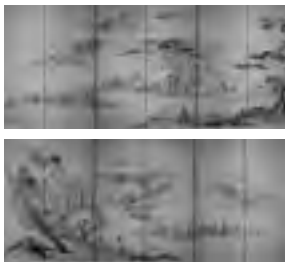
展示構成
Ⅰ．富士を愛でる
Ⅱ．山水から風景画へ

■関連事業
・展示解説　３月６日（土）14:00～
　飯田真（当館学芸課長）　展示室
・共同出張美術講座
　掛川市立曽我小学校　２月10日
　（事前授業を行い、その成果を会期中会場廊下に展示した。）

■出品目録
p.122～p.123を参照

平成21年度　新収蔵品

当館は、以下に挙げる５項目を収集方針としている。
①17世紀以降、日本と西欧で制作された風景画の収集に努める。
②ロダンを中心とした内外の近代以降の彫刻作品の収集に努める。
③20世紀以降の美術の動向を示す美術作品の収集に努める。
④静岡県ゆかりの作家、作品の収集に努める。
⑤富士山をモチーフにした作品の収集に努める。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
1	日本画	久隈守景	蘭亭曲水図屏風	17世紀（江戸前期）	紙本墨画淡彩六曲一双屏風	各153.6×357.6	購入	表情ゆたかな人物表現が魅力。余白を広く取り墨の濃淡によって空間の広がりを表す。気品を保ちつつ、伝統的な主題を斬新な手法で表現。 
2	日本画		武蔵野図屏風	17世紀（江戸前期）	紙本金地着色六曲一双屏風	右隻155.6×356.8 左隻155.6×354.8	購入	秋野と月、富士山を組み合わせて描く装飾的な作品。武蔵野の和歌のイメージを絵画化したこの図様は、江戸時代に隆盛し多くの類作を生んだ。本作はその中でも初発的な雰囲気をもつ優品。
3	日本画	狩野永岳	四季耕作図屏風	19世紀（江戸後期）	紙本金地着色六曲一双屏風	各163.5×357.4	購入	鮮やかな色彩対比や細やかな細部描写により四季の農耕の様子を生き生きと表現。永岳の特徴をよく示し、現存作品中屈指の出来映えをみせる。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
4	油彩	中村宏	車窓篇 TYPE 4	1977(昭和52)－1990(平成２)	キャンヴァス、油彩	130×162	中村宏氏寄贈	静岡県浜松市出身で、戦後の日本現代美術の牽引者の一人。窓と絵画の関係から絵画の構造を検証する「車窓篇」シリーズのひとつ。
5	油彩	中村宏	早来迎機・1	1988(昭和63)	キャンヴァス、アクリル	112×162	中村宏氏寄贈	1980年代後半から始まった「タブロー機械」シリーズを展開したもの。機関車の動輪、プロペラ、阿弥陀如来などのメタファーを用いながら、絵画と窓の構造検証に運動の問題を付加。
6	油彩	中村宏	鉄道ダイヤグラムE	2000(平成12)	キャンヴァス、アクリル	116.7×241.0	中村宏氏寄贈	鉄道の運行表を図式化したダイヤグラムをもとに、理知的かつ造形的な絵画検証が試みられている。
7	油彩	正木隆	狭山９月	1999(平成11)	綿布、油彩	180×260	正木建治氏寄贈	新進気鋭の画家として期待されたが、自死した。幾層にも塗り重ねられた濃紺の背景に、モチーフが白くぽつりと浮かぶ。現代社会における疎外された人間関係を想起させる。
8	油彩	正木隆	造形01－14	2001(平成13)	綿布、油彩	163.5×227.5	正木建治氏寄贈	多くの人が暮らしながらも人間関係が希薄である集合団地は、作家が生まれ育った昭和時代の象徴でもある。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
								独自のアクアチントを主体に制作する希少な銅版画家。アクアチント独自の柔らかな諧調を生かし、音楽とのアナロジーを感じさせる静謐で詩情豊かな作風が特徴である
9	版画	二見彰一	遠い国	1969(昭和44)	紙、アクアチント	31.7×22.5	二見彰一氏寄贈	
10	版画	二見彰一	オウバード	1969(昭和44)	紙、アクアチント	30.5×21.0	二見彰一氏寄贈	
11	版画	二見彰一	星の対話	1969(昭和44)	紙、アクアチント	29.9×21.5	二見彰一氏寄贈	
12	版画	二見彰一	透明な時間	1969(昭和44)	紙、アクアチント	23.3×30.4	二見彰一氏寄贈	
13	版画	二見彰一	海のうた	1969(昭和44)	紙、アクアチント	22.9×15.6	二見彰一氏寄贈	
14	版画	二見彰一	夏の終り	1969(昭和44)	紙、アクアチント	21.9×15.0	二見彰一氏寄贈	
15	版画	二見彰一	ソナチネ	1969(昭和44)	紙、アクアチント	25.4×18.0	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
16	版画	二見彰一	ミクロドラマ	1969(昭和44)	紙、アクアチント	23.6×31.5	二見彰一氏寄贈	
17	版画	二見彰一	宇宙へのプレリュード	1969(昭和44)	紙、アクアチント、メゾチント	31.7×19.7	二見彰一氏寄贈	
18	版画	二見彰一	時の窓	1969(昭和44)	紙、アクアチント	25.1×17.7	二見彰一氏寄贈	
19	版画	二見彰一	パントマイム	1969(昭和44)	紙、アクアチント	22.7×17.1	二見彰一氏寄贈	
20	版画	二見彰一	ラウンドミッドナイト	1969(昭和44)	紙、アクアチント	22.8×15.8	二見彰一氏寄贈	
21	版画	二見彰一	五月の歌	1969(昭和44)	紙、アクアチント	16.0×22.3	二見彰一氏寄贈	
22	版画	二見彰一	グリーンポイント(1)	1969(昭和44)	紙、アクアチント	22.3×15.8	二見彰一氏寄贈	
23	版画	二見彰一	グリーンポイント(2)	1970(昭和45)	紙、アクアチント	32.6×19.0	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
24	版画	二見彰一	バルトークの部屋	1970(昭和45)	紙、アクアチント	24.2×30.0	二見彰一氏寄贈	
25	版画	二見彰一	贈られた朝	1970(昭和45)	紙、アクアチント、メゾチント	23.0×29.0	二見彰一氏寄贈	
26	版画	二見彰一	孤独の祭	1970(昭和45)	紙、アクアチント	32.1×22.8	二見彰一氏寄贈	
27	版画	二見彰一	クレーの扉	1970(昭和45)	紙、アクアチント	22.7×18.0	二見彰一氏寄贈	
28	版画	二見彰一	時の兆し	1971(昭和46)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	31.5×17.9	二見彰一氏寄贈	
29	版画	二見彰一	心の部屋	1971(昭和46)	紙、アクアチント、デカルコマニー	26.2×26.5	二見彰一氏寄贈	
30	版画	二見彰一	深海のエピソード	1971(昭和46)	紙、アクアチント	24.5×30.0	二見彰一氏寄贈	
31	版画	二見彰一	祈り	1971(昭和46)	紙、アクアチント	28.7×20.6	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
32	版画	二見彰一	海への道	1971(昭和46)	紙、アクアチント	28.8×23.1	二見彰一氏寄贈	
33	版画	二見彰一	夏の朝	1971(昭和46)	紙、アクアチント、デカルコマニー	28.1×22.8	二見彰一氏寄贈	
34	版画	二見彰一	夜のかおり	1971(昭和46)	紙、アクアチント	21.9×17.7	二見彰一氏寄贈	
35	版画	二見彰一	狂えるオフーリア	1972(昭和47)	紙、アクアチント	24.7×15.3	二見彰一氏寄贈	
36	版画	二見彰一	悲しみのオフーリア	1972(昭和47)	紙、アクアチント	24.8×15.4	二見彰一氏寄贈	
37	版画	二見彰一	深夜の羽化	1972(昭和47)	紙、アクアチント	24.9×15.0	二見彰一氏寄贈	
38	版画	二見彰一	朝のコラール	1972(昭和47)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	31.5×22.5	二見彰一氏寄贈	
39	版画	二見彰一	とぎれたフーガ	1972(昭和47)	紙、アクアチント	32.0×20.0	二見彰一氏寄贈	

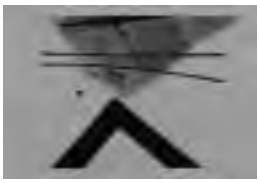
No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
40	版画	二見彰一	遠くを見る眼	1972(昭和47)	紙、アクアチント	31.6×22.4	二見彰一氏寄贈	
41	版画	二見彰一	聖堂にて	1972(昭和47)	紙、アクアチント	32.5×20.0	二見彰一氏寄贈	
42	版画	二見彰一	風の中のオルフェウス	1972(昭和47)	紙、アクアチント	31.5×22.4	二見彰一氏寄贈	
43	版画	二見彰一	青い夏	1972(昭和47)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	22.9×32.4	二見彰一氏寄贈	
44	版画	二見彰一	予期せぬドラマ	1972(昭和47)	紙、アクアチント、デカルコマニー	29.5×23.8	二見彰一氏寄贈	
45	版画	二見彰一	ユーモラスな告白	1972(昭和47)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング、デカルコマニー	26.7×25.9	二見彰一氏寄贈	
46	版画	二見彰一	ヘカティの花	1973(昭和48)	紙、アクアチント、デカルコマニー	32.3×22.7	二見彰一氏寄贈	
47	版画	二見彰一	ノクチュルヌ	1973(昭和48)	紙、アクアチント、デカルコマニー	33.7×20.0	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
48	版画	二見彰一	凍れる光	1973(昭和48)	紙、アクアチント	31.7×21.8	二見彰一氏寄贈	
49	版画	二見彰一	リストとともに	1973(昭和48)	紙、アクアチント	28.1×24.4	二見彰一氏寄贈	
50	版画	二見彰一	ヴェガから来た花	1973(昭和48)	紙、アクアチント、デカルコマニー	31.8×22.4	二見彰一氏寄贈	
51	版画	二見彰一	海の神話	1973(昭和48)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	31.2×22.5	二見彰一氏寄贈	
52	版画	二見彰一	ながい夜	1973(昭和48)	紙、アクアチント	24.4×28.2	二見彰一氏寄贈	
53	版画	二見彰一	旅の感傷	1973(昭和48)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング、デカルコマニー	26.7×25.9	二見彰一氏寄贈	
54	版画	二見彰一	かなしいたより	1973(昭和48)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング、リフトグランドエッチング	24.3×15.9	二見彰一氏寄贈	
55	版画	二見彰一	デネブへの帰還	1974(昭和49)	紙、アクアチント、デカルコマニー	34.6×17.6	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
56	版画	二見彰一	不安な夜(2)	1974(昭和49)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	29.4×21.0	二見彰一氏寄贈	
57	版画	二見彰一	期待と不安への告知(2)	1975(昭和50)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	30.0×21.0	二見彰一氏寄贈	
58	版画	二見彰一	敬虔な夜への記憶(2)	1975(昭和50)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	32.4×20.0	二見彰一氏寄贈	
59	版画	二見彰一	秋の手に	1975(昭和50)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	29.6×20.8	二見彰一氏寄贈	
60	版画	二見彰一	聖なる予感	1975(昭和50)	紙、アクアチント	31.1×21.5	二見彰一氏寄贈	
61	版画	二見彰一	青い椅子	1975(昭和50)	紙、アクアチント	31.0×19.6	二見彰一氏寄贈	
62	版画	二見彰一	海への回帰	1976(昭和51)	紙、アクアチント	30.1×21.2	二見彰一氏寄贈	
63	版画	二見彰一	ひそやかな誕生	1976(昭和51)	紙、アクアチント	29.6×21.0	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
64	版画	二見彰一	寓話の部屋(1)	1976(昭和51)	紙、アクアチント	41.9×31.0	二見彰一氏寄贈	
65	版画	二見彰一	寓話の部屋(2)	1976(昭和51)	紙、アクアチント	43.1×29.1	二見彰一氏寄贈	
66	版画	二見彰一	青い夜のモニュメント	1977(昭和52)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	32.4×20.0	二見彰一氏寄贈	
67	版画	二見彰一	凍ったモニュメント	1977(昭和52)	紙、アクアチント	29.5×21.0	二見彰一氏寄贈	
68	版画	二見彰一	風がささやく	1977(昭和52)	紙、アクアチント	24.2×16.7	二見彰一氏寄贈	
69	版画	二見彰一	星の道程	1978(昭和53)	紙、アクアチント	32.1×22.5	二見彰一氏寄贈	
70	版画	二見彰一	青い飛行	1978(昭和53)	紙、アクアチント、ラインエッチング	32.2×22.3	二見彰一氏寄贈	
71	版画	二見彰一	青い虹	1978(昭和53)	紙、アクアチント	33.6×21.6	二見彰一氏寄贈	

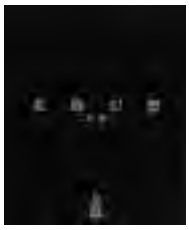
No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
72	版画	二見彰一	花のコラール	1979(昭和54)	紙、アクアチント	27.4×33.7	二見彰一氏寄贈	
73	版画	二見彰一	青いメヌエット	1979(昭和54)	紙、アクアチント	27.3×33.4	二見彰一氏寄贈	
74	版画	二見彰一	あたらしい星	1979(昭和54)	紙、アクアチント	27.3×33.5	二見彰一氏寄贈	
75	版画	二見彰一	薔薇と予感	1980(昭和55)	紙、アクアチント	32.1×19.9	二見彰一氏寄贈	
76	版画	二見彰一	FIVE POINTS	1980(昭和55)	紙、アクアチント	28.3×23.0	二見彰一氏寄贈	
77	版画	二見彰一	青いホルン(夜)	1981(昭和56)	紙、アクアチント	29.6×23.5	二見彰一氏寄贈	
78	版画	二見彰一	Space Focus(1)	1982(昭和57)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	28.4×18.3	二見彰一氏寄贈	
79	版画	二見彰一	凍った海(1)	1982(昭和57)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	22.5×17.4	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
80	版画	二見彰一	Space Focus(2)	1982(昭和57)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	18.6×27.2	二見彰一氏寄贈	
81	版画	二見彰一	凍ったつぼみ	1982(昭和57)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	22.3×16.3	二見彰一氏寄贈	
82	版画	二見彰一	夜への扉	1983(昭和58)	紙、アクアチント	31.7×23.3	二見彰一氏寄贈	
83	版画	二見彰一	舞う音 (1)	1983(昭和58)	紙、アクアチント	24.7×31.2	二見彰一氏寄贈	
84	版画	二見彰一	もう一度バッハを	1983(昭和58)	紙、アクアチント	23.0×33.7	二見彰一氏寄贈	
85	版画	二見彰一	エメラルドの夜(2)	1984(昭和59)	紙、アクアチント	33.1×25.1	二見彰一氏寄贈	
86	版画	二見彰一	舞う音(2)	1984(昭和59)	紙、アクアチント	25.5×30.4	二見彰一氏寄贈	
87	版画	二見彰一	映る夏	1985(昭和60)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	24.0×30.3	二見彰一氏寄贈	

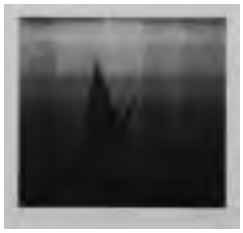
No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
88	版画	二見彰一	風のかたみ	1986(昭和61)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	26.6×34.6	二見彰一氏寄贈	
89	版画	二見彰一	風の対話	1986(昭和61)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	34.6×24.9	二見彰一氏寄贈	
90	版画	二見彰一	ヴェネツィアの風	1986(昭和61)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	23.0×31.4	二見彰一氏寄贈	
91	版画	二見彰一	海のホルン	1986(昭和61)	紙、アクアチント	23.6×32.7	二見彰一氏寄贈	
92	版画	二見彰一	コンサートへの招待(1)	1988(昭和63)	紙、アクアチント	35.8×18.2	二見彰一氏寄贈	
93	版画	二見彰一	薔薇のベクトル	1988(昭和63)	紙、アクアチント	24.0×28.7	二見彰一氏寄贈	
94	版画	二見彰一	ホルンのユモレスク	1989(平成元)	紙、アクアチント	32.0×23.0	二見彰一氏寄贈	
95	版画	二見彰一	サウンド・コンビネーション	1989(平成元)	紙、アクアチント	22.2×31.4	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
96	版画	二見彰一	バッハとジャズと	1989(平成元)	紙、アクアチント	23.0×32.3	二見彰一氏寄贈	
97	版画	二見彰一	青のトリオ	1990(平成2)	紙、アクアチント	22.3×29.1	二見彰一氏寄贈	
98	版画	二見彰一	ハープのために	1991(平成3)	紙、アクアチント	23.0×30.0	二見彰一氏寄贈	
99	版画	二見彰一	風の城	1991（平成3）	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	28.9×17.8	二見彰一氏寄贈	
100	版画	二見彰一	弦のアリア	1991(平成3)	紙、アクアチント	21.7×33.7	二見彰一氏寄贈	
101	版画	二見彰一	はばたくロンド	1992(平成4)	紙、アクアチント、コラージュ	22.0×31.8	二見彰一氏寄贈	
102	版画	二見彰一	カデンツァ・メランコリー	1993(平成5)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	22.0×30.1	二見彰一氏寄贈	
103	版画	二見彰一	プラネットから(2)	1994(平成6)	紙、アクアチント	26.0×20.0	二見彰一氏寄贈	

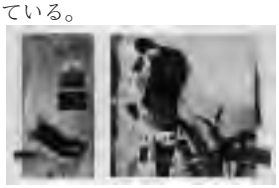
No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
104	版画	二見彰一	ふたつのホルンのために(1)	1994(平成6)	紙、アクアチント	19.6×29.1	二見彰一氏寄贈	
105	版画	二見彰一	流れのバラード	1995(平成7)	紙、アクアチント	19.5×224.9	二見彰一氏寄贈	
106	版画	二見彰一	水辺のバラード	1995(平成7)	紙、アクアチント	19.3×25.2	二見彰一氏寄贈	
107	版画	二見彰一	地平へ(1)	1997(平成9)	紙、アクアチント	23.7×29.0	二見彰一氏寄贈	
108	版画	二見彰一	波のフーガ(1)	1998(平成10)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング、コラージュ	22.9×30.6	二見彰一氏寄贈	
109	版画集『コーヒー・クインテット』							
109-1	版画	二見彰一	扉絵	1979(昭和54)	紙、ラインエッチング	7.1×5.5	二見彰一氏寄贈	
109-2	版画	二見彰一	コーヒーを前に	1979(昭和54)	紙、アクアチント	9.5×4.5	二見彰一氏寄贈	
109-3	版画	二見彰一	ウィーンのカフェ	1979(昭和54)	紙、アクアチント	8.8×7.8	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
109-4	版画	二見彰一	朝のカフェオレ	1979(昭和54)	紙、アクアチント	12.2×10.4	二見彰一氏寄贈	
109-5	版画	二見彰一	コーヒーブレイク	1979(昭和54)	紙、アクアチント	9.3×14.3	二見彰一氏寄贈	
109-6	版画	二見彰一	コーヒーミステリー	1979(昭和54)	紙、アクアチント	15.3×11.0	二見彰一氏寄贈	
110	版画集『北欧幻想』							
110	版画	二見彰一	版画集『北欧幻想』	1982(昭和57)			二見彰一氏寄贈	
110-1	版画	二見彰一	星のメッセージ	1982(昭和57)	紙、アクアチント	10.0×6.1	二見彰一氏寄贈	
110-2	版画	二見彰一	虹と薔薇	1997(平成9)	紙、アクアチント	9.6×6.4	二見彰一氏寄贈	
110-3	版画	二見彰一	ひそやかな贈物	1982(昭和57)	紙、アクアチント	8.9×7.3	二見彰一氏寄贈	
110-4	版画	二見彰一	朝のひかり	1982(昭和57)	紙、アクアチント	10.0×7.0	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
110-5	版画	二見彰一	空のゲーム	1982(昭和57)	紙、アクアチント	8.5×8.4	二見彰一氏寄贈	
110-6	版画	二見彰一	短い夏	1982(昭和57)	紙、アクアチント	9.6×8.0	二見彰一氏寄贈	
110-7	版画	二見彰一	きまぐれな季節	1982(昭和57)	紙、アクアチント	9.4×9.5	二見彰一氏寄贈	
110-8	版画	二見彰一	秋のたより	1982(昭和57)	紙、アクアチント	10.2×6.4	二見彰一氏寄贈	
110-9	版画	二見彰一	凍ったつぼみ	1982(昭和57)	紙、アクアチント、デカルコマニー	7.7×7.6	二見彰一氏寄贈	
110-10	版画	二見彰一	北の国のピラミッド	1982(昭和57)	紙、アクアチント	9.0×8.9	二見彰一氏寄贈	
111 版画集『海から』								
111-1	版画	二見彰一	扉	1989(平成元)	紙、アクアチント	5.4×4.5	二見彰一氏寄贈	
111-2	版画	二見彰一	海の音	1989(平成元)	紙、アクアチント	11.9×11.8	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
111-3	版画	二見彰一	浜辺にて	1989(平成元)	紙、アクアチント	11.9×11.9	二見彰一氏寄贈	
111-4	版画	二見彰一	海べのひかり	1989(平成元)	紙、アクアチント、ディープエッチング	11.7×11.9	二見彰一氏寄贈	
111-5	版画	二見彰一	海の生物	1989(平成元)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	11.9×11.7	二見彰一氏寄贈	
111-6	版画	二見彰一	深海魚	1989(平成元)	紙、アクアチント	12.0×12.0	二見彰一氏寄贈	
111-7	版画	二見彰一	地底の眠り	1989(平成元)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	11.8×12.2	二見彰一氏寄贈	
111-8	版画	二見彰一	北海帆走	1989(平成元)	紙、アクアチント	11.8×12.7	二見彰一氏寄贈	
111-9	版画	二見彰一	海のヴァイオリン	1989(平成元)	紙、アクアチント	12.3×12.0	二見彰一氏寄贈	
111-10	版画	二見彰一	ノーチラス	1989(平成元)	紙、アクアチント	11.9×12.0	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
111-11	版画	二見彰一	海の胎生	1989(平成元)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	11.5×10.0	二見彰一氏寄贈	
112	版画集『お茶のひととき』							
112-1	版画	二見彰一	版画集『お茶のひととき』	1994(平成6)		26.5×20.0	二見彰一氏寄贈	
112-2	版画	二見彰一	はじめに	1994(平成6)	紙、ラインエッチング、アクアチント	7.9×6.1	二見彰一氏寄贈	
112-3	版画	二見彰一	茶の本	1994(平成6)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	10.3×7.2	二見彰一氏寄贈	
112-4	版画	二見彰一	サイコロジー	1994(平成6)	紙、アクアチント	9.3×8.0	二見彰一氏寄贈	
112-5	版画	二見彰一	ティーをめぐって	1994(平成6)	紙、アクアチント	11.6×8.1	二見彰一氏寄贈	
112-6	版画	二見彰一	禅と日本文化	1994(平成6)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	10.5×7.6	二見彰一氏寄贈	
112-7	版画	二見彰一	アイルランド日記	1994(平成6)	紙、アクアチント、ソフトグランドエッチング	12.0×8.6	二見彰一氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
113	版画	柳澤紀子	水邊の庭Ⅰ	1998(平成10)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	60.0×105.0	柳澤紀子氏寄贈	静岡県浜松市出身、駒井哲郎に版画を学ぶ。「水邊の庭」シリーズは代表作。詩人吉増剛造との交流から制作され、身体をモチーフに、水、自然、文明、人間の関わりを模索している。 
114	版画	柳澤紀子	水邊の庭Ⅱ	2005(平成17)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	50.0×102.0	柳澤紀子氏寄贈	
115	版画	柳澤紀子	水邊の庭Ⅲ	1999(平成11)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	62.0×107.0	柳澤紀子氏寄贈	
116	版画	柳澤紀子	水邊の庭Ⅳ	1999(平成11)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	62.0×107.0	柳澤紀子氏寄贈	
117	版画	柳澤紀子	水邊の庭Ⅴ	2000(平成12)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	62.5×108.0	柳澤紀子氏寄贈	
118	版画	柳澤紀子	水邊の庭Ⅵ	2000(平成12)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	65.0×105.0	柳澤紀子氏寄贈	
119	版画	柳澤紀子	水邊の庭Ⅶ	2002(平成14)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	50.0×102.0	柳澤紀子氏寄贈	
120	版画	柳澤紀子	水邊の庭Ⅷ	2002(平成14)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	50.0×102.0	柳澤紀子氏寄贈	
121	版画	柳澤紀子	水邊の庭Ⅸ	2003(平成15)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	102.5×50.0	柳澤紀子氏寄贈	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
122	版画	柳澤紀子	水邊の庭X	2003(平成15)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	50.0×102.0	柳澤紀子氏寄贈	
123	彫刻	小谷元彦	SP1'Beginning'（The Whorl of Lanugo 01)	2007(平成19)	アルミニウム鋳造、鉛、パール塗料	93×93×10	太田正樹氏寄贈	胎児の産毛や皮膚の表面の蝕感が、鋳造された針で表されている。痛み、不安、皮膚感覚から彫刻の原点を探ろうとするシリーズのひとつ。
124	彫刻	小谷元彦	SP1'Beginning'（The Whorl of Lanugo 02)	2007(平成19)	アルミニウム鋳造、鉛、パール塗料	93×93×10	太田正樹氏寄贈	
125	彫刻	小谷元彦	SP1'Beginning'（The Whorl of Lanugo 03)	2007(平成19)	アルミニウム鋳造、鉛、パール塗料	93×93×10	太田正樹氏寄贈	
126	ミクスト・メディア	柳澤紀子	水邊の庭Ⅰ'01	2001(平成13)	ミクストメディア（トレッシングペーパー、ワトソン紙、鉛筆、日本画顔料、版画、アクリルカラー、木炭、羽毛、針金、和紙）	210.0×210.0	柳澤紀子氏寄贈	版画、雁皮紙の断片、色鉛筆で塗り込められた色面など、様々な素材、技法が多声的な響きを奏でる。それは身体が多様な現象の場であることを観者に思わせる。

■収蔵点数一覧　(平成21年度末現在)

購入作品数　　(百万円)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計	
											点数	金額
55						5					5	74
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287
57	9	5	3		3	2					22	563
58	10	6	2	1	60		1				80	483
59	3	10			27		2				42	597
60	7	10	2		5		11				35	669
61	4	4	1		16		2				27	240
62	3	6			85		2				96	242
63	5	3			1		7				16	499
元	5	2			3		3		33		46	392
2	2	1		3	43		5		13		67	598
3	1	8	2		268		9				288	675
4	3	4			4		12				23	768
5	5	3	2		68		13			3	94	557
6	8	8	1		27		1			4	49	395
7	4	8	1	1	152						166	397
8	3	2	4							4	13	137
9	5	4	1		2						12	146
10	5	4	1		52						62	120
11	4	3	2		37						46	88
12	1	3	2							1	7	46
13	2	1	1		9		1				14	39
14	3	4	1		9						17	45
15	7	2									9	52
16	3	2			60		1				66	56
17	2				22					7	31	41
18			2				2				4	6
19		1								1	2	30
20	1	1			1						3	13
21	1										1	20
合計 点数	120	119	32	12	1,012	7	75	1	46	20	1,444	
合計 金額	1,672	2,824	311	68	356	80	2,811	3	8	142		8,275

寄贈作品数　　（作品数）

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合　計
55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5					0						0
6					1						1
7					0						0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
計	201	90	19	93	246	340	8	8	11	53	1,069

管理換作品数　9　（H 22. 3 .31現在）

図書資料の収集・整理

■収集

平成21年度の新たな受入により、当館蔵書は80,940冊となった。その累計内訳は、刊行図書36,945冊、美術雑誌20,285冊、美術館等刊行物23,710冊である（データのデジタル化による冊数表記の改定については、平成18年度年報を参照されたい)。

また、各地の美術館等との図書交換（海外含む）により、展覧会図録の収集も継続して進んでいる。

■分類・整理

平成21年度に行なった作業は、以下のとおりである。

①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、コンピューターに入力、配架した。

②分類表の改定

必要に応じて分類表の部分改定を行なった。

③誤分類の訂正

分類に誤りのあった受入図書に関しては、データを訂正し、配架場所を改めた。

④定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、コンピューターに入力後、配架した。

■閲覧

当館には、来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を開架して、自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。平成18年度より、閲覧室に 2 台のパソコンを設置し、デジタル図書データを用いた図書検索ができるようになった。利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧可能である。

平成21年度の利用者は3,728人で、昨年度より1,345人減少した。これは、11月 9 日から 3 月31日までの工事休館に伴い閉室したためである。

館蔵品の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
1	伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風	栃木県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「朝鮮王朝の絵画　宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」	仙台市博物館（4/17-5/24）	08/10/23-09/7/22
2	狩野栄信	月夜葡萄図屏風	栃木県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「朝鮮王朝の絵画　宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」	仙台市博物館（4/17-5/24）	08/10/23-09/7/22
3	伊藤若冲	白象群獣図	栃木県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「朝鮮王朝の絵画　宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」	仙台市博物館（4/17-5/24）	08/10/23-09/7/22
4	伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風	栃木県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「朝鮮王朝の絵画　宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」	岡山県立美術館（6/5-7/12）	08/10/23-09/7/22
5	狩野栄信	月夜葡萄図屏風	栃木県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「朝鮮王朝の絵画　宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」	岡山県立美術館（6/5-7/12）	08/10/23-09/7/22
6	伊藤若冲	白象群獣図	栃木県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「朝鮮王朝の絵画　宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」	岡山県立美術館（6/5-7/12）	08/10/23-09/7/22
7	横山大観	群青富士	メナード美術館、小牧市、中日新聞社	「横山大観展」	メナード美術館（9/19-11/3）	9/9-11/13
8	ファン・グリス	果物皿と新聞	横浜美術館、北海道立近代美術館、日本テレビ放送網株式会社、札幌テレビ放送株式会社	「セザンヌ主義－父と呼ばれた画家への礼賛」展	北海道立近代美術館（2/7-4/12）	08/11/5-09/4/22
9	ポール・セザンヌ	ジャ・ド・ブーファンの大樹	横浜美術館、北海道立近代美術館、日本テレビ放送網株式会社、札幌テレビ放送株式会社	「セザンヌ主義－父と呼ばれた画家への礼賛」展	北海道立近代美術館（2/7-4/12）	1/28-4/22
10	五姓田芳柳（二代）	新潟　信濃川	新潟市歴史博物館	「五姓田GOSEDA－明治新潟の人々を描き遺した絵師－」展	新潟市歴史博物館（4/25-6/7）	4/15-6/17
11	竹内栖鳳	揚州城外	明石市立文化博物館、明石市、神戸新聞社	「日本画－描かれた日本の心－文化勲章受賞の巨匠38人による」展	明石市立文化博物館（4/4-5/10）	3/21-6/14
12	中村岳陵	残照	明石市立文化博物館、明石市、神戸新聞社	「日本画－描かれた日本の心－文化勲章受賞の巨匠38人による」展	明石市立文化博物館（4/4-5/10）	3/21-6/14
13	竹内栖鳳	揚州城外	駿府博物館、静岡新聞社・静岡放送	「日本画－描かれた日本の心－文化勲章受賞の巨匠38人による」展	駿府博物館（5/14-6/14）	5/14-6/24
14	中村岳陵	残照	駿府博物館、静岡新聞社・静岡放送	「日本画－描かれた日本の心－文化勲章受賞の巨匠38人による」展	駿府博物館（5/14-6/14）	5/14-6/24
15	中村岳陵	磯	駿府博物館、静岡新聞社・静岡放送	「日本画－描かれた日本の心－文化勲章受賞の巨匠38人による」展	駿府博物館（5/14-6/14）	5/14-6/24
16	中村岳陵	磯	高岡市美術館、北日本新聞社	「日本画－描かれた日本の心－文化勲章受賞の巨匠38人による」展	高岡市美術館（6/18-7/20）	6/6-7/30
17	狩野山雪	富士三保松原図	府中市美術館	「山水に遊ぶ－江戸絵画の風景250年」展	府中市美術館（3/20-5/10）	3/10-5/20
18	山本探川	宇津の山図	府中市美術館	「山水に遊ぶ－江戸絵画の風景250年」展	府中市美術館（3/20-5/10）	3/10-5/20
19	原在沖	富士三保松原図	府中市美術館	「山水に遊ぶ－江戸絵画の風景250年」展	府中市美術館（3/20-5/10）	3/10-5/20
20	岸駒	芙蓉峰図	府中市美術館	「山水に遊ぶ－江戸絵画の風景250年」展	府中市美術館（3/20-5/10）	3/10-5/20

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
21	中林竹洞	神洲奇観	府中市美術館	「山水に遊ぶ－江戸絵画の風景250年」展	府中市美術館（3/20-5/10）	3/10-5/20
22	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女	名古屋ボストン美術館、ボストン美術館、ＮＨＫ名古屋放送局	「ゴーギャン展」	名古屋ボストン美術館（4/18-6/21）	4/8-10/3
23	ポール・ゴーギャン	オヴィリ	名古屋ボストン美術館、ボストン美術館、ＮＨＫ名古屋放送局	「ゴーギャン展」	名古屋ボストン美術館（4/18-6/21）	4/8-10/3
24	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女	東京国立近代美術館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション	「ゴーギャン展」	東京国立近代美術館（7/3-9/23）	4/8-10/3
25	ポール・ゴーギャン	オヴィリ	東京国立近代美術館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション	「ゴーギャン展」	東京国立近代美術館（7/3-9/23）	4/8-10/3
26	村上華岳	春峰晴煙図	東京都美術館、美術館連絡協議会	「日本の美術館名品展」	東京都美術館（4/25-7/5）	4/15-7/15
27	アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼い	島根県立美術館、横浜美術館、日本経済新聞社	「フランス絵画の19世紀　美をめぐる100年のドラマ」展	島根県立美術館（3/6-5/31）	2/24-9/10
28	アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼い	島根県立美術館、横浜美術館、日本経済新聞社	「フランス絵画の19世紀　美をめぐる100年のドラマ」展	横浜美術館（6/12-8/31）	2/24-9/10
29	鈴木松年	日本武尊・素戔嗚尊	奈良県立美術館	「神話－日本美術の想像力」展	奈良県立美術館（10/24-12/24）	10/14-10/1/3
30	武内鶴之助	紀州瀞峡	和歌山県立近代美術館	「描かれた紀伊山地の霊場と参詣道」展	和歌山県立近代美術館（11/3-12/6）	10/24-12/16
31	鹿子木竹孟郎	紀州勝浦	和歌山県立近代美術館	「描かれた紀伊山地の霊場と参詣道」展	和歌山県立近代美術館（11/3-12/6）	10/24-12/16
32	パウル・クレー	ホールＣ．エントランスＲ２	千葉市美術館	「パウル・クレー」展	千葉市美術館（5/16-6/21）	5/6-7/1
33	パウル・クレー	ホールＣ．エントランスＲ２	横須賀美術館	「パウル・クレー」展	横須賀美術館（9/5-10/18）	8/26-10/28
34	近藤浩一路	東山粟田口	滋賀県立近代美術館	「－日本画創造の苦悩と歓喜－大正期、再興院展の輝き～大観・観山・靭彦・古径・御舟～」展	滋賀県立近代美術館（9/12-10/25）	9/2-12/23
35	近藤浩一路	東山粟田口	栃木県立美術館	「－日本画創造の苦悩と歓喜－大正期、再興院展の輝き～大観・観山・靭彦・古径・御舟～」展	栃木県立美術館（11/1-12/13）	9/2-12/23
36	横山大観	群青富士	栃木県立美術館	「－日本画創造の苦悩と歓喜－大正期、再興院展の輝き～大観・観山・靭彦・古径・御舟～」展	栃木県立美術館（11/1-12/13）	10/22-12/23
37		古今和歌集巻第一断簡（亀山切）	佐野美術館	「和歌をデザインする～平安王朝の美意識（仮）」展	佐野美術館（10/24-11/23）	10/14-12/3
38	狩野探幽	富士山図	栃木県立博物館	「狩野派－400年の栄華」展	栃木県立博物館（10/10-11/23）	10/14-12/3
39	狩野探幽	富士山図	栃木県立博物館	「狩野派－400年の栄華」展	栃木県立博物館（10/10-11/23）	10/14-12/3
40	狩野周信	蓮池鷺図	栃木県立博物館	「狩野派－400年の栄華」展	栃木県立博物館（10/10-11/23）	10/14-12/3
41	狩野典信	山水図	栃木県立博物館	「狩野派－400年の栄華」展	栃木県立博物館（10/10-11/23）	10/14-12/3
42	狩野栄信	楼閣山水図	栃木県立博物館	「狩野派－400年の栄華」展	栃木県立博物館（10/10-11/23）	10/14-12/3
43	狩野芳崖	寿老人図	栃木県立博物館	「狩野派－400年の栄華」展	栃木県立博物館（10/10-11/23）	10/14-12/3
44	狩野元信	富士曼荼羅図	栃木県立博物館	「狩野派－400年の栄華」展	栃木県立博物館（10/10-11/23）	10/14-12/3
45	石川欽一郎	台湾風景農村	豊田市美術館	「近代の東アジアイメージ－日本近代美術はどうアジアを描いてきたか」展	豊田市美術館（10/10-12/27）	9/30-10/1/6

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
46	石川欽一郎	台湾風景	豊田市美術館	「近代の東アジアイメージ－日本近代美術はどうアジアを描いてきたか」展	豊田市美術館（10/10-12/27）	9/30-10/1/6
47	石川欽一郎	台湾の町	豊田市美術館	「近代の東アジアイメージ－日本近代美術はどうアジアを描いてきたか」展	豊田市美術館（10/10-12/27）	9/30-10/1/6
48	石川欽一郎	台湾次高山	豊田市美術館	「近代の東アジアイメージ－日本近代美術はどうアジアを描いてきたか」展	豊田市美術館（10/10-12/27）	9/30-10/1/6
49	歌川広重	東海道五捨三次より（保永堂版）岡部　宇津之山	横須賀美術館	「パウル・クレー　東洋への夢」展	横須賀美術館（9/5-10/18）	8/26-10/28
50	歌川広重	東海道五捨三次より（隷書版）岡部	横須賀美術館	「パウル・クレー　東洋への夢」展	横須賀美術館（9/5-10/18）	8/26-10/28
51	伊藤若冲	白象群獣図	MIHO MUSEUM	「若冲ワンダーランド」展	MIHO MUSEUM（9/1-12/13）	8/22-12/23
52	伊藤若冲	花鳥蔬菜図押絵貼屏風	MIHO MUSEUM	「若冲ワンダーランド」展	MIHO MUSEUM（9/1-12/13）	8/22-12/23
53	川村清雄	静物写生	横浜美術館	「大・開港展－徳川将軍家と幕末明治の美術－」展	横浜美術館（9/19-11/23）	9/7-12/1
54	川村清雄	巨岩海浜図	横浜美術館	「大・開港展－徳川将軍家と幕末明治の美術－」展	横浜美術館（9/19-11/23）	9/7-12/1
55	川村清雄	海底に遺る日清勇士の髑髏	横浜美術館	「大・開港展－徳川将軍家と幕末明治の美術－」展	横浜美術館（9/19-11/23）	9/7-12/1
56	福王寺法林	ヒマラヤの月	島田市博物館	「近代日本画コレクション選」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
57	高山辰雄	水の頃	島田市博物館	「近代日本画コレクション選」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
58	堂本元次	璃江	島田市博物館	「近代日本画コレクション選」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
59	堂本元次	春　朝ぼらけ	島田市博物館	「近代日本画コレクション選」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
60	堂本元次	秋　照り映える	島田市博物館	「近代日本画コレクション選」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
61	下保昭	湖山暁雲	島田市博物館	「近代日本画コレクション選」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
62	福井爽人	水を運ぶ	島田市博物館	「近代日本画コレクション選」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
63	竹内浩一	塵	島田市博物館	「近代日本画コレクション選」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
64	竹内浩一	洲	島田市博物館	「近代日本画コレクション選」展（	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
65	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より日本橋	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
66	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より川崎	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
67	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より神奈川	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
68	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より保土ヶ谷	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
69	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より戸塚	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
70	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より藤沢	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
71	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 平塚	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
72	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 小田原	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
73	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 箱根	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
74	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 三島	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
75	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 沼津	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
76	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 原	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
77	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 吉原	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
78	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 蒲原	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
79	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 由井	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
80	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 興津	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
81	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 府中	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
82	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 鞠子	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
83	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 藤枝	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
84	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 嶋田	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
85	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 金谷	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
86	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 日坂	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
87	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 掛川	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
88	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 袋井	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
89	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 見附	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
90	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 濱松	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
91	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 舞坂	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
92	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 荒井	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27

No. 作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
93 歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 白須賀	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
94 歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 吉田	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
95 歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 岡崎	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
96 歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 宮	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
97 歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 桑名	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
98 歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 四日市	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
99 歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 土山	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
100 歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 草津	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
101 歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 大津	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
102 歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 京師	島田市博物館	「旅の一大事　川越し」展	島田市博物館（11/21-10/1/17）	11/11-10/1/27
103 野呂介石	阿古瀑布図	和歌山県立博物館	「野呂介石－紀州の豊かな山水を描く－」展	和歌山県立博物館（10/27-12/6）	10/17-12/16
104 初期狩野派	四季花鳥図屏風	奈良県立美術館	「海をわたってきた花と鳥～花鳥画を中心に見た中国・朝鮮半島の美術と日本美術」展	奈良県立美術館（9/28-11/14）	9/18-11/24
105	曽我物語　富士巻狩・仇討図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
106 菊池容斎	蒙古襲来之図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
107 菊池容斎	藤原兼足像	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
108 菊池容斎	雪中日蓮上人之像	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
109 小林清親	川中島合戦図屏風（裏：龍虎墨竹図）	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
110 狩野探幽	竹林七賢・香山九老図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
111 池大雅	龍山勝会・蘭亭曲水図＜重要文化財＞	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
112 狩野永良	西王母・東方朔図屏風	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
113 福田半香	周茂叔愛蓮図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
114	福田半香	李白観瀑図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
115	土佐光起	秋草鶉図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
116	狩野探信守道	井出玉川・大堰川図屏風	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
117	山本探川	宇津の山図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
118	渡辺清	清少納言故事図（田中大秀和歌賛）	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
119	橋本雅邦	三井寺	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
120	野沢堤雨	見たて源氏絵（若紫・少女）	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
121	木村武山	羽衣	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
122	菊池契月	観菊図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
123	鏑木清方	朝顔日記	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
124	今村紫紅	宇津の山路	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
125	松岡映丘	今昔ものがたり伊勢図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
126	中村岳陵	牡鹿啼く	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
127	海北友松	禅宗祖師・散聖図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
128	岡本宜就	布袋図（自賛和歌）	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
129	狩野永納	三教図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
130	英一蝶	琴高仙人図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
131	楫取魚彦	酒泉猩々図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
132	下村観山	南泉斬猫図	静岡県立美術館、佐野美術館、三島市、三島教育委員会	「物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる」	佐野美術館（10/1/5-2/14）	12/26-10/2/24
133	平山郁夫	祇園祭	平山郁夫美術館、香川県立ミュージアム	「平山郁夫展　日本の伝統美をたずねて」	平山郁夫美術館（10/3/1-3/31）	10/2/19-5/26
134	狩野芳崖	寿老人図	（財）静岡県文化財団、地域文化芸術振興プラン静岡県実行委員会、文化庁、静岡県	「山岡鉄舟と明治の群像展」	駿府博物館（10/3/10-3/22）	10/2/28-4/1

No. 作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
135 川村清雄	巨岩海浜図	（財）静岡県文化財団、地域文化芸術振興プラン静岡県実行委員会、文化庁、静岡県	「山岡鉄舟と明治の群像展」	駿府博物館（10/3/10-3/22）	10/2/28-4/1
136 川村清雄	静物写生	（財）静岡県文化財団、地域文化芸術振興プラン静岡県実行委員会、文化庁、静岡県	「山岡鉄舟と明治の群像展」	駿府博物館（10/3/10-3/22）	10/2/28-4/1
137 小林清親	高輪牛町朧月景	（財）静岡県文化財団、地域文化芸術振興プラン静岡県実行委員会、文化庁、静岡県	「山岡鉄舟と明治の群像展」	駿府博物館（10/3/10-3/22）	10/2/28-4/1
138 小林清親	浅草夜見世	（財）静岡県文化財団、地域文化芸術振興プラン静岡県実行委員会、文化庁、静岡県	「山岡鉄舟と明治の群像展」	駿府博物館（10/3/10-3/22）	10/2/28-4/1
139 小林清親	日本橋夜	（財）静岡県文化財団、地域文化芸術振興プラン静岡県実行委員会、文化庁、静岡県	「山岡鉄舟と明治の群像展」	駿府博物館（10/3/10-3/22）	10/2/28-4/1
140 小林清親	大伝馬町大丸	（財）静岡県文化財団、地域文化芸術振興プラン静岡県実行委員会、文化庁、静岡県	「山岡鉄舟と明治の群像展」	駿府博物館（10/3/10-3/22）	10/2/28-4/1
141	富士曼荼羅図	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
142	富士三保松原図	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
143 谷文晁	富士山図屏風	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
144 中村竹洞	神洲奇観	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
145 大久保一丘	富嶽明暁図	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
146 近藤浩一路	富士山	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
147 横山大観	富士山	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
148 東山魁夷	秋富士	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
149 梅原龍三郎	暁天（富士山・大仁）	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
150 歌川広重	不二三十六景／駿河薩た嶺	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
151 歌川広重	不二三十六景／駿河田子の浦	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
152 歌川広重	不二三十六景／東都青山	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
153 歌川広重	不二三十六景／武蔵野	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
154 歌川広重	不二三十六景／相模七里ヶ浜風波	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
155 歌川広重	不二三十六景／伊豆の海浜	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
156 歌川広重	不二三十六景／駿河富士沼	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
157 歌川広重	不二三十六景／信濃諏訪湖	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
158 呉春	柳陰帰漁図	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
159 谷文晁	連山春色図	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
160	浦上玉堂	抱琴訪隠図	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
161	塩川文麟	琵琶湖八景図	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
162	下村観山・横山大観	日・月蓬莱山図	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
163	竹内栖鳳	揚州城外	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
164	入江波光	草園の朝	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
165	川合玉堂	田植図	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
166	福田平八郎	雪庭	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
167	徳岡神泉	雨	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
168	小野竹喬	はつ夏	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
169	中村岳陵	残照	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
170	中村岳陵	磯	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
171	秋野不矩	天竜川	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
172	秋野不矩	廻廊	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
173	秋野不矩	ウダヤギリⅡ	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
174	安田雷洲	東海道五十三駅／おかへ	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
175	安田雷洲	東海道五十三駅／かけがわ	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
176	小林清親	海運橋(第一銀行雪中)	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
177	小林清親	東京新大橋雨中図	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
178	小林清親	柳原夜雨	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30
179	小林清親	浅草田甫太郎稲荷	掛川市二の丸美術館	「日本画の情景－富士を愛でる　山水から風景画へ」	掛川市二の丸美術館（10/2/20-3/28）	10/2/17-3/30

美術作品の補修

平成21年度の修復作品

・伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》
　剥落止めの点検と実施
・秋野不矩《廻廊》
　本紙調整、下地新調、額装
・石田徹也《（無題２）》
　画面洗浄、補彩および艶調整
・石田徹也《飛べなくなった人》
　額装
・石田徹也《兵士》
　額装

彫刻作品の保守点検作業

1　彫刻プロムナードに設置してある全野外彫刻作品の点検と洗浄を実施した。また、ロダン館およびブリッジ・ギャラリーの彫刻作品について、乾拭きを行った。

2　彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品のうち、柳原義達《道標・鳩》、佐藤忠良《みどり》、舟越保武《杏》の洗浄（陰イオン系洗剤使用）とワックス塗布を行った。この作業は、現在の色調と撥水性を維持し、着色層の劣化と発錆を防止することを目的とする。なお、掛井五郎《蝶》は、作品の特性上陰イオン系洗剤による洗浄のみを実施した。

3　野外彫刻作品のうち、内田晴之《異・空間》は、作家本人により、次の修復を行った。

①　赤色パーツのスチール板の交換、塗装
　左右の鉄パーツおよびベースパーツには、多くの発錆が見られ、それによる塗装面の剥離、剥落が生じている。さらに左右パーツの発錆箇所からは、垂直面に白みを帯びた生成物の流れが生じ、塗装表面を汚損している。スチール板をステンレスに取り換え、再塗装する。塗料は、プライマー：エポキシプライマー、下地：アクリルウレタンサーフェーサー、中塗：アクリルウレタン指定色、上塗り：フッ素樹脂塗料指定色とする。

②　赤色パーツの点検口の移設
　上部に設けられている２つの点検口は、シールが劣化、破断しており、雨水が作品内部へ侵入する原因となっている。点検口は側面ないし底面へ移設する。

③　三角柱パーツの変形修正と接合
　斜面板が歪曲し、接合部分が分離している。斜面板の歪曲を修正し、剥離部分を再接合する。

④　三角柱パーツの天板取り換え
　上部に設けられている点検口は、天板を取り換え再シールする。

⑤　作品骨材の交換
　内部で作品を支える構造体は、現状では鉄製であり、錆による腐食が進行しているものと推測される。これをステンレス材に交換する。

⑥　ベースプレートの交換
　作品設置場所の床勾配を補正するため、作品底面と床との間に十分な安全性を持つ適切なライナーを設置すること。ベースプレートの形状は、鑑賞者が躓かないように、現状の方形から楕円形に変更する。

保存活動

美術作品を保存し、後世に伝えていくことは、美術館の持つ重要な機能の一つである。美術館は単に作品を公開するだけではなく、人類の文化遺産である文化財を、適切な形で管理していかなくてはならない。

当館ではIPM（Integrated Pest Management、総合的有害生物管理）と呼ばれる考え方に基づく環境保全の試みを、推進していく方針である。大規模な燻蒸に頼る従来の方法を改め、環境を改善することで有害生物を施設内に入れず、カビ等の発生を防ごうとするこの方法は、当館のような環境では、困難な側面を持つ。これは当館が周囲を緑に囲まれており、気候が温暖で、人間にとってのみならず、文化財害虫や菌類にとっても非常に住み心地の良い環境にあるからである。

とはいえ、人間を含む生物全般への影響を勘案すれば、薬剤の使用は少ないのが望ましい。作品への影響も、当然のことながら考えられる。

基本方針としてIPMの考え方を、欧米の美術館とは異なる温暖湿潤な環境の美術館にどのようにして導入していくのかを探っているのが、当館の現状である。

展示室等殺虫

当館では収蔵庫の臭化メチル・酸化エチレン製剤による殺虫・殺菌処理をとりやめている。年間を通じての環境調査の結果、収蔵庫内での虫菌害は確認されていない。

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤による殺虫処理は引き続き行なった。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

収蔵庫等に大規模な虫菌害が発生した場合に備えての燻蒸用薬剤についての調査は、殺菌仕様、殺虫・殺卵仕様それぞれの場合に合わせ、今後とも継続する予定である。

環境調査

静岡は温暖湿潤であり、その文化財は虫菌害を受けやすい。この環境の中で先述のIPMを導入するためには、環境の調査が非常に重要になると考えられる。

当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3〜4回行なってきた。今年度は、展示室等メインテナンスにかかる長期休館のあった年度に当たるため、年度末に調査を行い、工事による甚だしい悪影響のないことを確認した。

普及活動

大規模燻蒸によらない保存環境保全のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。当館ボランティアや、展示室で監視業務に就くミューズスタッフへの研修は昨年度に引き続き実施されている。また博物館実習の中に「作品の保全について／IPMの試み」を組み込むことで当館の環境保全への努力を周知したり、同じく実習に「埋蔵文化財調査研究所見学」を取り入れ、文化財保存における環境整備の重要性についてより深い理解を求めるなどしている。

主な保存活動の経過

5月19日（火）〜21日（木）
ブンガノン燻蒸（ロダン館荷解室、県民ギャラリー、本館荷解室、本館展示室）
3月
収蔵庫・展示室等生物環境調査
3月8日（月）
プロムナード彫刻メンテナンス

ギャラリートーク

ギャラリートークは、有志のボランティアによる展示作品の解説活動である。本年は20名が登録し、活動した。収蔵品展については、原則、毎月第２、第４土曜日に一日２回開催し、３つの企画展についても随時、開催した。さらに、１月、静岡県主催「中学生文化芸術鑑賞推進事業」により来館した中学生の団体への解説と、県助成制度「県民バス」や、学校団体などへの解説も行った。

ギャラリートークのための研修は、以下のように行われる。

・自己研修：ボランティア各自による自己学習。またテーマ、分野が同じメンバーによる勉強会。
・月例研修会：毎月第１木曜日午後に全員が集まり、各月のギャラリートークや勉強会の報告、意見交換、連絡などを行う。また次回のリハーサルを展示会場内で行う。

以上二つの研修では、必要に応じて展示の担当学芸員と打ち合わせを行った。また学芸員を講師にした風景画についての講読会なども随時、開催した。

■ 収蔵品展

原則として、毎月第２、第４土曜日。第１回目14:00－14:20、第２回目15:00－15:20
のべ26回開催。のべ参加者数195人

■ 企画展ほか

「石田徹也展と静岡県ゆかりの画家」展（浜松市美術館にて）、「パウル・クレー」展、「狩野派の世界」展の会期中に随時開催。
のべ53回開催。のべ参加者数888人

■ 小中学校団体などの来館への対応

のべ55回、のべ参加者数2891名。（p.71～72を参照）

実技・観賞講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることをめざし、展覧会に合わせ実施している。

〈静岡の美術Ⅸ「柳澤紀子」展　実技講座〉展普及事業
「翼をつくろう！」

出展作家柳澤紀子氏本人がインストラクターを務めた実技講座。作家の作品テーマに関わる『翼』を、ワイヤーと紙で制作するというもの。参加者は思い思いの翼を制作し、それを頭や腕、背部にまとって展覧会を観覧した。

講座参加者だけでなく、観覧に訪れた一般来館者に翼を配布して観覧を楽しんでもらうなど、参加者がイベントを盛り上げて行く趣向が特徴的な内容であった。

日　時：6月21日（日）
講　師：柳澤紀子氏（版画家）、山本直氏（彫刻家）
場　所：当館実技室、エントランス、展示室
参加者：67名

銅版画中級編　「メゾチントに挑戦！」

当館収蔵品に銅版画が多いことから考案した実技講座である。版画入門で扱うエッチングやドライポイントという入門的な技法ではなく、銅版画経験者が、さらに銅版画表現の奥深さを追及することのできるメゾチントという技法を初めて取り扱った実技講座であった。

日　時：9月26日（土）、10月4日（日）
インストラクター：柳本一英氏（版画家・創作週間インストラクター）
参加者数：6名

■　創作週間

創作週間は高校生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、日本画といった制作活動を利用者同士アドバイスし合って取り組んだりしていた。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画については、曜日固定でインストラクターを配し、利用者への指導、相談、助言をお願いした。その結果、微減傾向にあった利用者は、インストラクター在室日を中心に増加してきた。

開室日数：48日
開室時間：10：00〜16：30
インストラクター：日下　文氏（日本画家）、藤田泉氏（木版画家）、柳本一英氏（銅版画家）
利用者数：503名

■　創作週間スペシャル

日本画を始めたいが道具や描法がよくわからない方、日本画経験者の中で史的側面から日本画を体験したい方のために実施した今年度は、開催中の展覧会と関連付けた内容で実施した。

「線がつくるものがたり〜岩絵の具と抽象画」

＜パウル・クレー　〜東洋への夢＞展出展作品の中か

ら、線や色彩の美しさが日本画技法とリンクする作品を選び、日下氏に構図や描き方を解説していただいた後で、岩絵の具の美しさを体感する内容だった。
日　時：7月18日（土）25日（土）
講　師：日下　文氏（日本画家・創作週間インストラクター）
場　所：当館実技室
参加者：14名

「華麗なる奥絵師　金色のランドスケープ」

＜狩野派の世界2009＞展出展作品の中から風景をテーマとして描いた作品を取り上げ、日下氏に狩野派の描法を解説してもらいながら、参加者持参の風景写真や絵をモチーフにして岩絵の具で描くという内容だった。
日　時：9月12日（土）、13日（日）
講　師：日下　文氏（日本画家・創作週間インストラクター）
場　所：当館実技室
参加者：12名

■　ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描く機会として、毎月2日間（11、12月は未実施。2月、3月は月4日間実施）、金・土曜日に実施している。デッサンすることで、普段の鑑賞では気づかなかったロダン彫刻の造形的な魅力を発見し、作品を身近に感じることができる活動として定着している。また本年度は、「ロダン館デッサン会スペシャル」として、素描や鑑賞からレリーフ作品の塑造や石こう取りを行う発展的な講座も開催した。
実施日数：24日
実施時間：10：00〜15：30
インストラクター：岡村あさ乃、佐野成美（当館実技室担当）
参加者数：423名

■　ロダン館デッサン会スペシャル

「ロダン館デッサン会」の発展形として、素描や鑑賞をもとに、レリーフ作品の塑造や石こう取りを行う講座を開催した。
日　時：10月31日（土）、11月1日（日）、3日（火・祝）
インストラクター：岡村あさ乃（当館実技室担当）
参加者数：21名

■　版画入門

版画入門は、版画制作に興味を持つ高校生以上の個人を対象に実施している講座である。

版画の基本的な4版種である凹・凸・孔・平を扱い、作品制作の手順、技法、材料や使い方について作家の指導をあおぎながら制作した。

日　時：シルクスクリーン　5月5日（火・祝）、6日（水・祝）
銅版画　6月6日（土）、7日（日）
木版画　9月22日（火・祝）、23日（水・祝）、27日(日)
リトグラフ　10月17日（土）、18日（日）、25日（日）
講　師：北川　純氏（Tシャツ・アーティスト）
安冨　忍氏（木版画家・創作週間インストラクター）
柳本一英氏（版画家・創作週間インストラクター）
場　所：当館講座室・展示室
参加者：124名（通算）

実技・体験

■　粘土開放日

粘土開放日は、実技室と実技室にある１ｔを越える粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらうプログラムである。

親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするため、こちらで細かい指示は出さず、会話も含めて楽しんでもらうことに重点をおいている。

後に記載する美術館教室の粘土教室で来館した園児・児童が、今度は親子で参加しているというケースも多い。リピーターも増加傾向にあるため、毎回配布用具やサンプル作品を変えたり、展覧会内容を紹介したりして、マンネリ化を防止している。新規の参加者は、人づてに聞いて魅力を感じた方、ＨＰ、チラシを見た方など、広く周知されるようになってきたことがうかがえる。

今年度は各回80名の定員を設け、これまで以上にのびのびと活動できるようにした。

実施日数：12日（１日３回で36回実施）
実施時間：午前の部①　10：10〜11：30
　　午前の部②　11：30〜12：50
　　午後の部　　14：00〜15：20
インストラクター：内海健夫氏（美術作家）
助　　手：志村将史氏、吉村友利氏
場　　所：当館実技室
参加者数：1,765名

■　絵の具開放日

絵の具開放日は、親子で自由に楽しく絵を描いてもらうプログラムで、今年で５年目を迎えた。

基本は屋外で行うプログラム（雨天時は室内でのプログラム）であり、今年度は、屋外で７日（14回）、天候不順により室内で１日（２回）実施した。

屋外のプログラムは広い石畳にハケを使い、体を思い切り動かしながらの制作で、やっているうちに足の裏に絵の具が付き、それがスタンプ遊びになり、さらにはボディーペインティングへと発展していった。

室内のプログラムは吊したビニールクロスに絵を描いてもらうようにし、顔をくっつけて輪郭、目、鼻、口を親子で描きあったり、高い所は親に持ち上げてもらって描いたりと、描くことは勿論、コミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

こちらも美術館教室で来館した子どもの親子連れ、リピーター、新規参加者の内訳等、粘土開放日と同様、長年行ってきた粘土開放日と肩を並べるようなプログラムになってきている。

また粘土開放日と同様、より広々としたスペースで楽しんでもらうこと、安全面等を考え、室内の場合は各回80名程度、屋外の場合は各回150名程度の定員を設けた。

実施日数：８日（午前・午後で16回）
実施時間：午前の部　10：15〜12：00
　　午後の部　13：30〜15：15
インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）
助　　手：吉村友利氏、奈良敏氏
場　　所：屋外展示テラス（雨天時は当館実技室）
参加者数：2,081名

■　工作アトリエ

工作アトリエは、粘土開放日の延長線上に位置づけられるプログラムで、粘土だけでなく、木材、ダンボール、石膏などさまざまな素材を用い、彫刻、立体造形の面白さを発見、体験するもので、昨年度の「土曜工作室」から名称と内容を変更したプログラムである。

対象は大人から子どもとし、親子を中心とした参加者が多く見られた。

午前、午後各一回のプログラムで、インストラクターは、教育普及スタッフが順番で務め、年間を通じて参加

者募集をしていたので、リピーターが増加したにも関わらず、飽きられることなく充実した活動が保障できた。
実施日数：６日
実施時間：午前の部　10：15〜12：15
　　午後の部　13：15〜15：15
インストラクター：当館教育普及スタッフ
助　　手：吉村友利氏
場　　所：当館実技室及び美術館周辺
参加者数：192名

実施日	内　　容	人　数
4月25日	君だけの秘宝	AM　21
		PM　27
5月24日	体で感じるアート	AM　27
		PM　23
6月28日	お面と衣装をつけてお祭りだ！	AM　20
		PM　12
7月26日	まほうの白い粉でかべかざりをつくろう	AM　33
		PM　29
年間８回実施		合計 192

■　色彩アトリエ

色彩アトリエは、絵の具開放日の延長線上に位置づけられるプログラムで、さまざまな技法体験から色彩の持つ魅力を発見していこうというものである。

対象は工作アトリエと同様、大人から子どもとし、親子を中心とした参加者が多く見られた。

午前、午後同じ内容を実施したにもかかわらず、違った参加者の反応が見られたり、作品にもそれが表れたりと、参加者は勿論、美術館スタッフもインストラクターも新しい発見があるものになっている。

実施日数：10日（午前・午後で20回）
実施時間：午前の部　10：15〜12：15
　　午後の部　13：30〜15：30
インストラクター：持塚三樹氏（画家）
助　　手：志村将史氏
場　　所：当館実技室及び美術館周辺
参加者数：201名

実施日	内　　容	人　数
7月４日	ボコボコ絵画	AM　36
		PM　34
9月５日	霧吹き絵画	AM　42
		PM　23
11月７日	レインボー絵画	AM　41
		PM　25
年間６回実施		合計 201

■　色彩アトリエスペシャル

当館所蔵品《樹花鳥獣図屏風》（伊藤若冲)の屏風が特別展示される時期に行うようにしているワークショップで、４回目を迎えた。「升目描き」の一マスを９×９センチの厚紙に置き換えて着色し、約９倍に拡大するような作業となる。出来上がった作品は、エントランス床面に並べ、約９×６メートルの巨大絵（屏風一扇）となる。とはいえ、絵の具を作った段階で微妙に色が違ったり、グループごとに手法が違ったりと、参加者たちのブレーンストーミングが一番の醍醐味かもしれない。

日　時：5月2日（土）、3日（日）
インストラクター：持塚三樹氏（画家）
助手：志村将史氏（イラストレーター）
場所：当館実技室、エントランス
参加者数：計83名

■出張実技講座

浜松市美術館で開催された移動美術展（当館収蔵品）において、石田徹也作品に登場するモチーフ（飛行機）を使って、親子向け＜ビニールに絵の具で描く＞という絵の具ワークショップを開催した。

日　時：5月3日（日）
インストラクター：鈴木雅道（当館主任）
助手：小林正典氏（浜松開誠館高等学校教諭）
場所：浜松市美術館講義室
参加者：10名

夏休み子どもワークショップ

夏休み子どもワークショップは、小学生を対象に、夏休みという比較的来館しやすい時期を選び、作品や作家との関わりの中で創造・鑑賞の喜びを感じてもらうためのプログラムであり、夏休みに開催される展覧会の関連イベントとして実施している。

今年は〈パウル・クレー　東洋への夢展〉の内容を取り入れ、線と色彩の美しさを体感するワークショップを実施した。統一タイトルを「くねくね　スースー　ピーンであそぼう!」とし、さらに三種類のワークショップを開催した。＜糸でチェンジ！＞では、あらゆる糸や紐状のものに絵の具をつけ、偶然できる線を組み合わせて絵画に仕立てていくワークショップを、また＜傘でチェンジ！＞では、透明ビニール傘に線を描いてオリジナルの傘を制作した。さらに＜文字がチェンジ！＞は、文字の形態から発想して動物の絵を厚紙に描き、くり貫いた型にして大判の板にローラーで着色するというワークショップだった。

＜糸でチェンジ！＞

日本画家で絵本の挿絵作家でもある森谷明子氏を講師に招いた。糸に絵の具を吸わせて紙に置き、それを何回か繰り返すことで、線から面に見えたり、何かの形象に見えたりする想像力を発揮してもらうプログラムだった。

日　時：①７月28日（火）
　　②７月30日（木）
インストラクター：森谷明子氏（日本画家）
場　所：当館実技室、展示室
参加者数：26名

＜傘をチェンジ！＞

森谷明子氏を講師に招き、アクリル絵の具を使用して、透明ビニール傘に線で装飾をしていくワークショップだった。水をはじくスプレーを最後に施し、持ち帰ってもらった。またこのワークショップを見学した小学校教諭が、自校の授業で実施したという報告を聞いた。

日　時：①７月29日（水）
　　②７月31日（木）
インストラクター：森谷明子氏（日本画家）
場　所：当館実技室、展示室
参加者数：34名

＜文字がチェンジ！＞

象形文字であろうがなかろうが、文字の形象から動物の形態に想像力を働かせる場面は、子供達の個性が発揮された。共同制作した作品は、２階展示室廊下壁面に展示し、多くの来館者に見ていただくことができた。

日　時：８月１日（土）、２日（日）
インストラクター：鈴木雅道（当館学芸課主任）
　　南　美幸（当館上席学芸員）
場　所：当館実技室、展示室
参加者数：11名

■　鑑賞講座

鑑賞講座は、子ども鑑賞講座、親子鑑賞講座、鑑賞講座に分かれ、それぞれ子ども、親子、大人を対象とし、展覧会担当の学芸員と展示室での対話を通して作品鑑賞を行っていくプログラムとして開催している。本年度は、

収蔵品展〈体で感じるアート展〉に絡めて開催した。

＜体で感じるアート展＞「親子鑑賞講座」

同展覧会では、ジャンルや年代にとらわれず、子供達が体全体で作品鑑賞を楽しみ、畳に座って音と香りを感じながら日本画を鑑賞するなど、美術のおもしろさを体感してもらう工夫を施した。

日　時：６月13日（土）、21日（日）
インストラクター：川谷承子（当館上席学芸員）
　　石上充代（当館学芸員）
　　鈴木雅道（当館学芸課主査）
場　所：当館展示室
参加者数：39名

■　展覧会関連イベント

鑑賞系・実技系の差なく、できるだけ展覧会の内容に沿うよう企画するようにしているが、特に、展覧会の観覧とセットで実技系講座を企画したり、展覧会出品作品の特筆すべき特徴や技法などを取り上げたイベントを別途企画するものである。

今年度は、浜松市美術館で開催した移動美術展における絵の具ワークショップ、「第24回国民文化祭静岡2009」でのロダン彫刻デッサン展と出張粘土教室、「狩野派の世界2009」展での映像製作企画の四つだった。前者は、市内のギャラリーで、後者は、高校生に展覧会ＰＲビデオ映像作品を製作してもらい、会期中館内で視聴できるようにするというものであった。

＜ロダン彫刻デッサン展＞

当館普及イベントのロダン館デッサン会参加者から作品を公募し、無審査で展示した。

会　期：10月24日（土）～11月８日（日）
場　所：静岡市民ギャラリー第１・３展示室
出品者：90名
入場者：1,606名

＜出張粘土教室～国文祭美術展関連イベント＞

国民文化祭中、ツインメッセ静岡で開催されるキッズ・フェスティバルに参加し、割り当てられたブースで粘土教室イベントを行った。

日　時：10月24日（土）～26日（月）
インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）
助手：吉村友利氏、奈良敏氏
会場：ツインメッセ静岡南館大展示場
参加者：439名

＜高校生による展覧会ＰＲ映像製作＞

出張美術講座で、出品作品の数点を解説し、その後、じか見しながら取材（写真・ビデオ撮影）、学校に戻ってそれら取材で集めた素材を使った映像作品製作、という手順で行った。

日　時：７月16日（木）出張美術講座
　　７月27日（日）作品じか見、取材
　　９月３日（木）作品ＤＶＤ搬入
　　９月10日（木）～10月18日（日）
　　映像放映（常設券売横）
参加者：27名（静岡市立商業高校生徒）

学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムで、実技や鑑賞、職場体験、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、学芸員やエデュケーショナルスタッフがお手伝いするものである。

粘土教室、絵の具教室は、県内の保育園、幼稚園、学校に周知されるようになり、年々参加希望団体が増加している。できるかぎり多くの団体に参加していただくため、学年をほぼ同じくする複数の園や学校の合同実施とした。

また、今後の取り組みとして、出張美術講座や授業協力等、美術館と学校との連携に重点をおいた普及を充実させていきたい。

■　粘土教室

粘土教室は、幼児、児童、生徒を対象に、水粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へと繋げていくプログラムである。

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）
助　　手：吉村友利氏、奈良敏氏
場　　所：当館実技室
人　　数：4,785名

月日	団体名：学年	人数
4 /21	清水袖師保育園：年長	24
4 /21	島田聖母保育園：年中・長	36
4 /22	北安東保育園：年中・長	44
4 /22	あゆみ第 2 保育園：年長	40
4 /23	足久保保育園：年長	31
4 /23	かわはらいずみ幼稚園：年中・長	65
4 /23	竜南保育園：年長	35
4 /28	静岡隣人会保育園：年中・長	66
5 /13	船原幼稚園：年長	53
5 /13	リリー幼稚園：年中・長	81
5 /14	さくら幼稚園：年長	66
5 /14	有度十七夜山保育園：年長	40
5 /14	焼津和田幼稚園：年中・長親子	53
5 /27	蒲原聖母幼稚園：年中・長	39
5 /27	静岡南幼稚園：年長	90
5 /27	田町幼稚園：年中	89
5 /28	清水三保保育園：年長	33
5 /28	サレジオ幼稚園：年長	63
5 /28	静岡市立飯田東小学校	96
6 / 3	清水有度西保育園：年中・長	46
6 / 3	清水有度北保育園：年長	34
6 / 3	静岡大学附属静岡小学校：小 2 ・ 3	74
6 / 4	ふじみ幼稚園：年長	59
6 / 4	中田保育園：年長	49
6 / 4	静岡市立千代田小学校：特支	28
6 / 5	麻機幼稚園：年長	79
6 / 5	若草保育園：年少	27
6 /16	蒲原学園幼稚園：全園児	70
6 /17	かえで幼稚園：全園児	73
6 /17	とこは幼稚園：年長	73
6 /18	東新田保育園：年長	51
6 /18	上土保育園：年長	44
6 /18	曙保育園：年中・長	39
6 /18	日吉町保育園：年中・長	48
6 /19	静岡市立南部小学校：小 3	68
6 /19	静岡市立船越小学校：小 2	38
6 /24	丸子幼稚園：年中	35
6 /24	田町保育園：年中・長	59
6 /24	城東保育園：年長	24
6 /24	東豊田保育園：年長	44
6 /30	小百合キンダーホーム：全園	44
6 /30	下川原保育園：年長	47
6 /30	東源台小学校：小 3	72
7 / 1	静岡市立安倍口小学校：特支	12
7 / 1	静岡市立長田北小学校：特支	3
7 / 1	静岡市立西奈小学校：特支	7
7 / 1	静岡市立田町小学校：特支	2
7 / 1	静岡市立長田西小学校：特支	10
7 / 1	静岡市立東豊田小学校：小 3	75
7 / 2	静岡市立南部小学校：小 1	78
7 / 2	静岡市立東豊田小学校：小 3	39
7 / 2	静岡市立伝馬町小学校：小 4	52
7 / 7	西奈幼稚園：年長	31
11/ 4	中藁科小学校：小 2	16

11/ 4	久能小学校：小１・２	18
11/ 4	清水小学校：小３	80
11/ 5	大川保育園：年長	11
11/ 5	中藁科保育園：年中・長	30
11/ 5	あけぼの保育園：年長	51
11/ 6	大谷小学校：小２	62
粘土教室参加合計人数		2846

■　絵の具教室

絵の具教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心に行い、学年が上がるにつれ少しずつ難易度をつけているが、全身を使い、楽しく描くことを重視している。

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）
助　　手：吉村友利氏、奈良敏氏
場　　所：当館実技室、屋外展示テラス
人　　数：2,080名

月日	団　体　名　：　学　年	人数
4 /30	静大附属特別支援学校：小学部	24
4 /30	籠上・美和・賤機中学校：特別支援	13
5 /12	田町幼稚園	108
5 /15	日本平幼稚園：年長	111
5 /15	ゆりかご保育園：年長	15
5 /26	矢部保育園：年中・長	41
5 /26	かえで幼稚園：年中・長	32
5 /26	あゆみ第２保育園：年長	40
5 /29	静岡南幼稚園：年中	79
5 /29	賤機中小学校：小１～３	40
6 / 2	清水庵原保育園：年中・長	43
6 / 2	清水折戸保育園：年中・長	32
6 / 2	わらべ幼稚園：年中	25
6 / 2	城東保育園：年長20	20
6 /23	江尻幼稚園：年長	39
6 /23	月影保育園：年中・長	26
6 /23	ふじみ幼稚園：年中	75
6 /24	静岡隣人会保育園：年中・長	66
6 /24	城東保育園：年長	29
6 /24	たんぽぽ保育園：年中・長	41
7 / 9	第２ふたば保育園：年中	39
7 / 9	曙保育園：年中・長	38
7 / 9	興津北保育園：年長	17
7 / 9	若草保育園：年中・長	62
8 / 4	三保第二児童クラブ	20
8 / 4	浜田児童クラブ	40
8 / 4	服織児童クラブ	29
8 / 4	東源台第二児童クラブ	34
8 / 5	城北児童クラブ	70
8 / 5	中島第一児童クラブ	45
8 / 6	有度十七夜山保育園：年長	40
8 / 6	長田児童クラブ	30
8 / 7	有度第２児童クラブ	66
8 / 7	飯田児童クラブ	57
8 /18	てんまっ子児童クラブ	56
8 /18	瀬名児童クラブ	34
8 /18	南部児童クラブ	34
8 /19	蒲原東児童クラブ	30
8 /19	飯田東児童クラブ	36
8 /19	井宮第２児童クラブ	22
8 /19	番町児童クラブ	49
8 /20	袖師児童クラブ	65
8 /20	美和児童クラブ	23
8 /20	豊田児童クラブ	29
10/ 1	若竹幼稚園：年中・長	73
10/ 1	静岡聴覚特別支援学校：幼稚部	21
10/ 6	袖師保育園：年長	23
10/ 6	こまどり幼稚園：年長	44
10/ 6	あけぼの保育園：年長	55
絵の具教室参加合計人数		2080

■　音のかけらワークショップ

音のかけらワークショップは、当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

今年度は特別支援学校利用のみだったが、当館独自の鑑賞系ワークショップとして、今後さらに利用を呼びかけていきたい。

月日	団　体　名　：　学　年	人数
7 /15	県立中央特別支援学校中等部	28
7 /16	県立藤枝特別支援学校高等部	11
音のかけらワークショップ参加合計人数		39

■　ロダン館ななふしぎ

ロダン館ななふしぎは、７枚のカードに書かれたクイズを解き、最後に答え合わせをしながら鑑賞を深めるプログラムである。

クイズは作品のシルエットやキャプションがヒントになっているため、じっくりと鑑賞することが必要になる。

答え合わせでは、単にそれだけを行うのではなく、鋳造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。また、時間が取れる団体には《カレーの市民》像を前にして『カレーの市民物語紙芝居』を実演したところ、より感慨深く作品に目をやる子供達の姿が見られた。

月日	団　体　名　：　学　年	人数
4 /28	静岡市立大谷小学校	67
5 / 7	島田市立湯日小学校：全校	47
5 /28	静岡市立飯田東小学校	96
6 / 5	静岡県立沼津特別支援学校：高等部	17
6 /16	芝川町立袖野中学校：中１	30
7 / 1	静岡市立東豊田小学校：小３	75
7 / 2	静岡市立東豊田小学校：小３	39
7 / 8	静岡市立東豊田小学校：小２	101
7 /15	県立中央特別支援学校中等部	28
7 /16	県立藤枝特別支援学校高等部	11
7 /29	袋井市立袋井南中学校：美術部	15
9 / 5	牧之原市立相良中学校：美術部	23
9 /18	清水袖師小学校：小４	54
9 /18	清水袖師小学校：小４	62
9 /18	県立中央特別支援学校：通級	31
10/ 7	伝馬町小学校：小５	48
10/14	中田小学校：小２	64
10/15	中田小学校：小２	63
10/22	静岡市立清水興津小学校：小５	122
10/29	井宮北小学校：小２	93
11/ 4	清水小学校：小３	80
2 / 4	静岡市立横内小学校	111
2 / 9	静岡市立長田西小学校：小２	125
2 /10	静岡市立清水宍原小学校：小６	7
2 /18	川根本町立中川根第一小学校：小６	20
2 /19	島田市立第五小学校：小５	52
ロダン館ななふしぎ参加合計人数		1481

■　美術館の秘密をさぐれ

美術館には多くの来館者が訪れるが、美術館のバック

ヤードや保存・管理といったハード面を意識してご覧になることはあまりない。作品鑑賞と合わせて館全体を楽しんでいただくための工夫や作品を管理、保護するための工夫が随所にみられる。本プログラムはワークシートを使って、美術館を探検し、そうした工夫を見つけ、最後に解説を行うものである。

月日	団体名：学年	人数
4/18	静岡デザイン専門学校：高2・3	21
5/9	熱海市立多賀中学校：美術部	17
5/12	掛川市立東中学校：中2	10
5/12	菊川市立菊川西中学校：中2	26
5/27	静岡市立竜爪中学校：中1	27
7/18	静岡市立安東中学校：美術部	12
7/26	富士市立富士根南中学校：美術部	38
7/29	袋井市立袋井南中学校：美術部	15
7/31	静岡市立城山中学校：芸術部	17
8/7	裾野市立裾野東中学校：美術部	14
8/20	星槎国際高校	10
9/5	牧之原市立相良中学校：美術部	23
9/5	藤枝順心高等学校	49
11/6	沼津市立片浜中学校：中1	86
美術館の秘密をさぐれ参加合計人数		365

■　ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象としたロダン館の彫刻作品をスケッチ、デッサンするもので、これにより作品をじっくり見ることへとつなげている。

月日	団体名：学年	人数
4/22	加藤学園暁秀高等学校：高1	194
4/22	誠恵高等学校：デザインコース	42
7/18	静岡市立安東中学校：美術部	12
8/4〜8/7	静岡市立大里中学校：美術部	31
8/21	静岡県立静岡商業高等学校：美術部	27
8/25	静岡県立気賀高等学校	17
9/26	三島高等学校	112
11/6	沼津市立片浜中学校：中1	86
3/17	県立浜松江之島高等学校	28
ロダン館スケッチ・デッサン参加合計人数		549

■ギャラリー・トーク

教育普及活動は、美術館の財産すなわち作品を生かした鑑賞系プログラムの充実に力を入れている。

その一環として、当館ボランティア（ギャラリー・トークグループ）の方に協力を求め、学校からの求めに応じ、展示室内で子供達の感想や気付きに耳を傾ける取り組みを行った。

粘土教室や絵の具教室に参加した園・学校にも観覧を呼びかけ、ギャラリー・トークを実施した。

月日	団体名：学年	人数
4/18	静岡デザイン専門学校：高2・3	21
4/22	加藤学園暁秀高等学校：高1	194
4/28	静岡市立大谷小学校	67
4/30	静岡市立西豊田小学校：小5	190
5/7	島田市立湯日小学校：全校	47
5/9	熱海市立多賀中学校：美術部	17
5/12	静岡市立千代田東小学校：小6	131
5/15	島田学園高等学校：高	30
5/15	清水市立第五中学校：中2	48
5/15	静岡学園中学校	107
5/15	静岡豊田幼稚園：年長	67
5/26	静岡市立西奈中学校：中3	109
5/27	蒲原聖母幼稚園：年中・長	39
5/28	静岡市立飯田東小学校	96
6/4	横浜市立青葉台小学校	73

6 /12	袋井南公民館：小学生	65
6 /18	チャールズ・ペペアート教室	15
6 /19	静岡市立南部小学校：小 3	68
6 /19	常葉学園菊川高等学校：高 2	5
6 /30	静岡北特別支援学校清水分校	20
6 /30	朝鮮初中等学校	19
7 / 1	静岡市立東豊田小学校：小 3	75
7 / 2	静岡市立南部小学校：小 1	78
7 / 2	静岡市立東豊田小学校：小 3	39
7 / 8	静岡市立東豊田小学校：小 2	101
7 /15	県立中央特別支援学校中等部	28
7 /18	静岡市立安東中学校：美術部	12
7 /26	富士市立富士根南中学校：美術部	38
7 /29	袋井市立袋井南中学校：美術部	15
7 /31	静岡市立城山中学校：芸術部	17
8/4〜8/7	静岡市立大里中学校：美術部	31
8 / 7	飯田児童クラブ	57
8 /21	静岡県立静岡商業高等学校：美術部	27
8 /21	静岡市立南中学校：美術部	14
9 / 5	藤枝順心高等学校	49
9 /18	清水袖師小学校：小 4	54
9 /18	清水袖師小学校：小 4	62
9 /18	県立中央特別支援学校：通級	31
9 /26	三島高等学校	112
10/ 1	静岡聴覚特別支援学校：幼稚部	21
10/ 2	静岡市内中学校特別支援学級	27
10/ 6	静岡学園高等学校	31
10/ 7	伝馬町小学校：小 5	48
10/ 9	静岡中央特別支援学校：中等部	16
10/14	中田小学校：小 2	64
10/15	中田小学校：小 2	63
10/15	熱海市立泉小学校：小 4	10
10/23	県立静岡北特別支援学校：中学部	10
10/29	井宮北小学校：小 2	93
10/30	県立静岡中央高等学校	17
2 / 9	浜松市立可美中学校：中 2	136
2 /20	常葉学園中学校	40
2 /25	島田市立金谷中学校：特支	12
3 / 3	焼津市立焼津中学校：中 2	15
3 / 3	焼津市立港中学校：中 2	20
ギャラリー・トーク参加合計人数		2891

■　職場体験学習

職場体験学習は、今日の少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用形態の多様化、あるいはフリーターやニートといった社会問題に対し、しっかりとした勤労観、職業観を身につけ、将来、社会人、職業人として自立できるようにするキャリア教育の一環として実施されている。

当館でも美術館教室・実技プログラムの開催日を中心に受け入れを行った。

主な活動としては、美術館教室での補助活動、ロダン館ななふしぎ、美術館の秘密を探れといったプログラムへの参加、ショップやインフォメーション業務の体験などがある。

こうした体験を通して、美術館は単に絵を鑑賞する場所ということにとどまらず、さまざまな活動が行われていること、そこにはいろいろな仕事をする人がいること、また多くの工夫があることを感じ取ってくれていた。

月日	団　体　名　：　学　年	人数
5 /27	静岡市立竜爪中学校：中 2	1
5/27〜5/29	静岡市立安東中学校：中 2	3
5/27〜5/29	静岡市立清水第七中学校：中 2	3
5 /31	静岡県立金谷高等学校	6
6/2〜6/3	静岡市立東豊田中学校：中 2	5
7 /26	静岡雙葉中学校：中 3	4
8/1〜8/2	静岡雙葉中学校：中 3	4
8/4〜8/5	静岡雙葉中学校：中 3	3
8/5〜8/7	県立清水南高等学校中等部：中 2	3
8/6〜8/7	静岡雙葉中学校：中 3	4
8/18〜20	静岡市立東中学校：中 2	1
職場体験参加合計人数		37

■　教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップ等を指導したい教員を対象として、イベント補助作業や粘土教室の参加・見学を受け入れるとともに、先生方

の研究会に参加させていただき講師を務めるなど積極的に取り組んだ。

月日	団体名：学年	人数	会場
6 / 3	富士市立今泉小学校	1	当館
8/4〜8/7	富士市立富士川第二小学校	1	当館
8/4〜8/7	県立藤枝特別支援学校	1	当館
8 / 4	榛原郡教育研究発表会	34	榛原
8/4〜8/7	富士市立富士川第 2 小学校	1	当館
8/4〜8/7	県立藤枝特別支援学校	1	当館
8 /10	富士市図画工作科夏季研修会	28	富士
8 /11	静岡市図工・美術夏季研修会	96	当館
8/18〜22	富士市立岩松北小学校	1	当館
8/19〜20	静岡県立掛川東高等学校	1	当館
8 /22	第 1 回鑑賞教育指導者研修会	92	当館
10/21	富士地区教育研究協議会研修会	30	富士
11/17	藤枝市美術研究会研修会	10	藤枝
教員研修（当館・出張）参加者合計人数		287	

■　出張美術講座

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行ったり、ロダン体操の指導を行った。

またこどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業の事前指導のために、同事業参加中学校に赴き、鑑賞マナーや開催展覧会の見どころ解説などを行った。

特に工事による長期休館期間を出張美術講座重点期間と位置づけ、収蔵品レプリカや教材キットを開発し、実際の講座対応も学芸課全体で取り組むことができた。その周知と学校連携のために、第 1 回鑑賞指導者研修会を開催し、出張美術講座やレプリカ・教材キットの紹介から、授業の使用例を掲載した指導案集を作成・配布した。

さらに教員とともに初期の授業づくりから綿密に打ち合わせた事例や当館収蔵品の移動美術展開催館（佐野美術館、掛川市二の丸美術館）の担当学芸員との合同で出張美術講座を行った事例など、今後に発展させられる取り組みを展開することができた。

月日	団体名：学年	人数
4 /27	静岡市立大谷小学校：小 4	65
6 /12	静岡市立清水入江小学校：小 5	111
7 /16	静岡市立商業高等学校	27
9 /30	静岡市立伝馬町小学校：小 5	46
10/ 6	静岡市立中田小学校：小 2	127
10/ 7	熱海市立泉小学校：小 4 ・ 5 ・ 6	35
10/19	沼津市立片浜中学校：中 1	90
10/22	静岡市立井宮北小学校：小 2	87
11/17	藤枝市立藤枝中学校	15
11/27	浜松市立西都台小学校	45
12/ 1	浜松市立蒲小学校	178
12/ 2	沼津市立静浦小学校	26
12/ 4	浜松市立相生小学校	115
12/ 4	浜松市立北浜南小学校	66
12/ 7	県立佐久間高等学校	20
12/11	菊川市立加茂小学校	57
12/16	静岡市立伝馬町小学校	48
12/18	富士宮市立富士根南中学校	40
12/18	東海大学附属翔洋中学校	32
1 / 7	三島市立北中学校	215
1 /12	*裾野市立東中学校*	*140*
1 /13	静岡市立興津小学校	125
1 /13	*富士宮市立富士根北中学校*	*99*
1 /13	*牧之原市立牧之原中学校*	*35*
1 /14	東海大学附属翔洋中学校	32
1 /14	*三島市立北上中学校*	*153*
1 /14	*静岡市立西奈中学校*	*127*
1 /14	三島市立中郷西中学校	112
1 /15	三島市立南中学校	173
1 /15	湖西市立湖西中学校	77
1 /18	*浜松市立細江中学校*	*215*
1 /21	*下田市立下田中学校*	*101*
1 /21	*浜松市立江西中学校*	*135*
1 /22	*掛川市立城東中学校*	*97*
1 /22	*富士市立大淵中学校*	*145*
1 /25	*浜松市立入野中学校*	*220*
1 /28	*静岡市立清水第八中学校*	*80*
1 /29	*静岡市立清水第八中学校*	*80*

1 /29	富士市立元吉原中学校	77
1 /29	富士市立吉原第三中学校	107
2 / 1	日本大学三島中学校	77
2 / 1	静岡市立清水第七中学校	120
2 / 2	静岡市立清水第七中学校	80
2 / 3	静岡市立清水第七中学校	80
2 /10	掛川市立曽我小学校	32
2 /17	島田市立相賀小学校	22
2 /17	島田市立第五小学校	103
2 /19	牧之原市立萩間小学校	25
2 /24	静岡大学教育学部附属静岡小学校	78
3 / 3	静岡市立清水宍原小学校	11
3 /12	県立気賀高等学校	96
		4499

※斜体は「こどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業」の事前指導

■　第１回鑑賞指導者研修会

鑑賞教育や学校と美術館の連携が叫ばれる昨今、鑑賞についての学校と美術館の考え方を明確化し、相互に連携の在り方をさぐるための試みであった。

研修は短時間であったが、数多くの問題提起やこのような研修会の意義を擁護する声が数多くあがり、初回の取り組みとしては盛況であった。

日　時　8月22日(土)　午後4時～午後6時

会　場　講堂、展示室、ロダン館、写真室、講座室、実技室

参加者　教員関係92名（小・中・特別支援学校・高校教諭、非常勤講師、教員志望学生、）　美術館関係10名　　計102名

■　収蔵品レプリカ・教材キットの開発

本年度、出張美術講座やレンタルでの使用を目的として、9種類の収蔵品レプリカや教材キットを開発した。教員にも概ね受け入れられているため、使途を明確にし、さらにレンタル等を推し進めるとともに、第2回鑑賞指導者研修会に向けてそれらを活用した授業等の検証をしていく必要がある。

レプリカ	《四季花鳥図屏風》（初期狩野派）六曲一双
	《曽我物語図屏風》（作者不詳）六曲一双
	《寿老人》（狩野芳崖）掛軸
	《巨岩海浜図》（川村清雄）日本洋画
	《嵐の海》（ｸﾛｰﾄﾞ＝ｼﾞｮｾﾞﾌ・ｳﾞｪﾙﾈ）洋画
教材キット	《地獄の門》（ｵｰｷﾞｭｽﾄ・ﾛﾀﾞﾝ）1/3バナー
	《カレーの市民》（ｵｰｷﾞｭｽﾄ・ﾛﾀﾞﾝ）紙芝居
	6種素材別立方体セット（ブロンズ、大理石等）
	館蔵品パズル（《樹花鳥獣図屏風》等）

■　粘土やレプリカ、当館資料の貸し出し

児童・生徒を引率して当館に来るには障害があるが、当館の普及事業を自らの手で実践したいという教員のために、粘土やレプリカ、鋳造ビデオ等資料の貸し出しを行った。

粘土貸し出し	静岡県立金谷高等学校
	リーチェル幼稚園
	浜松市立入野小学校
	静岡県立藤枝特別支援学校
	富士市立今泉小学校
	静岡中央特別支援学校
	袋井特別支援学校
	サレジオ幼稚園
レプリカ	静岡市立商業高等学校
	静岡市立伝馬町小学校
鋳造ビデオ	浜松市立秋野不矩美術館

■　出張粘土教室

長期休館中、粘土教室を学校で開催した。希望をとったところ応募が殺到し抽選を行うなど、人気がある事業だったが、多くの問題もあり来年度以降の継続は慎重に判断を要する。

月日	団体名：学年	人数
11/10	浜松市立水窪小学校：小5	15
11/12	静岡県立袋井特別支援学校：小4	16
11/17	静岡県立富士特別支援学校：小3～6	17
11/19	浜松市立尾奈小学校：小5・6	34
11/24	熱海市立伊豆山小学校：小1・2	34
11/26	西伊豆町立仁科小学校：小1・2	64
12/1	焼津私立大富中学校：特支1～3	14
12/3	静岡市立宍原小学校：小1～6	22
12/8	静岡市立清沢・峰山小学校：小1～6	52
12/10	浜松市立田沢小学校：小4	12
12/15	静岡市立清水小河内小学校：小4～6	41
12/17	静岡市立松野小学校：小5・6	29
3/4	静岡市立小島小学校：小1	42
3/9	静岡県立静岡北特別支援学校清水分校：小1～4	29
出張粘土教室参加者合計		421

講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催した。とりわけ「よみがえる黄金文明展」の講演会は好評を博した。

■　特別講演会

開催日	演題・内容	講　　師	場　　所	参加者数
4月26日	清水銀行PRESENTSよみがえる黄金文明展特別講演会「トラキア遺宝の謎」	禿　仁志氏（東海大学教授）	講堂	231人
6月7日	柳澤紀子展「スペシャル・トーク」	吉増剛造氏（詩人）、林浩平氏（詩人、恵泉女学園大学特任准教授）、柳澤紀子氏（画家）	講堂	130人
8月9日	パウル・クレー展「パウル・クレーとはどのような芸術家だったのか」	前田富士男氏（慶應義塾大学名誉教授）	講堂	92人
8月22日	パウル・クレー展「からだのリズム、かたちのリズム〜クレーに近づくもうひとつの試み」	恩地元子氏（東京芸術大、武蔵野美術大学非常勤講師・表象文化論）	講堂	121人
9月21日	狩野派の世界2009展「探幽のいた季節―二条城の襖絵から館蔵品へ―」	山下善也氏（京都国立博物館連携協力室長）	講堂	120人

美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館学芸員ほかによる講座を開催した。展示室で作品を前にした解説や、日本画をケースに入れない状態でじかにご覧にただく試み、こどもや親子に対象をしぼった講座など、ヴァリエーションの拡大と内容の充実に努めた。

■　美術講座

スライドなどを交えながらレクチャーを行うもの。

開催日	演題・内容	講　　師	場　　所	参加者数
4月18日	よみがえる黄金文明展「香りの不思議とその魅力」	駒木亮一氏	講座室	42人
4月26日	移動美術展「石田徹也の作品について」	堀切正人（当館主任学芸員）	浜松市美術館	80人
10月11日	狩野派の世界2009展「静岡県立美術館の狩野派コレクション」	福士雄也（当館学芸員）	講座室	60人
10月25日	ロダン体操エピソード3	高橋唐子氏（美術家）	ロダン館	6人

■　鑑賞講座

「体で感じるアート展」において、既存の美術ジャンルや時代背景以外の視点で、対話を楽しみながら鑑賞できるよう工夫した。

開催日	演題・内容	講　　師	場　　所	参加者数
6月13日	体で感じるアート展親子鑑賞講座	川谷承子（当館学芸員）、石上充代（当館学芸員）、鈴木雅道（当館学芸課主任）	展示室	21人
6月21日	体で感じるアート展親子鑑賞講座	川谷承子（当館学芸員）、石上充代（当館学芸員）、鈴木雅道（当館学芸課主任）	展示室	18人

■　フロア・レクチャー

展示室で展覧会の見どころや代表作品について解説するもの。申し込み不要。

開催日	演題・内容	講　　師	参加者数
5月31日	柳澤紀子展	柳澤紀子氏（画家）	60人
6月14日	柳澤紀子展	柳澤紀子氏（画家）	90人
7月26日	パウル・クレー展	南　美幸（当館主任学芸員）	32人
8月14日	パウル・クレー展	南　美幸（当館主任学芸員）	49人
9月13日	狩野派の世界2009展	福士雄也（当館学芸員）	25人
9月19日	ランドスケープ・ペインティング（西洋編）	小針由起隆（当館学芸部長）	20人
9月22日	狩野派の世界2009展	福士雄也（当館学芸員）	25人
9月23日	狩野派の世界2009展	飯田　真（当館学芸課長）	40人
10月17日	狩野派の世界2009展	石上充代（当館学芸員）	30人
10月18日	狩野派の世界2009展	福士雄也（当館学芸員）	30人

■　日本画をじかに見る

当館所蔵の日本画作品を、ケースに入れず、直接鑑賞していただくもの。要申し込み。

開催日	講座名	参加者数
7月27日	高校生による「狩野派の世界2009展」紹介映像製作取材	25人
9月27日	狩野派コレクション特別鑑賞会	22人
10月3日	狩野派コレクション特別鑑賞会	23人

■　移動美術展の講座等

移動美術展会場にて作品を解説するもの。申し込み不要。

開催日	内　　容	講　　師	場　　所	参加者数
1月11日	物語絵の世界展「池大雅と江戸絵画」	飯田　真（当館学芸課長）	佐野美術館	53人
1月31日	物語絵の世界展「近代日本画における物語」	石上充代（当館学芸員）	佐野美術館	59人
2月11日	物語絵の世界展「蘭亭の情景　－狩野派の絵画を中心に－」	福士雄也（当館学芸員）	佐野美術館	51人
3月6日、8日	日本画にみる風景展ギャラリートーク	飯田　真（当館学芸課長）	二の丸美術館	48人

■　出張美術講座

美術館職員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業を行ったり、ロダン体操の指導や教員向けの研修会講師を行うなどした。また、こどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業（静岡県主催）の事前学習のため、学芸員が中学校に赴き、美術講座を実施した。年間51回、4,499人。（p.73〜74参照）

対外活動

館職員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

＜講演会＞

飯 田　真：「池大雅と江戸絵画」（連続講座：物語絵の世界〜県立美術館日本画コレクションから①）【佐野美術館】1月11日

堀 切 正 人：「石田徹也の作品について」【浜松市美術館】4月26日

石 上 充 代：「近代日本画における物語」（連続講座：物語絵の世界〜県立美術館日本画コレクションから②）【佐野美術館】1月31日

福 士 雄 也：「蘭亭の情景 −狩野派の絵画を中心に−」（連続講座：物語絵の世界〜県立美術館日本画コレクションから③）【佐野美術館】2月11日

泰 井　良：「富士山の絵画と和田英作」【羽衣ホテル】2月11日

＜講座等＞

小針由紀隆：出張美術講座
【藤枝市立藤枝中学校】11月7日
【浜松市立入野中学校】1月25日
世界の文化遺産講義
【静岡県立大学】
「イタリアの広場を歩く 2009」12月9日

飯 田　真：「物語のある絵画展」ギャラリートーク
【佐野美術館】1月5日
「日本画にみる風景展」ギャラリートーク
【掛川市二の丸美術館】3月6日、3月8日
出張美術講座〜特別プログラム編
【気賀高等学校】3月12日

南　美 幸：出張美術講座（特別プログラム編）
【静岡市立伝馬町小学校】12月16日
出張美術講座
【東海大学附属翔洋中学校】1月14日
【浜松市立江西中学校】1月21日
【静岡市立清水第七中学校】2月3日

岡 崎 隆 司：出張美術講座
【静岡市立大谷小学校】4月27日
【静岡市立清水入江小学校】6月12日
【熱海市立泉小学校】10月7日
【沼津市立片浜中学校】10月19日
【静岡市立井宮北小学校】10月22日
【沼津市立浮島中学校】11月5日
【富士宮市立富士根南中学校】12月18日
【東海大学附属翔洋中学校】1月14日・15日
【島田市立第五小学校】2月17日
榛原地区教育研究発表会　8月4日
富士市図工主任者研修会　8月10日
静岡市図工・美術教員研修会　8月11日
富士地区教育研究協議会研究会　10月21日

堀 切 正 人：富士地区教育研究協議会研究会　10月21日
出張ロダン体操
【静岡市立大谷小学校】4月27日
【静岡市立井宮北小学校】10月22日
【島田市立第5小学校】2月17日
出張美術講座
【藤枝市立中学校】11月17日
【富士市立富士根南中学校】12月18日
【富士市立大淵中学校】1月22日
【静岡市立清水第八中学校】1月28日、29日
【静岡市立清水第七中学校】2月1日、2日、3日
静岡県博物館協会研修会「8.11地震を振り返る」事例報告【大岡信ことば館】
3月26日

鈴 木 雅 道：インストラクター「石田徹也　静岡ゆかりの画家達」【浜松市美術館】関連イベント＜絵画ワークショップ＞　5月3日
アドバイザー「静岡県高等学校美術・工芸教育研究会第1回研修会」【あざれあ】
6月12日
出張美術講座（特別プログラム編含）
【静岡市立商業高等学校】7月16日
【静岡市立伝馬町小学校】9月30日
【静岡市立中田小学校】10月6日
【浜松市立西都台小学校】11月27日
【沼津市立静浦西小学校】12月1日
【浜松市立相生小学校】12月4日
【静岡県立佐久間高等学校】12月7日
【牧之原市立萩間小学校】12月9日
【菊川市立加茂小学校】12月11日
【静岡市立伝馬町小学校】12月16日
【東海大学附属翔洋中学校】12月18日
【静岡市立清水興津小学校】1月13日

【湖西市立湖西中学校】１月15日
【島田市立相賀小学校】２月17日
【静大附属静岡小学校】２月24日
【静岡市立宍原小学校】３月３日
浜松市教育研究会　５月20日
富士市図工主任者研修会　８月10日
静岡大学教育学部附属島田中学校教育研究会　11月6日　美術・デザイン・映像・アニメ・漫画・芸術学進学相談会　3月12日
佐野美術館との共同出張美術講座
【三島市立北中学校】1月7日
【三島市立中郷西中学校】1月14日
掛川市二の丸美術館との共同出張美術講座
【掛川市立曽我小学校】2月10日

川 谷 承 子：出張美術講座～特別プログラム編
【浜松市立蒲小学校】12月1日
【浜松市立北浜南小学校】12月4日
佐野美術館との共同出張美術講座
【三島市立南中学校】1月15日

村 上　敬：村上誠個展イベント「対話：風景の中の"霊性"をめぐって」
【静岡文化芸術大学ギャラリー】11月17日
出張美術講座
【島田市立相賀小学校】2月17日

泰 井　良：静岡県博物館協会研修会
「美術館の評価について―静岡県立美術館における評価の取組みと設置者の役割―」
【掛川市立中央図書館】１月26日
出張美術講座～特別プログラム編
【浜松相生小学校】12月４日、
【東海大学翔洋中学校】１月13日
【牧之原市立萩間小学校】２月19日

石上充代：「石田徹也展と静岡ゆかりの画家」フロアレクチャー【浜松市美術館】５月９日
出張美術講座～特別プログラム編
【静岡市立商業高等学校】７月16日
【静岡市立伝馬町小学校】９月30日
【静岡市立中田小学校】10月６日
【熱海市立泉小学校】10月７日
【浜松市立西都台小学校】11月27日
【静岡市立宍原小学校】３月３日
富士市図工主任者研修会　８月10日
佐野美術館との共同出張美術講座
【三島市立北中学校】１月７日
【三島市立中郷西中学校】１月14日
【三島市立南中学校】１月15日
福 士 雄 也：出張美術講座～特別プログラム編
【浜松市立北浜南小学校】12月４日

＜出張粘土教室＞

岡崎隆司、鈴木雅道、エデュケーショナルスタッフ：
【浜松市立水窪小学校】11月10日
【県立袋井特別支援学校】11月12日
【県立富士特別支援学校】11月17日
【熱海市立伊豆山小学校】11月24日
【西伊豆町立仁科小学校】11月26日
【焼津市立大富中学校】12月１日
【静岡市立清水宍原小学校】12月３日
【静岡市立清沢小学校】12月８日
【浜松市立田沢小学校】12月10日
【静岡市立清水小河内小学校】12月15日
【静岡市立松野小学校】12月17日
【静岡市立清水小島小学校】３月４日
【県立静岡北特別支援学校清水分校】３月９日

＜美術館友の会事業への協力＞

（講座講師）
鈴 木 雅 道：「実技講座：美しいドイツ人女性を描きましょう」８月29日、30日
飯田真・石上充代・福士雄也：
「講座：日本画をじかに見る」10月３日
（研修旅行同行）
川 谷 承 子：「地中美術館に行こう」９月24日、25日

＜静岡県博物館協会＞

当館は同協会の事務局として、協会加盟館園の協力のもとに以下の事業を行った。

1　役員会・総会の開催　５月28日（県立美術館）
2　研修会・講習会の実施
(1) 講習会「博物館の評価をめぐって」
日時：平成22年１月26日（火）午後１時～
会場：掛川市立中央図書館会議室　参加者数：29名
内容：
・講演１「美術館の評価について―静岡県立美術館における評価の取組みと設置者の役割について―」泰井良氏（静岡県立美術館学芸員）
・講演２「企業におけるＣＳＲ活動の評価について」岡田恭子氏（資生堂企業資料館・資生堂アートハウ

ス館長）
・展覧会見学　掛川市二の丸美術館、資生堂企業資料館・資生堂アートハウス
（2）講習会「8.11地震を振り返る」
日時：平成22年3月26日（金）午後1時30分～
会場：Z会文教町ビル3階　大会議室
協力：大岡信ことば館　参加者数： 23名
内容：
・討議、事例報告　立花義彰氏（賛助会員）、堀切正人氏（静岡県立美術館）
・講演「文化財の防災対策の考え方」
小川雄二郎氏（富士常葉大学大学院環境防災研究科教授）
・展覧会見学　大岡信ことば館
3　講演会等の共催・後援
（後援）「社会人のための準デジタルアーキビスト資格所得講座」
日時：平成21年9月12日（土）～13日（日）
主催：岐阜女子大学、共催：株式会社レサンク
会場：静岡県総合社会福祉会館
（後援）「第7回災害－文化財を守る－」
日時：平成21年10月3日（土）
主催：静岡県教育委員会、静岡県文化財保存協会、富士市教育委員会、財団法人伊豆屋伝八文化振興財団
会場：富士市富士川ふれあいホール
4　静岡県博物館協会会報（No.63・No.64）の発行
5　静岡県博物館協会研究紀要 第33号（創立40周年記念号）の刊行
6　静岡県博物館協会ホームページの保守・運営
7　東海地区博物館連絡協議会総会への参加
日時：平成21年7月24日（金）
場所：山梨県立博物館
8　広報及び情報交換
随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。
9　事業推進グループによる事業の推進
事業推進グループ会合　4回開催
7/24、10/16、1/26、3/26
10　40周年記念事業
（1）記念式典、講演会
日時：平成21年10月16日（金）午後1時～
場所：静岡県立美術館　講堂　参加者数：150人
プログラム：
1　挨拶　宮治昭氏（静岡県博物館協会会長）
祝辞　遠藤亮平氏（静岡県教育委員会事務局　教育長）
2　功労者表彰
3　記念講演① 鼎談「これまでの博物館、これからの博物館」
講師：向坂鋼二氏（元浜松市博物館長）、
西源二郎氏（元東海大海洋博物館長）、
渡邉妙子氏（佐野美術館長）
司会：日比野秀男氏（常葉学園大学造形学部長）
4　記念講演② 特別講演会「静岡県の仏像」
講師：伊東史朗氏（和歌山県立博物館長）
（2）研究紀要「40周年記念号」の発行
特別寄稿、鼎談の抄録、協会の年表、研究紀要目録などを掲載

＜その他＞

小針由紀隆：静岡アートギャラリー企画協力委員
静岡県芸術祭審査委員
静岡市新美術館準備検討委員
第24回国民文化祭美術展企画委員
第24回国民文化祭美術展洋画部門審査委員長
飯 田　 真：豊橋市美術博物館資料収集委員
静岡市文化財保護審議委員
堀 切 正 人：「The Library 本になった美術」展（静岡アートギャラリー）公募作品審査員
泰 井　 良：（財）地域創造・公立美術館活性化事業企画検討委員会委員
同・公立美術館の「公益性」に関する調査・研究委員会委員
「描かれた海」展実行委員会監事
日本博物館協会常務委員会委員
福 士 雄 也：『美術史』168号査読委員

美術館ボランティア・広報サポーター

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985年から募集と研修を始め、86年４月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を継続してきたが、今年度、工事休館に伴うボランティア活動休止期間を機に大規模な組織改変と再募集を行うこととなった。

工事休館までの約７ヶ月間、平成21年11月８日までは従来のボランティア活動を継続し、それに並行して年度後半は新組織発足に向けて準備作業を進めた。

【従来活動】

■ 活動人数の推移（年度当初）

昭和61年度－　350名
昭和62年度－　307名
昭和63年度－　260名
平成元年度－　317名（新規参加者90名）
平成２年度－　263名
平成３年度－　240名
平成４年度－　223名
平成５年度－　347名（新規参加者140名）
平成６年度－　331名
平成７年度－　299名
平成８年度－　282名
平成９年度－　273名
平成10年度－　354名（新規参加者94名）
平成11年度－　316名
平成12年度－　297名
平成13年度－　265名
平成14年度－　331名（10月より新規参加者95名）
平成15年度－　328名
平成16年度－　303名
平成17年度－　285名
平成18年度－　278名
平成19年度－　241名
平成20年度－　227名
平成21年度－　211名

■ 活動内容

日常活動とグループ活動の２種があり、そのいずれかまたは両方に登録して活動する。各々の詳細は下に記すが、このほか鑑賞研修も重要な活動と位置づけ、収蔵品展は随時、企画展は各展数回の鑑賞研修の機会を設けている。また、企画展開幕時には「ボランティア内覧会」を実施し、広報活動等に役立てている。

□ 日常活動班

曜日別６班編成により、月２回または１回、規定の活動日に来館して下記の活動を行った。また、班相互の連絡調整のために「班長会」を開催した。

インフォメーションカウンターでの案内業務／図書閲覧室の運営及び公開端末利用の受付／来館者アンケート調査／障害のある方への補助／他館の展覧会ポスターの館内での掲示／新聞記事の切り抜きや整理など、美術館活動の基本資料の整備／その他、美術館の要請に応じて美術館活動を助けること

□ グループ活動

下記８グループが活動した。各グループの連絡調整の場として「グループ代表者会」を随時開催した。

（１）アートセンターＡ　閲覧室改善と運営
（２）アートセンターＢ　新聞資料・はがき整理
（３）ギャラリートーク　収蔵品展および企画展の来館者への作品解説
（４）草薙ツアー　草薙ツアーの計画・実施、彫刻プロムナード茶の世話、お茶会の企画・実施
（５）広報支援　美術館の広報活動支援
（６）実技室　実技室における各種イベント運営補助
（７）タッチ・ツアー・ガイド　タッチツアープログラムの案内係
（８）パソコン隊　パソコン入力による美術館のデータ整備支援

□ 運営会

各活動から選出された委員により運営会を構成、ボランティア活動全体の連絡調整及び総会の企画・運営を行った。

とりわけ今期は総会の運営に力を注いだ。全体を２部構成とし、第１部で従前の総会に準じた活動報告等を行い、第２部では事前アンケートに基づいた「ボランティアが選ぶ企画展ベスト10」の発表、草創期のボランティア担当であった田中文雄氏によるスピーチ、ボランティアと職員による座談会などを盛り込んだ。約110名のボランティアが集い、これまでの活動の締めくくりにふさわしい充実した総会となった。

■年間活動記録抄

３月28日　運営会（第１回）
４月９日　班長会（第１回）
４月13日　「よみがえる黄金文明」内覧会
４月22日　グループ代表者会（第１回）
５月12日　運営会（第２回）
６月１日　「柳澤紀子展」内覧会

6月9日　班長会（第2回）
6月24日　運営会（第3回）
7月21日　「パウル・クレー　東洋への夢」内覧会
7月31日　運営会（第4回）
8月21日　班長会（第3回）
9月8日　運営会（第5回）
9月14日　「狩野派の世界2009」内覧会
10月2日　グループ代表者会（第2回）
10月3日　班長会（第4回）
10月8日　運営会（第6回）
11月2日　総会

【新規募集】

■ 経緯

ボランティア発足以来今日までの間、社会の中でボランティアに対する認識は大きく変化し、県立美術館自体も近年の自己評価事業進展の過程で活動方針に変化が見られるようになった。平成18年度以降、これら情勢の変化への対応及び経年疲労の見られる組織の再活性化を目指して、グループ活動強化などのボランティア改革を行ってきた。本年の組織改革と再募集はその集大成と位置づけられるものである。

再募集にあたって、県立美術館ボランティア活動方針を＜来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携の推進＞と定め、これに沿って6つのグループ活動を設定した。また、新たに任期制（3年間）を導入して活動の活性化を促す仕組みを取り入れると共に、活動頻度を従来よりも高く設定することで（最低でも月2回以上）、美術館活動への理解を深め、かつ経験の蓄積を効率的にし、活動の質の向上を図ることとした。（詳細は募集要項参照）

定員130名に対して154名の応募があり、面接選考と研修を経て118名が新ボランティアとして登録した。これまでの成果を生かしつつ、新体制によるボランティアとしてさらなる充実を期し、平成22年4月から活動を開始する。

■ スケジュール

10月～　募集要項配布、応募受付開始
11月7日、11月26日、12月5日　募集説明会開催
12月12日　応募締切
12月17日～20日　面接選考
1月9日　共通研修1日目　講習
・県立美術館より挨拶
・オリエンテーション
・講演「社会におけるボランティアの役割と意義」
講師　小野田全宏氏（静岡県ボランティア協会 常務理事）
・講義「"美術館"の機能と役割」
・講義「ロダン館についてⅠ」
1月14日、16日　共通研修2日目　講習
・講義「静岡県立美術館について」
・講義「教育普及活動について」
・講義「総務課の仕事」
・講義•見学「ロダン館についてⅡ」
1月18日～2月3日　共通研修3日目　実習
中学生の芸術鑑賞推進事業対応
2月14日　共通研修4日目　講習・実習
・講座「接遇の基礎」
講師　大野晴己氏（株式会社はあもにい 代表取締役）
・講演「障害のある方への応対―基礎講座」
講師　井出一史氏（NPO法人障害者生活支援センターおのころ島 理事長）
・実習「車椅子体験」
・見学「美術館周辺の主要箇所」
2月24日、28日　共通研修5日目　講習
・見学「県立美術館の施設について」
・講義「知っておいてほしい活動の基本事項」
・実習「共通研修の仕上げ」
2月～3月　グループ別研修
3月下旬　本登録
4月1日　新体制で活動開始

静岡県立美術館のボランティアを募集します

静岡県立美術館では、平成 22 年 4 月のリニューアルオープンに伴い、新たにボランティアを募集します。

静岡県立美術館ボランティアの活動方針は、〈来館者サービス充実、美術館運営支援、地域連携推進〉の３つを柱としています。美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ架け橋として、下記６つのグループを用意しました。あなたの興味や関心に応じて、美術館を起点にくり広げられる様々なシーンで、ボランティアとして活動してみませんか。

■ 活動の種類と内容

① ご案内グループ	エントランスでのお客様のご案内や図書閲覧室の受付など、来館者対応が主な活動です。 ◆募集人数　50 名程度 ◆活動頻度　月 3~4 回（各半日） ◆向いている人、条件など ・人と接するのが好きな方
② 展示室グループ	展示室での作品鑑賞に関わる活動です。学校班とギャラリーツアー班の２つがあり、兼任も可能です。 学校班　学校等の団体観覧の際、館内誘導や展示室での子どもたちの話し相手などをしていただきます。 ◆募集人数　15 名程度 ◆活動頻度　月 2 回以上 ◆向いている人、条件など ・子どものつぶやきや発見に耳を傾けられる方 ・自分が話すことより、聞くことを大切にしてくれる方 ギャラリーツアー班　会話を通して、来館者に当館コレクションの魅力を伝えます。来館者の美術作品への関心を引き出し、鑑賞する事のおもしろさや楽しさを分かち合う活動です。 ◆募集人数　5 名程度 ◆活動頻度　月 2 回以上 ◆向いている人、条件など ・人と接するのが好きな方 ・美術に関心の高い方
③ タッチツアーグループ	目の不自由な方のための、彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチ・ツアー」のガイド役です。 ◆募集人数　15 名程度 ◆活動頻度　月 2 回程度 ◆向いている人、条件など ・人と接するのが好きな方 ・美術に関心の高い方 ・病院ボランティアや障害者支援活動にも興味のある方

④ 実技室グループ	実技室で行われる様々なイベントのお手伝いです。画材、材料の準備と片付け、清掃作業等をやっていただきます。 ◆募集人数　15 名程度 ◆活動頻度　月 2 回以上 ◆向いている人、条件など ・美術に関心の高い方 ・子供やお年寄りと笑顔で話していただける方 ・手や服が汚れることに抵抗のない方
⑤ 資料整理グループ	美術にまつわる資料整理に関する活動です。DM 整理とデータ化、ポスター掲示、閲覧室整備などを行います。 ◆募集人数　15 名程度 ◆活動頻度　月 2 回程度 ◆向いている人、条件など ・パソコンの基本操作が可能な方（エクセル、ワード等） ・美術及び美術館情報に関心の高い方 ・地道な作業が得意な方
⑥ 地域連携・草薙ツアーグループ	“地域と美術館を結ぶ”ことを目的として、美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術とお茶を関連づけたイベントの企画・運営、美術館茶畑の保護などを行います。 ◆募集人数　15 名程度 ◆活動頻度　年間 25 日程度 ◆向いている人、条件など ・協調性のある方 ・草取りや清掃など地道な活動が出来る方

※複数グループへの登録はできません。

■ 応募条件

・活動開始時 20 歳以上の方
・静岡県立美術館ボランティアの活動方針**＜来館者サービス充実、美術館運営支援、地域連携推進＞**に沿って、積極的に活動する意欲を持った方
・平成 22 年 1 月から 3 月（予定）にかけて実施する研修（7 回程度）を受講できる方
・原則として３年間継続して活動できる方
・グループごとに設定した条件を満たす方（グループ一覧参照）
・当館ボランティア経験の有無は問いません。

■ 経費について

交通費、報酬等の支払いはありません。
ボランティア保険に加入しますが、その保険料は美術館が負担します。

■ 本登録までの流れ

受付 →※1 面接選考 → 研修 → 選考 → 誓約書※2提出 → 本登録

※1　応募者多数の場合は、事前に抽選を行う場合があります。
※2　活動上の守秘義務や規則遵守等に関する内容です。

■ 応募方法

応募用紙に必要事項を記入し、返信用封筒を添えて郵送でご応募ください。返信用封筒には住所・氏名を記入し、80 円切手を貼付してください。

宛先　〒422－8002 静岡市駿河区谷田 53－2　静岡県立美術館　ボランティア担当
締切　平成 21 年 12 月 12 日(土)（必着）

※ご提出いただいた応募書類は返却しません。

■ 活動期間（任期）

平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日（3 年間）

【お問合せ】 静岡県立美術館　　学芸課　石上充代、堀切正人、川谷承子
〒422－8002 静岡市駿河区谷田 53－2
TEL 054－263－5857　FAX 054－263－5742

2010 静岡県立美術館ボランティア 申込用紙

ふりがな		**電　話**	
氏　名	（男・女）	**ﾌｧｸｼﾐﾘ**	
		e-mail	
生年月日	昭和・平成　　年　　月　　日		
住　所	〒		

活動希望グループのいずれかひとつに○をつけてください。

※複数グループへの登録はできません。ただし、展示室グループ内では両方の班への登録が可能です。

①ご案内グループ	
②展示室グループ	
③タッチツアーグループ	
④実技室グループ	
⑤資料整理グループ	
⑥地域連携･草薙ツアーグループ	

→ 展示室グループは希望する活動に○をつけてください。

学校班のみ	
ギャラリーツアー班のみ	
両方	

活動しやすい曜日に○をつけてください。

火　水　木　金　土　日

美術館ボランティアとして生かしたい資格や特技などがありましたら、お書きください。

静岡県立美術館ボランティアに応募した動機を教えてください。

※ここで知りえた個人情報は、今回の募集に関する範囲のみで利用し、適正な情報管理に努めます。

ボランティア募集要項

■地域サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度より「地域サポーター」と改称した。「美術館と展覧会の広報」の分野を担う、美術館に通って来ないボランティア活動として定着を見せており、平成21年度当初、登録人数は88名。

地域サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター・チラシおよび当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。地域サポーターは、当館ボランティア向けにおこなっている展覧会内覧会に参加できることとしている。広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくためである。また、実際の活動状況を把握するため、年に一度「活動アンケート」を義務付けている。

1)「地域サポーター」に登録すると
- 展覧会ポスターやチラシ、イベント情報が随時送られてくる
- 展覧会のボランティア・プレビューに参加できる
  地域サポーター証の発行を受ける

2)「地域サポーター」の義務
- 展覧会やイベントの情報を地域や職場に広める
- 効果的なポスター掲示場所等の情報を美術館に寄せる
- 年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する

なお、ボランティアの組織改革に伴い、「地域サポーター」についても制度を見直すこととした。その結果、現行の「地域サポーター」は今年度限りで一端終了し、新年度より新体制でのサポーターを募集することとなった。

友の会活動

1　諸会議

（1）理事会
平成21年5月16日(土)　静岡県立美術館　会議室
・平成20年度事業報告、決算報告
・平成21年度事業計画、予算案

（2）評議員会
平成21年5月16日(土)　静岡県立美術館　講座室
・役員改選、新任、退任について
・平成20年度事業報告、決算報告
・平成21年度事業計画、予算案

（3）事業委員会
静岡県立美術館　会議室　12回開催

（4）会報委員会
静岡県立美術館　会議室　25回開催

（5）ワーキンググループ
平成21年12月 8 日(火)　静岡県立美術館　会議室
1 回開催

（6）友の会募金箱設置打合せ（8 月末設置）
平成21年 8 月18日　会議室

2　実技講座

（1）実技講座「美しいドイツの女性を楽しく描きましょう」
平成21年 8 月29日(土)〜30日(日)　2 日間
静岡県立美術館　実技室
講　　師　鈴木雅道(県立美術館学芸課主任)
参加人数　26名

（2）実技講座「風景のなかの建造物のとらえかた」
平成21年11月 1 日（日）
富士市立博物館内　屋外展示場（広見公園）
講　　師　安冨 忍氏（工業デザイナー）
参加人数　19名

3　講演会等の開催

（1）「日本画をじかに見る」平成21年10月3日（土）
講　　師　飯田 真、石上充代、
　　福士雄也(静岡県立美術館学芸員)
参加人数　21名

4　親睦旅行

（1）「ルーブル美術館展」国立西洋美術館　日帰りバス旅行の旅
平成21年5月19日（火）
参加人数　33名
同　　行　小針由紀隆（県立美術館学芸部長）

（2）「地中美術館に行こう」直島地中美術館　一泊旅行
平成21年 9 月24日（木）〜25日（金）
参加人数　24名
同　　行　川谷承子(県立美術館学芸員)

5　美術館主催の講座等の後援

（1）美術館学校連携普及委託事業
・平成21年 4 月〜平成21年11月　109回開催
・粘土ワークショップのコーディネーター 1 名・助手 2 名の雇用と賃金支払事務等

6　情報資料の作成と提供

（1）友の会だより「プロムナード」発行（各1,000部）
・第69号（7 月15日発行）
　アトリエ訪問　美術家・森妙子氏
・第70号（12月15日発行）
　アトリエ訪問　画家・石黒賢一郎氏
・第71号（3 月15日発行）
　アトリエ訪問　彫刻家・秋田泰宏氏

（2）情報の提供
・美術館ニュース「アマリリス」郵送（年4回）
・各種催事の情報提供
・館内掲示板に「友の会からのお知らせ」を提示

7　その他の事業

（1）会員証の発行
（2）会員勧誘活動
　1 月16日　佐野美術館
　3 月 6 日　掛川市二の丸美術館
　延べ 2 日間実施

■静岡県立美術館友の会会則

制定　昭和61年５月25日
改正　平成13年６月16日

（名称）

第１条　この会は、「静岡県立美術館友の会」（以下「本会」という。）という。

（事務所）

第２条　本会の事務所は、静岡県立美術館内に置く。

（目的）

第３条　本会は、美術を愛好する人たちの集まりであり、静岡県立美術館の活動を後援することにより、本県の芸術文化の普及及び振興を図るとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深めることを目的とする。

（事業）

第４条　本会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

（１）講演会・講座・コンサート・映画会等の開催及び後援
（２）会報の発行
（３）鑑賞会及び研修旅行の開催
（４）出版事業
（５）静岡県立美術館が行う事業への協力・後援
（６）その他必要な事業

（会員の種類及び特典）

第５条　本会の会員は、一般会員、シニア会員、特別会員及び賛助会員とする。

（１）70歳以上の会員は、一般会員、シニア会員、特別会員のいずれかを選択する。
（２）会員資格の有効期限中における会員の種類の変更は、行わない。

２　会員は、所定の方法により本会が別表１に定める特典を受けることができる。

（会員の資格）

第６条　会員とは本会の主旨に賛同し、所定の入会申込みの手続きを行い、会費を納めた者をいう。

２　会員資格の有効期限は１年とする。ただし、会員から退会の申し出がない限り、さらに１年延長するものとし、その後も同様とする。

（年会費）

第７条　本会の年会費は、別表２のとおりとする。なお、納入された年会費は理由の如何を問わず、返還しない。

２　見学、実習などの参加者は、別に実費を負担するものとする。

（届出事項）

第８条　会員は、住所、氏名、電話番号、口座番号等の届出事項に変更があった場合は、直ちに本会に報告し、変更手続きを行う。

２　前項の報告がないために生じた会員の不利益又は損害については、本会は一切の責任を負わない。

（会員証）

第９条　本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

２　会員証には、クレジット機能はない。

３　会員証を譲渡又は貸与することはできない。

（会員証の紛失、盗難）

第10条　会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、直ちに本会に届け出る。

２　本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

（退会）

第11条　会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

２　前項により退会する場合は、会員有効期限の２か月前までに、本会に申し出を行う。

（組織）

第12条　本会に代議員会と理事会を置く。

（役員）

第13条　本会に次の役員を置く。

（１）会　長
（２）副会長　若干名
（３）代議員　30名以内
（４）理　事　15名以内
（５）監　事　２名

２　代議員及び理事は、会員の中から代議員会において選任する。

３　監事は、代議員会で選任する。

４　会長は、代議員の互選とし、副会長及び事務局長は代議員の同意を得て、会長が任命する。

（役員の職務）

第14条　役員の職務は次のとおりとする。

（１）会長は、本会を代表し、会務を統括する。
（２）副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、会長があらかじめ指定した副会長が、その職務を代理する。
（３）代議員は、付議された事項の審議、決定を行う。
（４）理事は、会の運営を行う。
（５）監事は、本会の業務及び会計を監査する。

（顧問）
第15条　本会に顧問を置く。
2　顧問は、静岡県立美術館長をもって充てる。
（役員の任期）
第16条　役員の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。
（会議）
第17条　本会の会議は、代議員会と理事会とし、会長、副会長及び理事並びに代議員の出席により開催する。ただし、特別の事情がある場合には、代理者が出席することができる。
2　代議員会は、すべての役員で構成され、毎年１回会長が召集し、次の事項を審議、決定する。
（１）予算及び決算
（２）事業計画及び事業報告
（３）役員の選出
（４）会則の改正
3　理事会は、会長、副会長及び理事で構成され、次の事項を審議する。
（１）代議員会に付議する事項
（２）その他会長が必要と認める事項

（議決）
第18条　代議員会の議事は、出席した役員（代理者も含む）の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長が決する。

（専決処分）
第19条　会長は、会議を召集することが困難と認めるときは、第17条第２項及び第３項に掲げる事項について、これを専決処分することができる。
2　前項の規定により専決処分したときは、会長はこれを次の会議において報告しなければならない。
（専門委員会）
第20条　本会に事業計画の策定や具体的な企画等の検討を目的とした事業委員会と会報委員会を置く。
（事務局）
第21条　本会の事務を処理するために、事務局を置く。
2　事務局に事務局長を置くことができる。
3　会長は､代議員の同意を得て、事務局長を理事とすることができる。
4　事務局に事務職員を置く。
（財務）
第22条　本会の経費は、会費その他の収入をもって充てる。
2　本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年の３月31日に終わる。

（補則）
第23条　この会則に定めるもののほか、会の運営等に関し必要な事項は、会長が定める。
附　則
この会則は、平成14年４月１日から施行する。

別表１　（第５条第２項関係）会員の特典

特典の種類 ＼ 会員の種類	一般会員	シニア会員	特別会員
①県立美術館主催の企画展招待券５枚	○		○
②会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○		○ （同伴４名まで）
③会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○		○ （同伴４名まで）
④友の会だより「プロムナード」（年３回）、美術館ニュース「アマリリス」（年４回）、その他、各種情報を郵送	○	○	○
⑤研修旅行（美術館めぐり）、各種講座等友の会主催の事業に参加可能	○	○	○ （同伴４名まで）
⑥会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」の飲料料金が会員本人のみ１割引	○	○	○
⑦会員証提示により、県立美術館内のブックショップの利用補助	○	○	○
⑧県立美術館主催の企画展オープニングセレモニー御招待			○ （同伴４名まで）

（注）○印は、特典を受けることができることを示す。

別表２　（第７条関係）年会費

会員区分	年会費	備考
一般会員	（１名） 5,000円	
シニア会員	（１名） 2,000円	70歳以上で、選択した人
特別会員	（１口）10,000円	
賛助会員	申し出のあった額	

広報活動（ホームページ）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、マスコミなどを通じ、広く館活動の広報を行っているが、近年では類似施設の増加、広報手段の多様化に伴い、入館者増加のために新たな広報展開が必要になってきている。

ここでは、紙媒体を中心にした広報活動とともに、新たな広報メディアとして注目されるホームページの運営について記載する。

＜広報活動＞

・展覧会等のイベント情報のマスコミへの資料提供
・ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
・学校に対する学校関係イベント情報の提供
・県広報課との連携（県民だより、県政番組など）
・ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hi、FMしみず）
・広報サポーターへの情報提供
（展覧会ごとに、ポスター・チラシを送付、口コミでの広報を依頼）
・展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
・広告掲載・テレビスポット放映、特集紙面、番組への協力など

＜ホームページ＞

http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp

静岡県立美術館ホームページは、平成８年度末に開設され、今年度で13年目を迎えた。年度別のアクセス概数は以下のとおりである。

平成８年度末～９年度（1997）	6000	
平成10年度（1998）	12000	累計　18000
平成11年度（1999）	21000	累計　39000
平成12年度（2000）	40000	累計　79000
平成13年度（2001）	70200	累計 149200
平成14年度（2002）	87300	累計 236500
平成15年度（2003）	85000	累計 321500
平成16年度（2004）	98000	累計 419500
平成17年度（2005）	103500	累計 523100
平成18年度（2006）	155400	累計 678500
平成19年度（2007）	164500	累計 843000
平成20年度（2008）	169780	累計1012780
平成21年度（2009）	149000	累計1156000

アクセス数はインターネットの普及に伴い年々増加してきたが、本年度は149000（一日平均408）アクセスで、昨年度の件数と比較し約20000件減少した。これは、11月以降の休館のためと思われる。

当館では、コンテンツの充実を図ることにより、魅力あるホームページを提供するよう運営に努めており、平成19年度にサイトの構成および全体のレイアウトを大幅に刷新し、平成20年度には、ロダン館ページをリニューアルした。建物の内部空間や作品の画像をふんだんに盛り込みながら、ロダンと展示作品をわかりやすく、くわしく紹介している。またロダン館での普及イベントの案内や、ロダン体操を動画で紹介するコーナーも設けている。平成21年度にはコレクション紹介のページのリニューアルを行った。

以前より行っているアンケートについては以下のとおり継続実施した。

・ホームページアンケート

ホームページ改善の資料とするため、WEB上でのアンケートを実施、聴取内容は以下のとおりでメールで回答できる形にした。

１．当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか
２．当ホームページの情報内容について
３．当ホームページの更新頻度について
４．当ホームページのデザインについて
５．当ホームページの見やすさについて
６．その他、当ホームページに対するご意見、ご要望

各項目、概ね満足度は高いが、字の大きさやデザインなど改善の参考になる意見も寄せられた。

なお、回答者の中からほぼ２ヶ月毎に抽選で５名の方に次回企画展の招待券をプレゼントした。

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもＡ４判８ページ、オールカラー

■第93（春）号　2009年４月１日発行
表紙　狩野探信守道《井出玉川・大堰川図屏風》／福士雄也 ……p. 1
平成20年度新収蔵品のご紹介／森 充代、村上敬、新田建史、堀切正人 ……pp. 2 , 3
よみがえる黄金文明展～ブルガリアに眠る　古代トラキアの秘宝～／新田建史 ……p. 4
静岡の美術Ⅸ　柳沢紀子展－水邊の庭－／堀切正人 ……p. 5
研究ノート　天保期の富士山図・谷文晁筆「富士山図屏風」をめぐって／飯田真 ……pp. 6 , 7
本の窓『ニコラ・プッサンとイエズス会図像の研究』／新田建史 ……p. 7
美術館問わず語り「風景ルルル～わたしのソトガワとのかかわり方」展をふり返って／川谷承子 ……p. 8

■第94（夏）号　2009年７月１日発行
表紙　長谷川潔《南仏風景》／村上敬 ……p. 1
美術館の改修工事について／村松斉 ……p. 2
実技室イベントの紹介「色彩アトリエSP～みんなでドット若冲!」「版画入門～シルクスクリーンでTシャツプリント」／岡崎隆司、鈴木雅通 ……p. 3
バウル・クレー東洋への夢／南 美幸 ……p. 4
特集　狩野派の世界2009／福士雄也 ……p. 5
研究ノート　他者／自己を見る目－ムーアによるロダン批評／南 美幸 ……pp. 6 , 7
本の窓『奇想の江戸挿絵』／飯田 真 ……p. 7
美術館問わず語り　命を削る者／堀切正人 ……p. 8

■第95（秋）号　2009年10月１日発行
表紙　山口長男《脈》／川谷承子 ……p. 1
夏休み子どもワークショップ「くねくね　スースー　ピーンであそぼう」／岡崎隆司 ……p. 2
出張美術講座に向けて／岡崎隆司 ……p. 3
特集狩野派の世界2009／福士雄也 ……p. 4
県立美術館での国民文化祭、もうすぐ開幕／小針由紀隆、鈴木雅通 ……p. 5
研究ノート　川村清雄《巨岩海浜図》の寓意について（試論）／堀切正人 ……pp. 6 , 7
美術館問わず語り／村上敬 ……p. 8

■第96（冬）号　2010年１月１日発行
表紙　大久保一丘《富嶽明暁図》／石上充代 ……p. 1
静岡県美の名品が三島・掛川へ ／飯田真 ……p. 2
第1回鑑賞教育指導者研究会＜報告＞／鈴木正道 ……p. 3
日本画新収蔵作品の紹介／福士雄也 ……p. 4
研究ノート　「サイトスペシフィック」から「コミュニティーへ」／川谷承子 ……pp. 6 , 7
本の窓『白隠－禅画の世界』／石上充代 ……p. 7
美術館問わず語り　美術館と学校との連携／岡崎隆司 ……p. 8

第93(春)号

第94(夏)号

第95(秋)号

第96(冬)号

新たな広報チャンネルの開拓

平成21年６月に開港した富士山静岡空港の就航先所在の県立美術館等8施設に展覧会等の情報提供を行うなど連携した広報を展開した。「特集 狩野派の世界2009」展では、展覧会就航先地域専用のパンフレットを作成し、就航先の空港や美術館等へ配架して、来館者を誘致した。

また、年間スケジュールパンフレットの中扉でロダン館内画像を大きく取り扱うことで、全国にロダン館の存在をＰＲするとともに、県内外にロダン館の存在と当館の魅力を広く発信するため、県庁文化政策室と連携し、ロダン館の効果的な誘客について会議を開催した。旅行会社勤務経験者から意見を聴取し、ツアー売り込みの可能性を模索した結果、平成22年1月に「夕暮れロダンツアー」を実施し、ロダン館のアピールに努めた。「夕暮れロダンツアー」では、322名の誘客を実現し、実施したアンケートには「とてもすばらしい企画」との声が多く寄せられるなど、参加者の反応も上々であった。

ロダン館展示・イベント

■ ミュージアムコンサート

ロダン館普及事業として、ロダン館内を会場に演奏会やコンサートを行うというものである。

1 ＜パウル・クレー ～東洋への夢＞展関連イベント
ロダン館コンサート 小杉 結ヴァイオリン・リサイタル「パウル・クレーに捧ぐ」
日 時：8月29日（土）
演奏者：小杉 結
観客数：362名

2 夕暮れロダンツアー
高校生（県立清水南高等学校芸術科生徒）のクラシック演奏を聞いた後、学芸員の解説を聞きながらロダン彫刻を観覧した。
日 時：1月30日（土）
演奏者：県立清水南高等学校芸術科音楽専攻7名
観客数：314名

施設利用状況（年度別）

年度		県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数
61		93,918	8,005	10,000	－	－
62		95,635	9,911	10,000	－	－
63		112,528	10,346	14,714	－	－
元		98,806	12,474	11,937	－	－
2		101,477	11,432	8,274	－	－
3		91,342	13,755	8,545	－	－
4		109,287	14,442	9,499	－	－
5		95,903	10,927	9,308	－	－
6		108,004	12,060	9,159	－	－
7		73,254	10,717	7,015	－	－
8		109,076	9,487	8,621	－	－
9		87,436	10,615	6,486	4,257	－
10		69,099	10,314	6,537	25,624	132
11		67,159	11,601	6,192	16,773	154
12		69,553	10,169	5,520	12,619	235
13		76,882	10,205	5,033	11,210	361
14		69,974	10,985	4,782	9,659	306
15		80,499	25,927	4,627	7,544	345
16		69,209	8,852	4,377	5,970	299
17		69,357	11,762	4,626	4,904	289
18		81,657	10,700	5,087	8,891	499
19		70,217	10,668	5,580	5,253	365
20		72,324	11,484	5,143	6,189	319
21		37,253	5,155	3,728	3,673	183
21年度月別内訳	4	5,850	561	515	292	24
	5	3,836	133	450	441	30
	6	3,300	550	325	233	34
	7	4,185	1,300	503	411	19
	8	5,071	1,013	891	857	34
	9	6,638	780	492	334	22
	10	6,343	718	440	316	20
	11	2,030	100	112	98	0
	12	－	－	－	－	－
	1	－	－	－	164	－
	2	－	－	－	255	－
	3	－	－	－	272	－
計		2,009,849	271,993	174,790	122,566	3,670

県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	3/31(火)	4/5(日)	6	A B	無	現代書作家展しずおか	現代書作家展しずおか運営委員会	1,553
2	4/7(火)	4/12(日)	6	A	無	息づく駿河の家具職人	森下雅行	1,175
3	4/15(水)	4/26(日)	11	A B	無	第36回二科会静岡県支部美術展	二科会静岡県支部	2,602
4	4/28(火)	5/3(日)	6	A	無	第10回キルトスタジオTo and For生徒作品展	庄司厚子門下生一同	951
5	5/5(火)	5/10(日)	6	A	無	第54回静岡形象派展	形象派美術協会静岡支部	1,081
6	5/5(火)	5/10(日)	6	B	無	第16回パソコンアート協会展示会	パソコンアート協会	1,298
7	5/26(火)	6/7(日)	12	A B	無	第46回静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	2,133
8	6/9(火)	6/21(日)	12	A B	無	第74回静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,281
9	6/23(火)	6/28(日)	6	A B	無	第28回一基書展	一基会	912
10	6/30(火)	7/5(日)	6	A B	無	第19回静岡県女流美術協会展	静岡県女流美術協会	891
11	7/7(火)	7/12(日)	6	A B	無	静岡自由美術展	静岡自由美術	739
12	6/9(火)	6/21(日)	12	A B	無	第37回静岡県油彩美術家連盟展	静岡県油彩美術家協会	1,889
13	7/28(火)	8/2(日)	6	A B	無	静岡独立展	静岡独立美術協会	1,130
14	8/4(火)	8/9(日)	6	A	無	第６回子ども造形、デザイン絵画教室展覧会	大森　恵	1,198
15	8/11(火)	8/16(日)	6	A B	無	静岡県写真愛好者秀作展	沖田完治	1,528
16	8/25(火)	8/30(日)	6	A	無	静岡能面研究会・デジタルアート合同展	デジタルアート静岡	993
17	8/25(火)	8/30(日)	6	B	無	きものギャラリー	三輪民庫	888
18	9/1(火)	9/6(日)	6	A	無	山本重哉水彩画展	山本重哉	735
19	9/8(火)	9/13(日)	6	B	無	パソコンアート協会作品展	パソコンアート協会	559
20	9/15(火)	9/20(日)	6	A B	無	第35回静岡県フレミッシュ織展	静岡県フレミッシュ織教室	915
21	9/22(火)	9/27(日)	6	A	無	デザイン静岡グループ展	デザイン静岡	1,910
22	9/22(火)	9/27(日)	6	B	無	もったいないもったいないの気持ちから	中嶋妃差子	2,257
23	9/29(火)	10/4(日)	6	A B	無	第25回千世の会書展	千世の会	1,113
24	10/7(水)	10/18(日)	11	A	無	しずおか発掘物語　～静岡発掘最前線～	静岡県教育委員会	2,035
25	10/7(水)	10/17(土)	10	B	無	「江戸から明治へ 静岡の貴重書と初代県知事関口隆吉」展	静岡県立中央図書館	1,516
26	10/24(土)	11/8(日)	14	A B	無	第24回国民文化祭	国民文化祭静岡県実行委員会	3,971
計								37,253

来館者のアクセス満足度

21年度のアクセス環境の満足度に対するアンケート集計の結果は、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は75.8%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は78.0％であった。過去５年間の状況を見ても、概ね２～３割の方が交通アクセスに満足していない、という結果になっている。

このことについて、まず自家用車利用者についての要因だが、企画展ごとの数字を見ると、「狩野派の世界展」での満足者の比率が68.7％と全体の平均75.8%と比較して低くなっているのがわかる。この展覧会は県外からの観覧者が比較的多い展覧会であったので、このことからすると、県外から自家用車で来館した方の多くが、交通アクセスに満足していなかったのではないかと推測することができる。県外からの来館者は東名高速道路の静岡インターチェンジか清水インターチェンジを利用するはずなので、両インターチェンジからの案内標識の見直しを行えば、自家用車利用者のアクセスに対する満足度が向上するのではないかと思われる。

次に公共交通機関の利用者についてであるが、ＪＲの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から、なだらかな上り坂を上ることになるので、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、このあたりがアクセスに満足してもらえない要因でないかと思われる。この、最寄り駅から近くないという問題は、郊外型美術館の宿命とも言え、なかなか有効な対策を講じることができていないのが実情であるが、路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間３分～６分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って来ることができるので、このことを電話等で照会があった際には積極的にＰＲしていきたい。

21年度に行ったアクセス環境の改善策としては、南幹線から美術館に入る交差点への案内看板の設置と、園地内の道路面及び歩道面の舗装の改修工事が挙げられる。どちらも来館者の利便性を向上させることができた。

平成21年度主要記事

4月1日　収蔵品展「新収蔵品展」（～5月15日）
12日　企画展「よみがえる黄金文明展」開幕（～5月15日）
18日　静岡県立美術館・浜松市美術館合同企画展「石田徹也展と静岡県ゆかりの画家」（～5月17日　浜松市美術館）
18日　よみがえる黄金文明展講演会「香りの不思議とその魅力」駒木良一（カネボウ化粧品香料研究室、チーフパフューマー）
26日　よみがえる黄金文明展特別講演会「トラキア遺宝の謎」禿仁志（展覧会監修、東海大学文学部教授）
5月3日　よみがえる黄金文明展「こどもの日スペシャル」（～5月6日）
16日　展示室整備などのため休館（～5月25日）
26日　企画展「静岡の美術IX　柳澤紀子展」開幕（～7月5日）
収蔵品展「体で感じるアート」（～7月5日）
31日　静岡の美術IX　柳澤紀子展「作家によるギャラリートーク」（5月31日、6月14日）
6月7日　静岡の美術IX　柳澤紀子展「スペシャルトーク」吉増剛造×林浩平×柳澤紀子
8日　第1回美術館研究活動評価委員会
13日　収蔵品展「体で感じるアート」親子鑑賞講座（6月13日、21日）
21日　静岡の美術IX　柳澤紀子展「実技講座」柳澤紀子×山本直
7月7日　収蔵品展「クレーの時代の日本洋画」（～9月6日）
14日　企画展「パウル・クレー　東洋への夢」開幕（～8月30日）
26日　「パウル・クレー　東洋への夢」展フロアレクチャー（7月26日、8月14日）
28日　夏休み子どもワークショップ「くねくね スースー ピーンで遊ぼう！」（～8月2日）
8月9日　パウル・クレー展特別講演会「パウル・クレーとはどのような芸術家だったのか」前田富士男（慶應義塾大学名誉教授）
22日　パウル・クレー展特別講演会「からだのリズム、かたちのリズム～クレーに近づくもうひとつの試み」恩地元子（東京芸術大学、武蔵野美術大学非常勤講師・表象文化論）
29日　パウル・クレー展・ロダン館コンサート　小杉結ヴァイオリン・リサイタル「パウル・クレーに捧ぐ」（ヴァイオリニスト）
9月8日　収蔵品展「ランドスケープ・ペインティング」（～11月8日）
10日　企画展「特集　狩野派の世界2009」展開幕（～10月18日）
13日　「特集　狩野派の世界2009」展フロアレクチャー（9月13日、22日、23日、10月17日、18日）
17日　第2回美術館研究活動評価委員会
21日　「特集　狩野派の世界2009」展特別講演会「探幽のいた季節～二条城の襖絵から館蔵品へ～」山下善也（京都国立博物館連携協力室長）
27日　「特集　狩野派の世界2009」展特別鑑賞会（9月27日、10月3日）
10月7日　共催展「江戸から明治へ　しずおかの貴重書と初代県知事関口隆吉」（県民ギャラリーB　～17日）
共催展「しずおか発掘物語‐しずおか発掘最前線-」（県民ギャラリーA　～18日）
10日　「特集　狩野派の世界2009」展美術講座「静岡県立美術館の狩野派コレクション」福士雄也（当館学芸員）
24日　第24回国民文化祭（～11月8日）
県立美術館 新ボランティア募集開始（～12月12日）
11月9日　本館・ロダン館展示室整備のため休館（～3月31日、ロダン館のみ1月16日から開館）
1月5日　移動美術展「物語絵の世界-静岡県立美術館&佐野美術館コレクションによる－」（～2月14日　佐野美術館）
30日　「夕暮れロダンツアー」開催
2月20日　移動美術展「日本画に見る風景-富士を愛でる山水から風景画」（～3月28日　掛川市二の丸美術館）

通月
創作週間（毎月原則第3週開室：通算48日）
ロダン館デッサン会（毎月原則第3金・土曜日：通算24日）
粘土開放日（毎月原則第4日曜日：通算9日）
絵の具開放日（毎月原則第1日曜日：通算8日）
土曜アトリエ（毎月原則第4土曜日：通算4日）
色彩アトリエ（毎月原則第1土曜日：通算3日）
ギャラリートーク（企画展53回、収蔵品展26回、学校向け55回）

（企画展）
よみがえる黄金文明展

No.	作品名	年代	出土地	材質技法	寸法（cm）
1	王笏	前5千年紀後半	ヴァルナ銅石器時代集団墓地1号墓	銅、金	斧：長19.2 幅3.2 厚3 上部の筒状製品： 長7.2 径2.4－2.2 下部の筒状製品：長7.4 径2.2
2	腕輪	前5千年紀後半	ヴァルナ銅石器時代集団墓地1号墓	金	a) 径9.6 幅4 b) 径9.6 幅5
3	王笏	前5千年紀後半	ヴァルナ銅石器時代集団墓地36号墓	金	長22.5 幅5.3
4	雄牛形アップリケ	前5千年紀後半ヴァルナ銅石器時代	集団墓地36号墓	金	長6.5 幅5.8 厚0.02
5	雄牛形アップリケ	前5千年紀後半ヴァルナ銅石器時代	集団墓地36号墓	金	長3.9 幅3.7 厚0.02
6	円盤状製品	後期青銅器時代（前2千年紀後半）	おそらく北西ブルガリア	エレクトロン（金銀合金）	a) 高13 径32.6 b) 高12.4 径31.3
7	青銅インゴット	後期青銅器時代（前15－前12世紀）	ブルガス州	青銅	長26 中央幅40 端部幅44 厚3.5－5
8	剣	後期青銅器時代（前15－前13世紀）	パザルジク州ドルノ・レフスキ村	青銅	長78
9	槍先	後期青銅器時代から初期鉄器時代初頭（前13－前11世紀）	ソフィア州サランツィ村	青銅	長19.6
10	鉢	前12－前11世紀	プレヴェン州ベレネ島	金	高7.3 口径11.4
11	角状突起付壺	前12－前11世紀	スリヴェン州ノヴァ・ザゴラ地区	土器	高42
12	鉢	前8－前7世紀	クルジャリ州シロコ・ポレ村所在の岩窟墓	土器	高17 口径26.2
13	鹿形青銅製品	前8－前7世紀	ガブロヴォ州セヴリエヴォ地区	青銅	高16
14	フィブラ	前8－前7世紀	ヴィディン州	青銅	長13.1
15	指輪	前5世紀	スタラ・ザゴラ州エゼロヴォ村所在の墳丘墓	金	リング：径2.7 印面部：1.7×2
16	女性彫像	前4世紀末－前3世紀初頭	ラズグラッド州スヴェシュタリ村所在の墳丘墓	石灰岩	高41
17	石碑	前3世紀初頭	スタラ・ザゴラ州シプカ村セウトポリス	大理石	高63 幅25 厚6 文字の大きさ：0.6－1.1
18	スキュフォス杯	前5世紀末－前4世紀初頭	パザルジク州ストレルチャ地区オレラ墳丘墓	銀、鍍金	高8.9
19	ゴブレット	前5世紀末－前4世紀初頭	ヴラツァ州ミズィヤ市	銀、鍍金	高12.2
20	フィアラ杯	前4世紀	ロヴェチュ州ルコヴィト地区	銀、鍍金	高7 径8.6
21	松かさ形リュトン	前4世紀	ヴラツァ州モギランスカ墳丘墓2号墓	銀	高14 胴部最大径6
22	フィアラ杯	前4世紀後半	シュメン州ヴルビツァ村	銀、鍍金	高8.7 径9.7
23	カンタロス杯	前4世紀末－前3世紀初頭	シュメン州アレクサンドロヴォ村	銀	高10 口径10
24	把手付シトゥラ	前4世紀中頃	スタラ・ザゴラ州シプカ村近郊のマルカタ・モギラ墳丘墓	青銅	高21.5 口径16.5 底径10.8
25	把手付シトゥラ	前4世紀末－前3世紀初頭	ハスコヴォ州メゼク村マル・テペ墳丘墓	青銅	高32 口径30.5
26	アスコス	前4世紀末－前3世紀初頭	ハスコヴォ州メゼク村マル・テペ墳丘墓	青銅	高23
27	レキュトス	前4世紀末	メズドラ州	青銅	高9 径7.2
28	円形飾り金具	前4世紀	ハスコヴォ州メゼク村マル・テペ墳丘墓	青銅	厚4.7 径11
29	円形飾り金具	前4世紀	ハスコヴォ州メゼク村マル・テペ墳丘墓	青銅	厚4.4 径11

No.	作品名	年代	出土地	材質技法	寸法（cm）
30	飾り円盤付フィアラ杯	前2－前1世紀	モンタナ州ヤキモヴォ村	銀、鍍金	高8 口径15.2 円盤径8
31	飾り円盤付フィアラ杯	前2－前1世紀	モンタナ州ヤキモヴォ村	銀、鍍金	高10.2 口径16.5 円盤径8
32	女性胸像のファレラ	前2世紀	ヴラツァ州ガリチェ村	銀、鍍金	径18.3
33	騎馬戦士のファレラ	前2世紀	ヴラツァ州ガリチェ村	銀、鍍金	径15.8
34	短剣	前7世紀	ヴァルナ州ベログラデツ村近郊の第4号墳丘墓	鉄、金	長42 刃長27 刃幅3
35	鞘	前7世紀	ヴァルナ州ベログラデツ村所在の墳丘墓	金、琥珀	長20 幅4.4
36	注口付アンフォラ	前5世紀初頭	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のクコヴァ墳丘墓	銀、鍍金	高27 口径13.4
37	赤絵式クラテル	前470－前450年	ハスコヴォ州シメオノフグラッド地区所在の墳丘墓	陶器	高33.8 口径26.2 把手間幅31.6 胴部最大径26 底径15
38	赤絵式ペリケ	前440－前430年	プロヴディフ州ブレゾヴォ地区チェルヴェンコヴァ墳丘墓	陶器	高44.5 口径22 胴部最大径34 器台径21
39	赤絵式クラテル	前460－前450年	ブルガス州ソゾポル市ハルマニテ所在の集団墓地	陶器	高29.5 口径33.5 器台径13.8
40	赤絵式クラテル	前440年	ブルガス州ソゾポル市ハルマニテ所在の集団墓地	陶器	高23.5 口径27.7 器台径10.5
41	赤絵式クラテル	前435－前420年	スリヴェン州トヴルディツァ地区墳丘墓	陶器	高30 口径33
42	赤絵式ヒュドリア（カルピス）	前4世紀前半	ブルガス州ソゾポル市ハルマニテ所在の集団墓地	陶器	高36 胴部径32.5 口径23.5
43	ヒュドリア	前4世紀	ブルガス州ネセブル市所在の集団墓地	青銅	高48.5 径30
44	彫刻・銘文付墓碑	前3世紀	ブルガス州ネセブル市	大理石	高60 幅27 厚8 刻銘サイズ1.5
45	トルク	前4世紀末	モンタナ州ゴルニ・ツィブル村	金	径15.5
46	仮面付兜	1世紀中頃	スタラ・ザゴラ州チャタルカ所在の第1号墳丘2号墓	青銅、鉄	高23.5 幅20 厚18
47	剣と鞘	1－2世紀	ハスコヴォ州スヴィレングラッド地区所在の墳丘墓	鉄、青銅、木	長57 最大幅5.5
48	外科手術道具一式	2－3世紀	トゥルゴヴィシュテ州リュブレン村近郊の墳丘墓	銀	長12
49	円筒形容器	2世紀	ロヴェチュ州ゴリャマ・ブレストニツァ村	銀	高9 径22
50	把手付カップ	2世紀	ロヴェチュ州ゴリャマ・ブレストニツァ村	銀	高4－6 径5－7.6
51	トラキア人を描いた赤絵式水差し	前430－前425年	ブルガス州ソゾポル市ハルマニテ所在の集団墓地	陶器	高14 口径9 胴部径12
52	トラキア人を描いた赤絵式水差し	前450－前425年	ブルガス州カルノバト地区所在の墳丘墓	陶器	高18.3 口径8.9 底径6.6
53	帯金具	前5世紀末	スタラ・ザゴラ州ロヴェツ村	銀、鍍金	長31 幅5
54	胸飾り	前4世紀後半	ハスコヴォ州メゼク村マル・テペ墳丘墓	鉄、銀、鍍金	径29 幅26.5 襟元径13
55	兜	前4世紀前半	ブラゴエフグラッド州プレテナ村	青銅、銀	高39 径20.6－22.9
56	兜	前4世紀後半	ブラゴエフグラッド州サトフチャ地区	青銅	高37 幅21
57	すね当て	前4世紀	ブラゴエフグラッド州プレテナ村	青銅	高42.5 幅11.9
58	鎧	前5世紀後半	トゥルゴヴィシュテ州ルエツ村近郊の墳丘墓	青銅、銀	前面：高33 幅36 背面：高36 幅34.8 エプロン：高21 幅28.3
59	兜	前5世紀	ソフィア州チェロペチュ地区	青銅	高30.4 幅18.4
60	曲剣	前4世紀	ヴラツァ州	鉄	長37.6 幅6
61	短剣	前5－前4世紀	ドブリチュ州デブレネ村	鉄	長32.2 身幅5 柄長8.5 柄厚0.7
62	剣	前5－前4世紀	ガブロヴォ州アガトヴォ村	鉄	長73 身最大幅7.3 身長59.5

No.	作品名	年代	出土地	材質技法	寸法（cm）
63	曲剣と鞘頭	前4世紀末－前3世紀	不詳	鉄	長39 幅3.7
64	剣と鞘	前2世紀末－前1世紀	ヴラツァ州	鉄	長89.5 幅4.5
65	槍先	前3－前2世紀	モンタナ州ジヴォフツィ村	鉄	長66 幅5
66	剣	前4－前3世紀	プロヴディフ州チェルヴェン村	鉄	長145 身長88 身基部：幅2.8 厚0.9 柄：長57 幅1.4 厚1.2
67	剣	前4－前3世紀	プロヴディフ州ルエン村	鉄	長137 身長85 身基部：幅2.8 厚1 柄：長52 幅1.6 厚1.2
68	面繋	前4－前3世紀	不詳	青銅	高18.3 幅19
69	面繋飾り	前4世紀	ロヴェチュ州ルコヴィト地区	銀、鍍金	高3.6 長10 幅7.5
70	飾り金具	前4世紀	ロヴェチュ州ルコヴィト地区	銀、鍍金	長8.3 幅7.4 厚0.8
71	飾り金具	前4世紀	ロヴェチュ州ルコヴィト地区	銀、鍍金	長9.2 幅5.5 厚0.5
72	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高6 幅4.8
73	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高4.8 幅5.5
74	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高4.9 幅5.6
75	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高4.9 幅5.6
76	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高4.8 幅6
77	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高6 幅4.5
78	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	径8.3
79	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高5.8 幅5.1
80	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高4.7 幅5.9
81	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高5.3 幅5.8
82	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高4.8 幅6.1
83	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高4.8 幅6
84	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高5.1 幅6
85	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高5.3 幅5.2
86	飾り金具	前4世紀前半	ロヴェチュ州レトニツァ市近郊	銀、鍍金	高8.2 幅8.9
87	アルテミス像	前5世紀	ドブリチュ州トゥズラ村ベロモルスキ海岸	テラコッタ	高80
88	アポロ頭部像	2世紀	ソフィア州ソフィア市	青銅、鍍金	高36
89	アポロ像	1－2世紀	スタラ・ザゴラ州スタラ・ザゴラ市	青銅	高50
90	ヘラクレス像	3世紀	ヴィディン州アルチャル村	大理石	高41 土台：幅30 奥行25
91	ヘラクレス像	ヘレニズム期（前3世紀）のオリジナル品またはローマ帝国期の模造品	スタラ・ザゴラ州トポリャネ村	青銅	高43
92	アテナ・ニケ像	3世紀	スタラ・ザゴラ州キリロヴォ村	青銅	高（土台含） 47.5
93	アドニスとアフロディテの彫像	前1世紀	ヴァルナ州ヴァルナ市	大理石	高46
94	アスクレピオス奉納碑	2世紀	パザルジク州バトクン村	大理石	高29.5 幅20.5－27 厚5
95	ゼウス奉納碑	3世紀	プロヴディフ州	大理石	高49 幅29 厚6

No.	作品名	年代	出土地	材質技法	寸法（cm）
96	ディオニュソス奉納碑	2世紀末	スタラ・ザゴラ州キリロヴォ村	大理石	高41.5 幅26.5 厚6
97	トラキア騎馬戦士像奉納碑	2世紀	ロヴェチュ州ズラトナ・パネガ村	大理石	高33 幅28 厚5
98	トラキア騎馬戦士像奉納碑	3世紀初頭	ロヴェチュ州ズラトナ・パネガ村	大理石	高26 幅：上部19 下部23 厚3
99	トラキア騎馬戦士像奉納碑	3世紀	ロヴェチュ州ズラトナ・パネガ村	大理石	高22 幅20 厚3.5
100	トラキア騎馬戦士像墓碑	2世紀	プロヴディフ州	大理石	高57 幅46 厚7
101	水差し	前4世紀中頃	ヴラツァ州モギランスカ墳丘墓3号墓	金	高9 最大径7
102	イヤリング	前4世紀後半	ヴラツァ州モギランスカ墳丘墓2号墓	金	高7.5 円盤部径2.6
103	胸飾り	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	金	高27 幅31
104	指輪	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	金、水晶	印面：高2.3 幅2.5 厚1
105	鎧	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	青銅、鍍金、銀	前面：高39 下部幅30 肩部幅25 背面：高44 下部幅33 肩部幅32
106	赤絵式ヒュドリア（カルピス）	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	陶器	高40 口径14 最大径30 底径10
107	ヒュドリア（カルピス）	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	青銅	高36 最大径33 口径15 底径13.5
108	ルテリオン	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	青銅	高17 口径50 底径30
109	キュリクス杯	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	銀、鍍金	高3.5 径13.5
110	スプーン	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	銀	a) 長11.5　b) 長12.5
111	儀礼用具（？）	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	銀	長37.5
112	濾過器付パテラ	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	銀	胴部：高4 径13.5　把手長28.5
113	レキュトス杯	前5世紀後半	プロヴディフ州カロヤノヴォ地区チェルノゼム第1号墳丘墓	陶器	a) 高19.5 最大径9.5 口径3.5 底径5 b) 高18.5 最大径9 口径3 底径4.5
114	胸飾り	前5世紀第2四半期	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のムショヴィツァ墳丘墓	金	長25.9
115	イヤリング	前5世紀前半	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のムショヴィツァ墳丘墓	金	長3.6
116	ネックレス	前5世紀前半	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のムショヴィツァ墳丘墓	金	ビーズ径0.9　球形垂飾径1.3
117	イヤリング	前5世紀前半	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のムショヴィツァ墳丘墓	金	径2.7－3.2
118	フィアラ杯	前6世紀末－前5世紀初頭	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のムショヴィツァ墳丘墓	銀	高4.6 径11.7
119	黒絵式アンフォラ	前480－前470年	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のムショヴィツァ墳丘墓	陶器	高42.2　口径18.2 脚台径13
120	イヤリング	前5世紀	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のアラバジィスカ墳丘墓	金	長2.3－2.5
121	イヤリング	前5世紀	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のアラバジィスカ墳丘墓	金	長2.8、3
122	ネックレス	前5世紀	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のアラバジィスカ墳丘墓	金	ビーズ径0.9 球形垂飾の径2.5
123	胸飾り	前5世紀中頃	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のゴリャマタ墳丘墓	金	長38.5 幅9.5
124	胸飾り	前5世紀中頃	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のゴリャマタ墳丘墓	金	長17.5 幅7
125	指輪	前5世紀第3四半期	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のゴリャマタ墳丘墓	金	リング径2.6 印面：高1.4 幅2.3
126	カンタロス杯	前5世紀第3四半期	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のゴリャマタ墳丘墓	銀、鍍金	高25.5 径16.5
127	胸飾り	前5世紀後葉	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のバショヴァ墳丘墓	金	長13.9

No.	作品名	年代	出土地	材質技法	寸法（cm）
128	馬形リュトン	前5世紀後半	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のバショヴァ墳丘墓	銀、鍍金	高20.6
129	水差し	前5世紀後半	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のバショヴァ墳丘墓	銀	高8.4 径8.4
130	キュリクス杯	前5世紀後半	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のバショヴァ墳丘墓	銀、鍍金	高3 径13
131	フィアラ杯	前5世紀後半	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のバショヴァ墳丘墓	銀、鍍金	高3 径20.5
132	赤絵式ヒュドリア	前5世紀後葉	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のバショヴァ墳丘墓	陶器	高45.5 径34
133	ヒュドリア	前5世紀後半	プロヴディフ州ドゥヴァンリ村近郊のバショヴァ墳丘墓	青銅	高45 径30.5
134	トラキア王の黄金のマスク	前5世紀後半	スタラ・ザゴラ州シプカ村スヴェティツァ墳丘墓	金	高20 幅23 奥行4.1
135	指輪	前5世紀後半	スタラ・ザゴラ州シプカ村スヴェティツァ墳丘墓	金	印面：高1.8 幅2.4 環：径2.4
136	すね当て	前4世紀後半	スタラ・ザゴラ州シプカ村ゴリャマ・コスマトゥカ墳丘墓	青銅	高42.5－43 幅11
137	兜	前4世紀後半	スタラ・ザゴラ州シプカ村ゴリャマ・コスマトゥカ墳丘墓	青銅、銀	高23
138	フィアラ杯	前4世紀後半	スタラ・ザゴラ州シプカ村ゴリャマ・コスマトゥカ墳丘墓	銀	高5.5 胴部径9.9 口径10.6
139	オイノコエ	前4世紀後半	スタラ・ザゴラ州シプカ村ゴリャマ・コスマトゥカ墳丘墓	銀	高9.5 胴部最大径7.3 底径4.3
140	飾り金具	前4世紀後半	スタラ・ザゴラ州シプカ村ゴリャマ・コスマトゥカ墳丘墓	金	高5.3 幅3.2
141	キュリクス杯	前4世紀後半	スタラ・ザゴラ州シプカ村ゴリャマ・コスマトゥカ墳丘墓	金	高5.9 径9.5
142	黄金の花冠	前4世紀中頃	ヤンボル州ズラティニツァ村ゴリャマタ墳丘墓	金	花冠内径約19 葉長約4.5 実の軸長約2
143	鹿形リュトン	前4世紀中頃	ヤンボル州ズラティニツァ村ゴリャマタ墳丘墓	銀、鍍金	高17 開口部径9.9
144	指輪	前4世紀中頃	ヤンボル州ズラティニツァ村ゴリャマタ墳丘墓	金	印面：径2.5 厚0.2 輪：径2
145	剣	前4世紀中頃	ヤンボル州ズラティニツァ村ゴリャマタ墳丘墓	鉄、銀、木	長81.2 柄：長13.6 厚2.1 刃部最大幅6.5
146	槍先	前4世紀中頃	ヤンボル州ズラティニツァ村ゴリャマタ墳丘墓	鉄	長54.7 最大幅6.8 柄内径2.2
147	盤	前4世紀中頃	ヤンボル州ズラティニツァ村ゴリャマタ墳丘墓	青銅	高5 径35.9 把手長8
148	オイノコエ	前4世紀中頃	ヤンボル州ズラティニツァ村ゴリャマタ墳丘墓	青銅	高23.8 底径11.2
149	ネックレス	前期青銅器時代第3段階（前3千年紀末）	プロヴディフ州ドゥベネ村所在の第3号墳丘墓	金	長44
150	ネックレス	前期青銅器時代第3段階（前3千年紀末）	プロヴディフ州ドゥベネ村所在の第3号墳丘墓	金	径20
151	ペガサス形金製品	前4世紀中頃	ラズグラッド州ヴァゾヴォ村	金	高14.8
152	馬形リュトン	前4世紀前半	ルセ州ボロヴォ村	銀、鍍金	高21.5 口径10.2
153	スフィンクス形リュトン	前4世紀前半	ルセ州ボロヴォ村	銀、鍍金	高20.8 口径10.7
154	雄牛形リュトン	前4世紀前半	ルセ州ボロヴォ村	銀、鍍金	高16.6 口径8.8
155	水差し	前4世紀	ヴラツァ州ロゴゼン村	銀	高12 口径6.5 胴径8.3 底径5.1
156	ゴブレット	前4世紀	ヴラツァ州ロゴゼン村	銀、鍍金	高20 口径13 底径12
157	水差し	前4世紀	ヴラツァ州ロゴゼン村	銀、鍍金	高13.5 口径7.8 胴径8.5 底径5.1
158	水差し	前4世紀	ヴラツァ州ロゴゼン村	銀	高11.5 口径7.3 胴径8 底径4.5
159	水差し	前4世紀	ヴラツァ州ロゴゼン村	銀、鍍金	高13 口径5.5 胴径7.4 底径4
160	水差し	前4世紀	ヴラツァ州ロゴゼン村	銀	高14.3 口径6 胴径7.5 底径4.2

No.	作品名	年代	出土地	材質技法	寸法（cm）
161	水差し	前4世紀	ヴラツァ州ロゴゼン村	銀、鍍金	高12.5 口径5.9 胴径7.7 底径4
162	フィアラ杯	前4世紀（第3四半世紀？）	ヴラツァ州ロゴゼン村	銀、鍍金	高2 径13.6
163	フィアラ杯	前4世紀前半	ヴラツァ州ロゴゼン村	銀、鍍金	高4 径18.5
164	山羊形リュトン	前4世紀末－前3世紀初頭	パザルジク州パナギュリシュテ地区	金	高14
165	鹿形リュトン	前4世紀末－前3世紀初頭	パザルジク州パナギュリシュテ地区	金	高13.5
166	鹿形リュトン	前4世紀末－前3世紀初頭	パザルジク州パナギュリシュテ地区	金	高12.5
167	女性頭部形リュトン	前4世紀末－前3世紀初頭	パザルジク州パナギュリシュテ地区	金	高22.5
168	女性頭部形リュトン	前4世紀末－前3世紀初頭	パザルジク州パナギュリシュテ地区	金	高20.5
169	フィアラ杯	前4世紀末－前3世紀初頭	パザルジク州パナギュリシュテ地区	金	高3.5 径25
170	アンフォラ形リュトン	前4世紀末－前3世紀初頭	パザルジク州パナギュリシュテ地区	金	高29

静岡の美術IX　柳澤紀子展

No.	タイトル	制作年	技法	サイズ (cm)	備考
1	聖	1964	エッチング、ドライポイント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	55.0×36.0	
2	Lips	1964	エッチング、アクワチント、ドライポイント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	36.0×55.0	
3	人間風景-営み	1968	エッチング、アクワチント、ドライポイント、ベランアルシュ紙	55.0×36.0	
4	人間風景I	1972	エッチング、アクワチント、ベランアルシュ紙	36.0×55.0	
5	人間風景II	1972	エッチング、アクワチント、ベランアルシュ紙	36.0×55.0	
6	Descent	1976	エッチング、アクワチント、ドライポイント、シルクスクリーン、ベランアルシュ紙	36.0×34.0	
7	旅の終り	1979	エッチング、アクワチント、シルクスクリーン、ベランアルシュ紙	42.0×57.5	
8	原風景への旅　I	1980	エッチング、アクワチント、シルクスクリーン、和紙	50.0×33.5	
9	原風景への旅　II	1980	エッチング、アクワチント、シルクスクリーン、和紙	50.0×33.5	
10	ラダック紀行-隠し緑	1981	エッチング、アクワチント、シルクスクリーン、ベランアルシュ紙	47.0×48.5	
11	残夢	1981	エッチング、アクワチント、ドライポイント、シルクスクリーン、ベランアルシュ紙	30.0×50.0	
12	時の移ろい-夏めく	1982	エッチング、メゾチント、アクワチント、シルクスクリーン、ベランアルシュ紙	36.5×48.0	
13	時の移ろい-白昼	1982	エッチング、メゾチント、アクワチント、シルクスクリーン、ベランアルシュ紙	30.5×47.0	
14	時の移ろい-残花	1982	エッチング、メゾチント、アクワチント、シルクスクリーン、ベランアルシュ紙	35.0×48.0	
15	ある景色I	1983	エッチング、メゾチント、アクワチント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	30.0×36.0	
16	ある景色II	1983	エッチング、メゾチント、アクワチント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	30.0×36.0	
17	詩画集『海へ』　I	1984	エッチング、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙	9.1×12.5	
18	詩画集『海へ』 II	1984	エッチング、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙	10.4×14.7	
19	詩画集『海へ』 III	1984	エッチング、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙	10.8×12.1	
20	詩画集『海へ』 IV	1984	エッチング、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙	9.1×15.2	
21	詩画集『海へ』 V	1984	エッチング、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙	11.5×16.0	
22	詩画集『海へ』 VI	1984	エッチング、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙	10.0×15.8	
23	詩画集『海へ』 Ⅶ	1984	エッチング、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙	11.2×16.4	
24	詩画集『海へ』	1984	エッチング、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙	10.4×13.4	
25	海	1984	エッチング、メゾチント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	30.0×11.0	
26	地表I	1985	エッチング、アクワチント、ルーレット、手彩色、和紙	24.0×22.0	
27	地表II	1985	エッチング、アクワチント、ルーレット、手彩色、和紙	12.0×22.0	
28	地の根	1986	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に部分雁皮刷り	49.0×86.0	
29	地の詩II	1988	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に部分雁皮刷り	94.0×64.0	
30	空の片 I	1988	エッチング、ルーレット、手彩色、和紙	23.0×19.0	
31	空の片 II	1988	エッチング、ルーレット、手彩色、和紙	11.0×30.0	
32	Wind	1988	エッチング、ルーレット、手彩色、和紙	21.0×29.0	

No.	タイトル	制作年	技法	サイズ (cm)	備考
33	樹間から II	1991	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に部分雁皮刷り	105.0×75.0	
34	Paradise I	1992	エッチング、アクワチント、手彩色、ベランアルシュ紙	45.0×45.0	
35	Paradise II	1992	エッチング、メゾチント、アクワチント、ベランアルシュ紙に部分雁皮刷り	45.0×45.0	
36	分水嶺 I	1993	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に部分雁皮刷り	92.0×60.0	
37	分水嶺 II	1993	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に部分雁皮刷り	91.0×57.3	
38	境界 I	1993	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に部分雁皮刷り	29.5×44.5	
39	境界 II	1993	エッチング、メゾチント、スピットバイト、ルーレット、ベランアルシュ紙に部分雁皮刷り	29.5×45.0	
40	翼を外して I	1995	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	82.0×59.0	
41	翼を外して II	1995	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	59.0×82.0	
42	何処へ I	1995	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ドライポイント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	29.0×56.0	
43	エーテルの境界 I	1996	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ドライポイント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	60.0×94.0	
44	エーテルの境界 II	1996	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ドライポイント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	60.0×94.0	
45	館 I	1996	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ドライポイント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	36.0×70.0	
46	館 III	1997	エッチング、メゾチント、ルーレット、ドライポイント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	55.0×37.0	
47	館 IV	1997	エッチング、メゾチント、ルーレット、ドライポイント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	55.0×37.0	
48	木霊を聴く I	1997	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	60.0×101.0	
49	木霊を聴く II	1997	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	60.0×101.0	
50	Transit I	1997	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	45.0×98.0	
51	Transit II	1997	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	45.0×98.0	
52	水邊の庭 I	1998	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	60.0×105.0	
53	水邊の庭 II	2005	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	50.0×102.0	
54	水邊の庭 III	1999	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	62.0×107.0	
55	水邊の庭 IV	1999	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	62.0×107.0	
56	水邊の庭 V	2000	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	62.5×108.0	
57	水邊の庭 VI	2000	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	65.0×105.0	
58	水邊の庭 VII	2002	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	50.0×102.5	
59	水邊の庭 VIII	2002	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	50.0×102.5	
60	水邊の庭 IX	2003	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	102.5×50.0	
61	水邊の庭 X	2003	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	50.0×102.5	
62	Fragment	2001	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、和紙	22.8×23.0	
63	Fragment I	2002	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、和紙	25.5×23.5	
64	Fragment III	2002	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、和紙	24.5×25.5	
65	Fragment IV	2002	エッチング、メゾチント、手彩色、和紙に雁皮刷り	23.0×29.5	

No.	タイトル	制作年	技法	サイズ (cm)	備考
66	Fragment V	2002	エッチング、メゾチント、手彩色、和紙に雁皮刷り	23.5×24.5	
67	Fragment VI	2003	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、和紙	24.0×23.0	
68	Fragment VII	2003	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、和紙	23.0×25.0	
69	Fragment VIII	2003	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、和紙に雁皮刷り	25.0×23.0	
70	Fragment IX	2003	エッチング、メゾチント、手彩色、和紙に雁皮刷り	21.5×24.5	
71	Fragment X	2003	エッチング、メゾチント、アクワチント、和紙に雁皮刷り	22.0×24.0	
72	Fragment XII	2006	エッチング、アクワチント、ルーレット、和紙に雁皮刷り	26.5×24.5	
73	Fragment XIII	2006	エッチング、メゾチント、アクワチント、和紙に雁皮刷り	25.0×24.5	
74	Fragment XIV	2006	エッチング、アクワチント、ルーレット、和紙	25.5×25.5	
75	Pathos I	2003	エッチング、メゾチント、アクワチント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	49.5×70.0	
76	Pathos II	2003	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	61.0×49.5	
77	Pathos III	2006	エッチング、メゾチント、アクワチント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	49.5×85.0	
78	Pathos IV	2006	エッチング、メゾチント、アクワチント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	88.0×29.5	
79	Pathos V	2006	エッチング、メゾチント、アクワチント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	74.5×24.5	
80	Luminous I	2003	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	50.0×103.5	
81	Luminous II	2003	エッチング、メゾチント、アクワチント、手彩色、ベランアルシュ紙に部分雁皮刷り	50.0×103.5	
82	Luminous III	2004	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	103.0×50.0	
83	Luminous IV	2004	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	103.0×50.0	
84	Luminous V	2006	エッチング、メゾチント、アクワチント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	59.5×101.5	
85	Luminous VI	2006	エッチング、メゾチント、アクワチント、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	100.0×59.5	
86	Test Zone I	2006	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	123.0×66.0	
87	Test Zone II	2006	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、ベランアルシュ紙に雁皮刷り	128.5×64.5	
88	水邊の庭'99	1999	ミクストメディア （トレッシングペーパー、ワトソン紙、鉛筆、日本画顔料、版画、アクリルカラー、木炭、羽毛、和紙）	200.0×200.0	＊1 ★
89	水邊の庭 '00	2000	ミクストメディア （トレッシングペーパー、ワトソン紙、鉛筆、日本画顔料、版画、アクリルカラー、木炭、羽毛、和紙）	161.0×140.0	＊2 ★
90	水邊の庭I '01	2001	ミクストメディア （トレッシングペーパー、ワトソン紙、鉛筆、日本画顔料、版画、アクリルカラー、木炭、羽毛、針金、和紙）	210.0×210.0	★
91	水邊の庭II '01	2001	ミクストメディア （トレッシングペーパー、ワトソン紙、鉛筆、日本画顔料、版画、アクリルカラー、木炭、羽毛、和紙）	195.0×236.0	★
92	水邊の庭III '01	2001	ミクストメディア （トレッシングペーパー、鉛筆、日本画顔料、版画、アクリルカラー、木炭、和紙）	200.0×200.0	★
93	水邊の庭'02	2002	ミクストメディア （トレッシングペーパー、ワトソン紙、鉛筆、日本画顔料、版画、アクリルカラー、木炭、羽毛、和紙）	150.0×150.0	★
94	Luminous I	2005	ミクストメディア （トレッシングペーパー、ワトソン紙、鉛筆、日本画顔料、版画、ピグメント、蜜蝋、木炭、綿レース、和紙）	189.0×103.0	
95	Luminous II	2005	ミクストメディア （トレッシングペーパー、ワトソン紙、鉛筆、日本画顔料、版画、ピグメント、蜜蝋、木炭、綿レース、和紙）	147.5×86.1	
96	Test Zone I	2007	ミクストメディア/ 鉛筆、カラーインク、日本画顔料、アクリルカラー、版画、水彩紙、和紙、キャンバス	232.0×230.0	
97	Test Zone II	2007	ミクストメディア/ 鉛筆、カラーインク、日本画顔料、版画、水彩紙、和紙、キャンバス	220.0×190.0	
98	For Isle I	2007	ミクストメディア/ 鉛筆 日本画顔料 アクリルカラー 版画 和紙 キャンバス	130.0 × 88.0	

No.	タイトル	制作年	技法	サイズ (cm)	備考
99	For Isle II	2007	ミクストメディア/ 鉛筆 日本画顔料 ピグメント 蜜蝋 版画 羽根 プラスティック トレッシングペーパー 水彩紙 和紙 キャンバス	173.0×124.0	
100	Watch	2008	ミクストメディア/ 鉛筆 カラーインク 日本画顔料 ピグメント アクリルカラー 版画 和紙 キャンバス	223.0×231.0	
101	Pink Dog	2009	ミクストメディア／トレッシングペーパー、 ワトソン紙、鉛筆、日本画顔料、版画、アクリルカラー、コンテ、パステル、金属メッシュ、針金、和紙	部屋の大きさ (h450×w900 ☆ ×d620)	

＊1：東日本鉄道文化財団蔵　＊2：掛川市立図書館蔵
★：ロダン館に展示　☆：第2展示室でのインスタレーション

パウル・クレー　東洋への夢　展

No.	作品名	作品名（独）	制作年	材　質・技　法	サイズ (cm)	所 蔵 先
1	アゾールはマダム・グルヌイユの命令を受ける	Azor nimmt die Befehle der Mad. Grenouillet entgegen	1883年	鉛筆／紙・厚紙	8 × 18.8	パウル・クレー・センター蔵
2	馬車	Droschkengespan	1883年	鉛筆／紙・厚紙	10.6 × 14.7	パウル・クレー・センター蔵
3	パラソルを持った婦人	Dame mit Sonnenschirm	1883年	鉛筆／紙・厚紙	11.2 × 6.4/8.2	パウル・クレー・センター蔵
4	無題（ミミがマダム・グルヌイユに花束を捧げる）	Ohne Titel (Mimi uberreicht Madame Grenouillet Blumen)	1883-85年	鉛筆／紙	28.3 × 18.8	個人蔵 パウル・クレー・センター寄託
5	ベルン人文系高校ラバ学友会のコンパのためのビール・カード　98年9月24日（学生が祝福の歌を合唱する）	Bierkarte des Maulesel Kommers der LiT. Schule Bern. 24.9.98. (Scholas Segen)	1898年	エッチング	9.3 × 14.2	個人蔵 パウル・クレー・センター寄託
6	無題（林の風景）	Ohne Titel (Landschaft mit Baumen)	1898年頃	ペン・鉛筆／紙	11.9 × 14.4	個人蔵 パウル・クレー・センター寄託
7	無題（二匹の魚、一匹は釣針にかかって）	Ohne Titel	1901年	ペン・水彩／厚紙	15.2 × 22.6	個人蔵 パウル・クレー・センター寄託
8	男の横顔、ブラーザーとかいう人物に似ている	mannl. Kopf Profil, einem gewiss. B(laser) ahnelnd	1905年	鉛筆／紙・厚紙	11.2 × 7.8	パウル・クレー・センター蔵
9	目が誇張して描かれた正面向きの男の頭部	mannlicher Kopf en face mit uberc harakterisierten Augen	1905年	鉛筆／紙・厚紙	9.6 × 7	パウル・クレー・センター蔵
10	片足で踊る三人の裸の人物	Drei auf einem Bein tanzende Akte	1905年	鉛筆／紙・厚紙	13.3 × 16.3	パウル・クレー・センター蔵
11	仰向けになり、ひきつけをおこしているかの様子で、片手を挙げている顔なしの裸体	Akt, ohne Kopf, am Rucken liegend, convulsivisch im Ausdruck,eine Hand erhoben	1905年	鉛筆・ペン・水彩／紙・厚紙	21.5 × 17.2	パウル・クレー・センター蔵
12	猛獣の歯をした顰め面（しかめつら）	Grimasse mit Raubtiergebiss	1905年	鉛筆／紙・厚紙	8.2 × 7.1	パウル・クレー・センター蔵
13	男の頭部、後ろ向き、いささか若いベックリンに類似	Mannl. Kopf, zuruckschauend, etwas dem jungen Boeckl-in aehnelnd	1906年	鉛筆／紙・厚紙	11 × 7	パウル・クレー・センター蔵
14	男の頭部、ジプシー風	Mannl. Kopf Zigeunertypus	1906年	鉛筆／紙・厚紙	5.5 × 6.2	パウル・クレー・センター蔵
15	対話する鳥占官（ちょうせんかん）	Auguren im Gesprach	1906年	鉛筆・ペン／紙・厚紙	21.3 × 17.1	パウル・クレー・センター蔵
16	うずくまる二つの裸像、一方は輪郭のみ	Zwei Akte, kauernd,d. eine nur angedeutet	1907年	鉛筆／紙・厚紙	7.8 × 7.9	パウル・クレー・センター蔵
17	宙返りする女性の裸体、片足で立つ男の裸体、いわば水浴している男の半裸体	weiblicher Akt Purzelbaum; manlicher Akt auf einem Bein; mannl. Halbakt, sozusagen badend	1907年	鉛筆／紙・厚紙	13.7 × 13.7	パウル・クレー・センター蔵
18	死して横たわる男性裸像	mannlicher Akt, leichenliegend	1907年	鉛筆／紙・厚紙	5 × 8.6	パウル・クレー・センター蔵
19	座る裸婦、後ろ向き	Dame sitzend, halbakt von hinten	1907年	鉛筆／紙・厚紙	6.2 × 8.8	パウル・クレー・センター蔵
20	裸像、踊るヴィーナス	Akt, tanzende Venus	1907年	鉛筆／紙・厚紙	13 × 7.7	パウル・クレー・センター蔵
21	半裸像、かつらを着けた擬古典的な女性	Halbakt, archaisiernder weibl., mit Perucke	1907年	鉛筆／紙・厚紙	8.1 × 6.9	パウル・クレー・センター蔵
22	仔犬のような人獣	Hundchenartiges Menschentier	1907年	鉛筆／紙・厚紙	5.8 × 5.8	パウル・クレー・センター蔵
23	女性像のオーナメント	Ormament aus e. weibl. Figur	1907年	鉛筆／紙・厚紙	11.4 × 3.4	パウル・クレー・センター蔵
24	痙攣（けいれん）して身をかが屈める裸体	Akt in Krampfen sich zusammenziehnd	1907年	鉛筆／紙・厚紙	3.5 × 6.3	パウル・クレー・センター蔵
25	二つの植物をもってエキゾチックなダンスを踊る裸像	Akt, e×otisch tanzend mit 2 Pflanzen	1907年	鉛筆／紙・厚紙	13.5 × 5.7	パウル・クレー・センター蔵
26	半ば宙に浮き、半ば踊りながら逃げようとする女性裸体、その後ろに頼りを失った子供の裸体	weibl. Akt, halb fliehend, halb tanzend, sich befreiend, hinten ein hilfloser Kinderakt	1907年	鉛筆／紙・厚紙	14.8 × 11.1	パウル・クレー・センター蔵
27	諸党派の協調	Konzert der Parteien	1907年	ペン・水彩／紙	24.2 × 33	パウル・クレー・センター蔵
28	横たわる裸婦、いわば死にそうな	Liegender Akt, sozusagen verendet	1908年	ペン／紙・厚紙	13.6 × 14.7	個人蔵 パウル・クレー・センター寄託
29	三つの素描	Drei Zeichnungen	1908年	ペン／紙・厚紙	c) 11.6 × 4.8 b) 16.5 × 7.2 e) 16 × 7.9	パウル・クレー・センター蔵

No.	作品名	作品名（独）	制作年	材　質・技　法	サイズ (cm)	所 蔵 先
30	二人の裸婦、仲好し、とても痩せて	zwei weibliche Akte, befreundet, sehr schmachtig	1908年	ペン／紙・厚紙	9.1 × 6.9	パウル・クレー・センター蔵
31	裸婦、太って、得意げな	weiblicher Akt dick eingebildet	1908年	ペン／紙・厚紙	11.5 × 5.7	パウル・クレー・センター蔵
32	ほとんど裸体とは呼べない	Kaum mehr ein Akt	1908年	ペン／紙・厚紙	7 × 7.3	パウル・クレー・センター蔵
33	裸像、ユダヤ人	Akt, Jude	1908年	ペン／紙・厚紙	12.1 × 7	パウル・クレー・センター蔵
34	座る裸婦、音楽をかな奏でるような	Akt, sitzende Dame, quasi musizierend	1908年	ペン／紙・厚紙	6.4 × 7.3	パウル・クレー・センター蔵
35	野外の子供たちの六つのスケッチ	Sechs Skizzenblattchen nach Kindern im Freien	1908年	ペン／紙・厚紙	a) 3.1 × 4.2 b) 8.2 × 12.4 c) 8.1 × 9.5 d) 4.6 × 8.4 e) 3.9 × 4.5 f) 9.1 × 10.1	パウル・クレー・センター蔵
36	スギエ近くの運河	Kanal b. Sugiez	1910年	水彩・ペン／紙・厚紙	15 × 22	パウル・クレー・センター蔵　パウラ・ロートマール寄贈
37	青い目をした若い男の頭部	Mannlicher Kopf, jugendlich mit blauen Augen	1910年	ペン・水彩／紙・厚紙	17.5 × 15.8	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
38	耳のない頭部	Kopf ohne Ohren	1910年	ペン・パステル／紙・厚紙	15.8 × 12.7	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
39	グロテスクなもの	Grotesken	1912年	ペン／紙・厚紙	a) 8.4 × 5/3.5 b) 9.3 × 3.6/2.1	パウル・クレー・センター蔵
40	女の頭部	Frauenkopf	1912年	鉛筆／紙・厚紙	11.2 × 7.9	パウル・クレー・センター蔵
41	女の頭部	Frauenkopf	1912年	鉛筆／紙・厚紙	17 × 14.5	パウル・クレー・センター蔵
42	青い目の男	Blauaugiger	1912年	鉛筆・ペン・筆・水彩／紙・厚紙	17.5 × 10.7/10.1	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
43	仮面	Maske	1912年	ペン・筆・水彩／紙・厚紙	11.8/11.4 × 5.5	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
44	怒る女の仮面	Maske einer Zornigen	1912年	チョーク／紙・厚紙	17.6 × 15.7	パウル・クレー・センター蔵
45	転落	Sturz	1912年	ペン／紙・厚紙	8.6 × 14	パウル・クレー・センター蔵
46	ああ悲しいかな、永遠に流れ行く時の嵐のもとに…	Weh mir unter dem Sturmwind ewig fliehender zeit…	1912年	ペン／紙・厚紙	4.1 × 18	パウル・クレー・センター蔵
47	三つの頭部による構成	Konstruktion mit Drei Kopfen	1913年	ペン／紙・厚紙	11.5 × 7.8/8.1	パウル・クレー・センター蔵
48	雨模様の小風景	Kl. Landschaft in Regenstimmung	1913年	水彩／紙・厚紙	20/19.5 × 12	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
49	公園	Park	1914年	リトグラフ	12.7 × 10.2	パウル・クレー・センター蔵
50	廃墟のある風景	Landschaft mit Ruine	1915年	油彩／ガーゼ・厚紙	16.5 × 38	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
51	聖母像	Madonnenbild	1918年	ペン／紙・厚紙	19.4 × 8.9	パウル・クレー・センター蔵
53	ウンクライヒから中国への道	Der Weg von Unklaich nach China	1920年	ペン／紙・厚紙	18.6 × 28.2	パウル・クレー・センター蔵
54	偉大なテノール歌手のコンサート	Konzert des grossen Tenors	1920年	鉛筆／紙・厚紙	17.3 × 24	パウル・クレー・センター蔵
55	年老いた下女	alte Magd	1924年	鉛筆／紙・厚紙	21 × 15.7/16.1	パウル・クレー・センター蔵
56	隠れ家	Einsiedelei	1925年	ペン・水彩／紙・厚紙	27.1/27.4 × 28.8	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
57	中国の美貌（的確）	Chinesische Schonheit (Praecision)	1927年	ペン・鉛筆／紙・厚紙	59.9/60.2 × 46.4	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
58	おお、情熱よ！	ja, die Leidenschaften!	1928年	ペン／紙・厚紙	27.3/27.7 × 45.4	パウル・クレー・センター蔵

No.	作品名	作品名（独）	制作年	材　質・技　法	サイズ (cm)	所 蔵 先
59	仮面〈あつかましい〉	Maske naseweis	1929年	鉛筆／紙・厚紙	32.9 × 20.9	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
60	無題	Ohne Titel	1929年	油彩・チョーク／厚紙	20 × 27.5	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
61	救世主と魚	Erloeser zu Fisch	1932年	ペン／紙・厚紙	29.5 × 30.3	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
62	ブロッケン山の小さな出来事	kl. Brockenscene	1932年	ペン／紙・厚紙	11.3 × 36.8	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
63	遅すぎる！	zu spaet!	1932年	ペン／紙・厚紙	17 × 30.7	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
64	旅する魔女たち	reisende He×en	1932年	ペン／紙・厚紙	12 × 30.6	パウル・クレー・センター蔵
65	仮面を付けた動物	ein Tier in Maske	1932年	ペン／紙・厚紙	31/31.5 × 48	パウル・クレー・センター蔵
66	谷間の夕暮れ	Abend im Tal	1932年	油彩／厚紙 個人蔵	33.5 × 23.3	パウル・クレー・センター寄託
67	船のための合図	Zeichen fur Bote	1933年	水彩／綿布・合板	16 × 22	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
68	測定された高さ	gemessene Hohen	1934年	鉛筆／紙・厚紙	48 × 63.5	パウル・クレー・センター蔵
69	登攀（とうはん）不可能	nicht ersteigbar	1934年	鉛筆／紙・厚紙	48.1 × 35.5	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
70	迂回（うかい）のみ	nur auf Umwegen	1934年	鉛筆／紙・厚紙	62.2 × 48.3	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
71	森の地のつながり	Zusammenhang einer Waldstelle	1935年	チョーク／紙・厚紙	17.9 × 27.8	パウル・クレー・センター蔵
72	二重果実と他のもの	Doppelbeeren und anderes	1935年	水彩／紙・厚紙	20.5/21.4 × 40.4/40.9	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
73	東方の古典的海岸風景	ost-klassische Kusten-Landschaft	1936年	筆／紙・厚紙	33 × 47.6/48.1	パウル・クレー・センター蔵
74	木の表情　1	Baum-gesichter 1	1937年	糊絵の具／紙・厚紙	28 × 17.9	パウル・クレー・センター蔵
75	木の表情　2	Baum-gesichter 2	1937年	糊絵の具／紙・厚紙	27.9 × 17.8	パウル・クレー・センター蔵
76	緑の地形	Grunes Gelande	1938年	油彩・水彩／厚紙	37.5 × 50.5	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
77	アクセル・オテル氏	Herr A×el Otel	1938年	糊絵の具・水彩／紙・厚紙	62.5 × 48	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
78	アルファベットWE	Alphabet WE	1938年	糊絵の具／紙・厚紙	27.1 × 21	パウル・クレー・センター蔵
79	岩の上の記号	Zeichen auf Felsen	1938年	チョーク／紙・厚紙	27 × 21.5	パウル・クレー・センター蔵
80	別れを告げて	Abschied nehmend	1938年	糊絵の具／紙・厚紙	50.7 × 7.3/9.3	パウル・クレー・センター蔵
81	無題（二重の目測）	Ohne Titel (Zweierlei Augenmass)	1938年頃	糊絵の具・水彩／紙・厚紙	44.4 × 59.2	パウル・クレー・センター蔵
82	無題（船のある構成）	Ohne Titel	1938年頃	糊絵の具／厚紙・板	8.5 × 39.5	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
83	女性ダンサーの再構築、試み	Reconstruction einer Tanzerin, ein Versuch	1939年	水彩／紙・厚紙	29.7 × 20.9	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
84	ついに断念	endlicher Verzicht	1938年	鉛筆／紙・厚紙	29.7 × 20.9	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託
85	悪魔ちゃん	Satanella	1939年	水彩／紙・厚紙	26.9 × 21.4	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈

No.	作品名	作品名（独）	制作年	材　質・技　法	サイズ (cm)	所 蔵 先
86	蛇が来る	die Schlange kommt	1939年	糊絵の具／紙・厚紙	29.5 × 20.8	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託　※カタログには掲載されていません。
87	二人の踊り手	Zwei Tanzer	1940年	チョーク／紙・厚紙	29.7 × 21	パウル・クレー・センター蔵
88	中国風の絵	Chinesisches Bild	1923年	油彩・水彩／厚紙	44.3 × 27.5	宮城県美術館蔵
89	力学値のつりあい	Versuch einer Gleichung dynamischer Werte	1935年	油彩／厚紙	21.6 × 33.1	宮城県美術館蔵
90	三人のアラビア人	Drei Araber	1915年	ペン・水彩／紙・厚紙	24.3 × 32	宇都宮美術館蔵 ※8/11〜8/30展示
91	舞台稽古	Theater Buhnenprobe	1925年	鉛筆・水彩・ペン／紙・厚紙	48.8 × 31.2	宇都宮美術館蔵
92	ホールC.エントランス R 2	Halle C. Eingang R 2	1920年	油彩／厚紙に貼られた洋紙	21.7 × 46.6	静岡県立美術館蔵
93	喜劇役者<インヴェンツィオーン4>		1904年 14番	エッチング	15 × 17	愛知県美術館蔵 ※7/14〜8/9展示
94	女の館	Frauenpavillon	1921年	油彩／厚紙	41.7 × 52.3	愛知県美術館蔵
95	蛾の踊り	Nachtfaltertanz	1923年	油彩転写・水彩・鉛筆／紙・厚紙	51.5 × 31.5	愛知県美術館蔵 ※7/14〜8/9展示
96	不運な船たち	Unstern der Schiffe	1919年	油彩転写・水彩・鉛筆／紙・厚紙	22.5 × 28.5	清水三年坂美術館蔵　※7/14〜8/9展示
97	クリスチャンの墓	Christliches Grabmal	1923年 111番	水彩・鉛筆／紙・厚紙	23 × 23.2	清水三年坂美術館蔵　※7/14〜8/9展示
98	南方の海岸	sudliche Kuste	1925年 39 番	水彩／紙・厚紙	27.3 × 37	清水三年坂美術館蔵　※8/11〜8/30展示
99	よじ登る植物	Schling-gewaechse	1932年 58 番	水彩／紙・厚紙	49.5 × 35	清水三年坂美術館蔵　※8/11〜8/30展示
100	螺旋状の花 I	Spiralschraubenblueten I	1932年 237番	水彩・鉛筆／紙・厚紙	48.5 × 31.1	清水三年坂美術館蔵
101	演じる花	eine Blume tritt auf	1934年 50番	糊絵の具・チョーク／紙・厚紙	23.8 × 30.5	清水三年坂美術館蔵
102	情熱の庭	Garten der Leidenschaft	1913年 155番	エッチング	9.7 × 14.6	日本パウル・クレー協会蔵
104	自画像（パペット、レプリカ）	Selbstportrat	1920年	石膏、麻、皮革	高さ35	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
105	大耳のクラウン（パペット、レプリカ）	Breitohrclown	1925年	紙粘土、麻	45	パウル・クレー・センター蔵　リヴィア・クレー寄贈
	秋の風景	O.T. (Herbstlandschaft)	1902年	油彩、鉛筆／紙	28.5 × 32.5	個人蔵　パウル・クレー・センター寄託　※追加出品

＊カタログNo.52《中国人とともに》は、都合により不出品。
＊カタログNo.103《仏教の僧》は横須賀美術館にのみ出品。

特集 狩野派の世界2009

1　室町から桃山へ

No.	指定	作者	作品名	員数	制作年代・時代	所蔵
1		初期狩野派	四季花鳥図屏風	6曲1双	室町時代（16世紀）	静岡県立美術館蔵
2		元信印	琴棋書画図屏風	6曲1隻	室町時代（16世紀）	個人蔵
3		狩野元信	三聖吸酸・枇杷栗鼠・栗鳥図	3幅対	室町時代（16世紀）	個人蔵
4	◎	元信印	富士参詣曼荼羅図	1幅	室町時代（16世紀）	富士山本宮浅間大社蔵
5		狩野派	官人図屏風	2曲1隻	桃山時代（16世紀）	個人蔵
6		狩野永徳	松に叭々鳥・柳に白鷺図屏風	6曲1双	桃山時代（16世紀）	個人蔵
7		元信印	孔子講道図	1幅	桃山時代（16世紀）	個人蔵
8		狩野永徳	瀟湘八景図	1幅	桃山時代（16世紀）	個人蔵
9		長谷川派	玄宗皇帝・楊貴妃図	6曲1隻	桃山時代（16-17世紀）	個人蔵
10		狩野秀頼	渡唐天神像	1幅	室町時代（16世紀）	個人蔵
11	○	狩野山楽	西湖図襖	8面	桃山時代（16-17世紀）	個人蔵
12		伝狩野山楽	黄初平・許由巣父図屏風	6曲1双	桃山時代（16世紀）	個人蔵
13		狩野宗眼重信	帝鑑図･咸陽宮図屏風	6曲1双	桃山時代（17世紀）	静岡県立美術館蔵
14		宗徳	高士観瀑図	1幅	桃山-江戸時代（16-17世紀）	個人蔵
15		意精	山水図	1幅	桃山-江戸時代（16-17世紀）	個人蔵
16		玄也	山水図団扇	対幅	桃山時代（16-17世紀）	個人蔵

2　狩野探幽とその周辺

17		狩野探幽	七賢九老図屏風	6曲1双	江戸初期（17世紀）	静岡県立美術館蔵
18		狩野探幽	富士山図	1幅	寛文7（1667）	静岡県立美術館蔵
19		狩野探幽	瀟湘八景図	8幅対	寛文2-延宝2（1662-76）	静岡県立美術館蔵
20		狩野探幽	一ノ谷合戦・二度之懸図屏風	6曲1隻	明暦-万治年間（1655-60）	静岡県立美術館蔵
21		狩野探幽	白鷴図	1幅	寛文元年頃（1661頃）	静岡県立美術館蔵
22		狩野探幽	富嶽図巻	1巻	寛文2(1662)	個人蔵
23		狩野探幽	柿本人麿像	1幅	正保4（1647）	個人蔵
24		狩野探幽	一行書	1幅	江戸時代（17世紀）	個人蔵
25		狩野尚信	西湖図屏風	6曲1双	江戸時代（17世紀）	静岡県立美術館蔵
26		狩野安信	猿曳き・酔舞図屏風	6曲1双	江戸時代（17世紀）	静岡県立美術館蔵
27		狩野常信	唐子図巻	1巻	江戸時代（17-18世紀）	個人蔵
28		狩野探幽・安信・常信ほか狩野36家合作	牛馬図	双幅	江戸時代（17世紀）	個人蔵
29		狩野探信守政	井手玉川図屏風	6曲1双	江戸時代（17-18世紀）	個人蔵
30		久隅守景	蘭亭曲水図屏風	6曲1双	江戸時代（17世紀）	静岡県立美術館蔵
31		久隅守景	四季山水図屏風	6曲1双	江戸時代（17世紀）	個人蔵
32		久隅守景	鍋冠祭図押絵貼屏風	2曲1隻	江戸時代（17世紀）	個人蔵
33		英一蝶	琴高仙人図	1幅	江戸時代（17-18世紀）	静岡県立美術館蔵

No.	指定	作者	作品名	員数	制作年代・時代	所蔵
34		狩野周信	蓮池鷺図	1幅	江戸時代（17-18世紀）	静岡県立美術館蔵
3　京狩野の系譜						
35		狩野山雪	富士三保松原図屏風	6曲1双	江戸時代（17世紀）	静岡県立美術館蔵
36		狩野山雪	四季花鳥図屏風	6曲1双	江戸時代（17世紀）	個人蔵
37		狩野山雪	富士三保松原図	1幅	江戸時代（17世紀）	個人蔵
38		狩野永納	蘭亭曲水図屏風	6曲1双	江戸時代（17世紀）	静岡県立美術館蔵
39		狩野永納	三教図	1幅	承応元（1652）	静岡県立美術館蔵
40		狩野永良	白梅群鶏図	1幅	江戸時代（18世紀）	京都国立博物館蔵
41		狩野永良	親子犬図	1幅	江戸時代（18世紀）	静岡県立美術館蔵
42		狩野永良	西王母・東方朔図屏風	6曲1双	江戸時代（18世紀）	静岡県立美術館蔵
43		狩野永俊	竹兎図	1幅	江戸時代（18世紀）	個人蔵
44		狩野永岳	富士山登龍図	1幅	嘉永5（1852）	静岡県立美術館蔵
45		狩野永岳	三十六歌仙歌意図屏風	6曲1双	江戸時代（19世紀）	静岡県立美術館蔵
46		狩野永岳	富士三保松原図	1幅	江戸時代（19世紀）	個人蔵
47		狩野永岳	島左近像	1幅	天保3（1832）	個人蔵
48		狩野永岳	四季耕作図屏風	6曲1双	江戸時代（19世紀）	静岡県立美術館蔵
49		狩野永祥	離合山水図屏風	6曲1双	江戸-明治時代（19世紀）	静岡県立美術館蔵
4　江戸狩野の展開、そして近代へ						
50		狩野典信	山水図	1幅	江戸時代（18世紀）	静岡県立美術館蔵
51		狩野典信	牡丹図	1幅	江戸時代（18世紀）	個人蔵
52		狩野惟信	富嶽図巻	1巻	江戸時代（18世紀）	静岡県立美術館蔵
53		狩野栄信	四季山水図屏風	6曲1双	江戸時代（19世紀）	個人蔵
54		狩野栄信	楼閣山水図屏風	2曲1隻	江戸時代（19世紀）	静岡県立美術館蔵
55		狩野栄信	春秋山水花鳥図	双幅	江戸時代（19世紀）	静岡県立美術館蔵
56		狩野栄信	百猿図	1幅	江戸時代（19世紀）	静岡県立美術館蔵
57		狩野探信守道	井手玉川・大堰川図屏風	6曲1双	江戸時代（19世紀）	静岡県立美術館蔵
58		狩野養信	竹雀図屏風	6曲1双	江戸時代（19世紀）	静岡県立美術館蔵
59		狩野養信	花見遊楽図屏風	2曲1隻	江戸後期（19世紀）	個人蔵
60		狩野養信	東方朔・山水図	3幅対	江戸後期（19世紀）	個人蔵
61		狩野一信	大黒舞図	1幅	江戸後期（19世紀）	個人蔵
62		狩野芳崖	寿老人図	1幅	明治時代（19世紀）	静岡県立美術館蔵
63		狩野芳崖	江山春色図	1幅	明治時代(19世紀）	個人蔵
64		橋本雅邦	瀑布図	1幅	明治時代（20世紀）	個人蔵
65		橋本雅邦	三井寺	1幅	明治27（1894）	静岡県立美術館蔵
特別出品						
		狩野山雪	鍾馗図	1幅	江戸時代（17世紀）	個人蔵

収蔵品展

体で感じるアート

平成21年５月26日～７月５日

No.	作者	作品名	
①アクション・ワールド			
1	白髪一雄	屋島	
2	斎藤義重	作品２	
3	菅井汲	Masse Noire	
②ストーン・ワールド			
4	鳥海青児	壁の修理	
5	小池一誠	No.1 石	
6	福田平八郎	雪庭	
7	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	イクノグラフィア（古代ローマのカンプス・マルティウスのプラン）	
③サウンド・ワールド			
8	金沢健一	音のかけら２	
9	金沢健一	音のかけら３	★
④スクエア・ワールド			
10	ジェームズ・ローゼンクイスト	F-111（東,西,南,北）	
11	丹羽勝次	箱シリーズ '68	
12	ジョゼフ・アルバース	正方形頌	
13	李禹煥	線より	
14	小谷元彦	SP１Beginning（The Whorl of Lanugo 01）	○
15	小谷元彦	SP１Beginning（The Whorl of Lanugo 02）	○
16	小谷元彦	SP１Beginning（The Whorl of Lanugo 03）	○
⑤ステップ・ワールド			
17	カール・アンドレ	鉛と亜鉛のスクエア	
18	草間彌生	最後の晩餐	
19	長沢蘆雪	牡丹孔雀図	
20	福田半香	夏景山水図	
⑥イリュージョン・ワールド			
21	飯田昭二	Half and Half	
22	草間彌生	無題	
23	草間彌生	水上の蛍	
24	宮島達男	Changing Time with Changing Self No.6	○

名品コーナー 出品目録

1	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
2	駒井哲郎	コミック１
3	駒井哲郎	小さな庭
4	駒井哲郎	残雪譜
5	駒井哲郎	鎮魂歌
6	森一鳳	氷室の節供図

※★は寄託品
※○は個人蔵の作品
※ は富士山の絵画

クレーの時代の日本洋画

平成21年７月７日～９月６日

一章1910-1913 クレーの初個展から第一次大戦まで		
1	東城鉦太郎	山家の春
2	安井曽太郎	森の中
3	鹿子木孟郎	紀州勝浦
4	曽宮一念	芝浦埋立地
二章1914-1919 第一次大戦の時代		
5	曽宮一念	自画像
6	藤田嗣治	モンルージュ、パリ
7	和田英作	富士
8	中澤弘光	風景（秋の湖畔）
三章1920年代		
9	都鳥英喜	モンティニーの秋
10	清水登之	セーヌ河畔
11	原勝郎	バガテル公園、パリ
12	佐伯祐三	ラ・クロッシュ
13	長谷川潔	南仏風景
14	曽宮一念	風景
15	鶴田吾郎	余の見たる曽宮君
16	吉田博	上高地の春
17	川村清雄	風景
四章1930年代		
18	川口軌外	白い花

19	曽宮一念	種子静物
20	里見勝蔵	**静物**
21	児島善三郎	箱根
22	須田国太郎	筆石村
23	鳥海青児	張家口

名品コーナー 出品目録

1	ファン・グリス	果物皿と新聞
2	（前期）平山郁夫 （後期）奥村土牛	祇園祭☆ 揺籃☆
3	ジョルジュ・ビゴー	富士（沼津江浦）▲

※▲は富士山の絵画
※☆は寄託品
※名品コーナーNo.2の展示期間（前期）7月7日～8月2日
（後期）8月4日～9月6日

ランドスケープ・ペインティング〔西洋編〕
平成21年9月8日～11月8日

1	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
2	アールト・ファン・デル・ネール	森の風景
3	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
4	サルヴァトール・ローザ	川のある山岳風景
5	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼
6	ヤーコブ・ファン・ロイスダール	小屋と木立のある田舎道
7	クロード=ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海
8	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッズオーロ
9	ジョン・ロバート・カズンズ	ポルティーチからヴェスヴィオ山を望む
10	アレクサンドル=イアサント・デュパリ，マドレーヌ	大通りの窓からの眺め
11	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パッランツァ、マッジョーレ湖
12	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、日没
13	アシル=エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼い
14	ジャン=バティスト・カミーユ・コロー	メリ街道、ラ・フェルテ=ス=ジュアール付近
15	サミュエル・パーマー	ケント州、アンダーリヴァーのホップ畑
16	ピエール＝エティエンヌ＝テオドール・ルソー	ジュラ地方，草葺き屋根の家
17	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの渓流
18	カミーユ・ピサロ	ポントワーズ，ライ麦畑とマチュランの丘
19	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
20	ポール・シニャック	サン＝トロペ，グリモーの古城
21	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
22	ジョアン・ミロ	シウラナの教会
23	ハイム・スーチン	カーニュ風景

名品コーナー 出品目録

1	徳川慶喜	風景
2	（前期）狩野常信 （後期）狩野探幽	富士三保松原図 ○▲ 富士山図 ▲
3	モーリス・ルイス	アセンディング ○

※○は寄託品　※▲は富士山の絵画

移動美術展

静岡県立美術館・浜松市美術館合同企画
石田徹也展と静岡県ゆかりの画家

石田徹也展

No.	作者	作品名	制作年	材質	サイズ（cm）	所蔵	遺作集掲載ページ
1	石田徹也	人権マンガ	1984	水彩、紙		静岡県法務局	
2	石田徹也	ビアガーデン発	1995	アクリル、紙	510 × 785	静岡県立美術館	
3	石田徹也	居酒屋発	1995	アクリル、紙	510 × 785	静岡県立美術館	
4	石田徹也		1995	アクリル、板	880 × 625		
5	石田徹也	大車輪	1995	アクリル、板	1030 × 728		
6	石田徹也		1995	アクリル、紙	728 × 515		
7	石田徹也	SLになった人	1995	アクリル、紙	858 × 607	静岡県立美術館	22
8	石田徹也		1995	アクリル、板	1030 × 728		
9	石田徹也		1995	アクリル、板	728 × 1030		
10	石田徹也		1995	アクリル、板	728 × 1030	静岡県立美術館	45
11	石田徹也		1995	アクリル、板	728 × 1030		
12	石田徹也	みのむしの睡眠	1995	アクリル、紙	728 × 1030		9
13	石田徹也	飛べなくなった人	1996	アクリル、板	1030 × 1456	静岡県立美術館	5
14	石田徹也	社長の傘の下	1996	アクリル、板	1030 × 1456	静岡県立美術館	7
15	石田徹也	鯉の夢	1996	アクリル、板	1030 × 1456		8
16	石田徹也	トイレへ逃げ込む人	1996	アクリル、板	1030 × 1456	静岡県立美術館	29
17	石田徹也	兵士	1996	アクリル、板	1456 × 1030	静岡県立美術館	20
18	石田徹也	屋上へ逃げる人	1996	アクリル、板	1456 × 1030		39
19	石田徹也	燃料補給のような食事	1996	アクリル、板	1456 × 2060		12
20	石田徹也	使われなくなったビルの社員のイス	1996	アクリル、板	1456 × 1030		62
21	石田徹也	使われなくなったビルの部長のイス	1996	アクリル、板	1456 × 1030		62
22	石田徹也	不安な夢	1996	アクリル、板	1456 × 1030		64
23	石田徹也	コンビニエンスストアの母子像	1996	アクリル、板	1456 × 1030		38
24	石田徹也	トヨタ自動車イプサム	1996	アクリル、紙	594 × 841		
25	石田徹也	引き出し	1996	アクリル、カンバス	594 × 420	静岡県立美術館	
26	石田徹也	おやじ	1996頃	アクリル、カンバス	455 × 530		71
27	石田徹也		1997？	アクリル、カンバス	594 × 420		
28	石田徹也	ぐち	1997	アクリル、カンバス	420 × 594		14
29	石田徹也		1997頃	アクリル、板	1030 × 1456	静岡県立美術館	33

No.	作者	作品名	制作年	材質	サイズ（cm）	所蔵	遺作集掲載ページ
30	石田徹也	クラゲの夢	1997	アクリル、板	1030 × 1456	静岡県立美術館	
31	石田徹也		1998	アクリル、板	1820 × 910		75
32	石田徹也	めばえ	1998頃	アクリル、板	1456 × 2060	静岡県立美術館	10
33	石田徹也		1998？	アクリル、板	515 × 364		
34	石田徹也	市場	1999	アクリル、板	2060 × 1456	静岡県立美術館	
35	石田徹也	公共物	1999	アクリル、カンバス	455 × 530		21
36	石田徹也	分解	1999	アクリル、カンバス	518 × 730		49
37	石田徹也	起床	1999	アクリル、カンバス	518 × 730		38
38	石田徹也		1999	アクリル、カンバス	364 × 515		
39	石田徹也	囚人	1999	アクリル、板	364 × 515		36
40	石田徹也		1999	アクリル、板	515 × 364		
41	石田徹也		2001頃	アクリル、紙	530 × 455		
42	石田徹也		不詳	アクリル、カンバス	216 × 165		
43	石田徹也		不詳	アクリル、カンバス	216 × 165		
44	石田徹也		2000頃	アクリル、カンバス	1940 × 1620	静岡県立美術館	18
45	石田徹也		2000頃	アクリル、カンバス	1940 × 1620	静岡県立美術館	19
46	石田徹也	説教	1999	アクリル、板	518 × 730		28
47	石田徹也	彼方	1999	アクリル、板	2060 × 1456	静岡県立美術館	25
48	石田徹也		2001	アクリル、カンバス	455 × 530	静岡県立美術館	40
49	石田徹也		2001？	アクリル、カンバス	1303 × 1620	静岡県立美術館	
50	石田徹也		2002頃	アクリル、カンバス	594 × 420		77
51	石田徹也		2003頃	アクリル、油彩、カンバス	910 × 1167		59
52	石田徹也		2003頃	アクリル、油彩、カンバス	455 × 530		86
53	石田徹也		2003	アクリル、油彩、カンバス	727 × 606		85
54	石田徹也	裏庭	2003	アクリル、油彩、カンバス	275 × 275		
55	石田徹也	帰路	2003頃	アクリル、油彩、カンバス	455 × 380		84
56	石田徹也	リハビリ	2003頃	アクリル、油彩、カンバス	455 × 380		
57	石田徹也		2003？	アクリル、油彩、カンバス	910 × 1170		
58	石田徹也		2003	アクリル、油彩、カンバス	606 × 910		
59	石田徹也		2003頃	アクリル、油彩、カンバス	455 × 530		78
60	石田徹也		2003頃	アクリル、油彩、カンバス	455 × 530		93
61	石田徹也	触手	2004	アクリル、油彩、カンバス	455 × 530		43

No.	作者	作品名	制作年	材質	サイズ（cm）	所蔵	遺作集 掲載ページ
62	石田徹也	訪問者	不明	アクリル、油彩、カンバス	455 × 530		
63	石田徹也	僻地	2004	アクリル、油彩、カンバス	455 × 530		91
64	石田徹也	不通	2004頃	アクリル、油彩、カンバス	910 × 727		90
65	石田徹也		2004頃	アクリル、油彩、カンバス	1455 × 1940	静岡県立美術館	58
66	石田徹也		2004頃	アクリル、油彩、カンバス	455 × 530		94
67	石田徹也	放牧	不詳	アクリル、油彩、カンバス	530 × 455		
68	石田徹也		不詳	アクリル、油彩、カンバス	273 × 220		
69	石田徹也	再生	2004	アクリル、油彩、カンバス	455 × 530		89
70	石田徹也		2004頃	アクリル、油彩、カンバス	910 × 1167	静岡県立美術館	95
71	石田徹也	アイデア帖、スケッチブック					

静岡ゆかりの画家たち

No.	作者	作品名	制作年	材質	サイズ（cm）	所蔵	備考
1	曽宮一念	麦秋	1941年	油彩	72.8 × 91	静岡県立美術館	
2	曽宮一念	スペインの野	1968年	油彩	73 × 91	静岡県立美術館	
3	北川民次	トラルパルにて	1928年	油彩	80 × 70.3	浜松市美術館	
4	北川民次	工場は休み	1960年	油彩	73 × 91	浜松市美術館	
5	中村岳陵	かきつばた	1954年	絹本着色	60 × 73.7	静岡県立美術館	
6	中村岳陵	爽秋	1935年	絹本着色	64 × 101	静岡県立美術館	
7	中村岳陵	婉膩水韻	1931年	紙本着色	153 ×368.1	静岡県立美術館	
8	野島青茲	診察室	1948年	紙本着色	182 × 245.5	静岡県立美術館	
9	野島青茲	宵	1970年	紙本着色	193 × 153.5	静岡県立美術館	
10	石川欽一郎	海辺（早川海岸）	1935年頃	油彩	53.2 × 72.8	静岡県立美術館	
11	石川欽一郎	田舎の早春	1907-12年頃	水彩	27.4 × 37.2	静岡県立美術館	前期展示
12	石川欽一郎	神域より天の香具山を望む	1940年頃	水彩	48 × 58	静岡県立美術館	前期展示
13	石川欽一郎	駿河湾	1939年頃	水彩	53 × 64.5	静岡県立美術館	前期展示
14	石川欽一郎	台湾の町	1907-12年頃	水彩	30.8 × 25	静岡県立美術館	後期展示
15	石川欽一郎	銚子港（利根川付近）	1939年頃	水彩	38 × 45	静岡県立美術館	後期展示
16	石川欽一郎	台湾風景	1907年頃	水彩	32 × 32	静岡県立美術館	後期展示
17	栗原忠二	セントポール	1916年	油彩	80 × 100	静岡県立美術館	
18	栗原忠二	ロンドン郊外	不詳	油彩	50 × 60.7	静岡県立美術館	
19	栗原忠二	道頓堀の夕	1924-25年頃	水彩	38.3 × 51.4	静岡県立美術館	
20	栗原忠二	帆船	不詳	水彩	60 × 80	浜松市美術館	

No.	作者	作品名	制作年	材質	サイズ（cm）	所蔵	備考
21	栗原忠二	林道	不詳	油彩	69 × 83	浜松市美術館	
22	川村清雄	静物写生	1875年	紙、鉛筆	33.1 × 51.5	静岡県立美術館	
23	川村清雄	風景	1913-27年頃	油彩	53 × 80.3	静岡県立美術館	
24	川村清雄	波	1913-27年頃	油彩	60.6 × 152	静岡県立美術館	
25	川村清雄	巨岩海浜図	1913-34年頃	紙本着色	43.5 × 174	静岡県立美術館	
26	近藤浩一路	富士山	1940-50年頃	墨画	65.1 × 72.2	静岡県立美術館	
27	大久保一丘	富嶽明暁図	19世紀後半(江戸後期)	絹本着色	95.2 × 48.9	静岡県立美術館	
28	横山大観	富士山	1950-55年頃	絹本着色	58.7 × 73.7	静岡県立美術館	
29	梅原龍三郎	暁天（富士山・大仁）	1944-56年頃	紙本着色	46.3 × 33	静岡県立美術館	
30	和田英作	富士	1918年	油彩	60.6 × 80.2	静岡県立美術館	
31	東山魁夷	秋富士	1955年	絹本着色	66.6 × 88.1	静岡県立美術館	
32	北川民次	タスコの祭	1937年	油彩	178.1 × 267	静岡県立美術館	
33	北川民次	雑草の如くⅢ	1949年	油彩	130.3 × 162	静岡県立美術館	
34	秋野不矩	廻廊	1984年	紙本着色	151.3 × 101	静岡県立美術館	
35	秋野不矩	黄土	1978年	紙本着色	199 × 121	浜松市美術館	
36	秋野不矩	たむろするクーリー	1984年	紙本着色	94.5 × 294	静岡県立美術館	
37	秋野不矩	ウダヤギリⅡ	1992年	紙本着色	135 × 240	静岡県立美術館	
38	秋野不矩	土の家	1985年	紙本着色	124 × 240	浜松市美術館	
39	秋野不矩	ガンガー	1979年	紙本着色	148 × 266.5	静岡県立美術館	
40	秋野不矩	ブラーミンの家	1984年	紙本着色	113.5 × 240	静岡県立美術館	
41	秋野不矩	テラコッタの寺院	1984年	紙本着色	123 × 156	浜松市美術館	
42	山口源	春来る丘	1942年	木版	33 × 44.5	静岡県立美術館	
43	山口源	夏の午後	1943年	木版	33.5 × 45.5	静岡県立美術館	
44	山口源	湧玉池	1945年頃	木版	24.5 × 18.1	静岡県立美術館	
45	中川雄太郎	巴川の夕景	1931年	木版	19.2 × 28.4	静岡県立美術館	前期展示
46	中川雄太郎	上海事変のニュースを聞く人々	1932年	木版	23.3 × 32.5	静岡県立美術館	前期展示
47	中川雄太郎	静岡駅前	1931-33年頃	木版	19.7 × 23.9	静岡県立美術館	前期展示
48	中川雄太郎	工場へ行く道	1933年頃	木版	39 × 46.7	静岡県立美術館	後期展示
49	中川雄太郎	絵の前	1934年	木版	33.5 × 24.7	静岡県立美術館	後期展示
50	中川雄太郎	街角	1936年	木版	31.8 × 40.4	静岡県立美術館	後期展示

物語絵の世界～静岡県立美術館＆佐野美術館コレクションによる

◎重要文化財

No.	指定・作品名	作者（生没年・西暦）	制作年（西暦）	所蔵	備考
〔1、時代を動かした俊英たち～日本の歴史物語〕					
1	曽我物語　富士巻狩・仇討図屏風		江戸時代初期（17世紀中頃）	静岡県立美術館	
2	蒙古襲来之図	菊池容斎（1788～1878）	文久2年（1862）	静岡県立美術館	
3	藤原鎌足像	菊池容斎（1788～1878）	明治8年（1875）	静岡県立美術館	
4	日蓮上人波題目之図	菊池容斎（1788～1878）	江戸後期～明治前期（19世紀後半）	静岡県立美術館	
5	川中島合戦図屏風（裏：龍虎墨竹図）	小林清親（1847～1915）	明治43年（1910）	静岡県立美術館	
〔2、仙境に遊ぶ文人たち～中国の故事〕					
6	竹林七賢・香山九老図屏風	狩野探幽（1602～1674）	江戸時代初期（17世紀）	静岡県立美術館	後期
7	◎龍山勝会・蘭亭曲水図屏風	池大雅（1723～1776）	宝暦13年（1763）	静岡県立美術館	
8	西王母・東方朔図屏風	狩野永良（1741～1771）	江戸時代中期（18世紀半）	静岡県立美術館	前期
9	許由洗耳図	谷文晁（1763～1840）	江戸時代	佐野美術館	
10	李白観瀑図	福田半香（1804～1864）	天保12年（1841）	静岡県立美術館	
11	周茂叔愛蓮図	福田半香（1804～1864）	安政6年（1859）	静岡県立美術館	
12	西園雅集図	福田半香（1804～1864）	江戸時代	個人	
〔3、やまと心をつむぐ王朝人たち～日本の王朝文学〕					
13	秋草鶉図	土佐光起（1617～1691）	江戸時代初期（17世紀中頃）	静岡県立美術館	
14	井手玉川・佐野渡図屏風	狩野探信守政（1653～1718）	江戸時代初期（17世紀末～18世紀初）	静岡県立美術館	後期
15	宇津の山図屏風	山本探川（1721～1780）	宝暦5年～明和6年（1755～69）	静岡県立美術館	
16	定家卿春秋図	狩野栄信（1775～1828）	江戸時代（19世紀）	佐野美術館	後期
17	紫式部吉野山立田川図	狩野寛信（1778～1815）	江戸時代（18～19世紀）	佐野美術館	前期
18	清少納言故事図	渡辺清（1778～1861）	江戸時代後期（19世紀前半）	静岡県立美術館	
19	三井寺	橋本雅邦（1835～1908）	明治27年（1894）	静岡県立美術館	後期
20	見立て源氏絵（若紫・少女）	野沢堤雨（1837～1917）	明治44年（1911）	静岡県立美術館	
21	羽衣	木村武山（1876～1942）	昭和初期（1920年代後半～1930年代前半）	静岡県立美術館	前期
22	観菊図	菊池契月（1879～1955）	昭和10年（1935）頃	静岡県立美術館	前期
23	朝顔日記	鏑木清方（1878～1972）	昭和14年（1939）	静岡県立美術館	
24	宇津の山路	今村紫紅（1880～1916）	明治45年（1912）	静岡県立美術館	
25	今昔ものがたり　伊勢図	松岡映丘（1881～1938）	昭和4年（1929）	静岡県立美術館	
26	牡鹿啼く	中村岳陵（1890～1969）	昭和5年（1930）	静岡県立美術館	
27	能面　小面	河内大掾家重（?～1645）	江戸時代前期（17世紀）	佐野美術館	
28	能面　増		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	前期

No.	指定・作品名	作者（生没年・西暦）	制作年（西暦）	所蔵	備考
29	能面　深井	出目友閑満庸	江戸時代前期（17世紀）	佐野美術館	後期
30	能面　老女		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
31	能面　般若		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
32	能面　童子		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	前期
33	能面　中将		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
34	能面　痩男		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
35	能面　天神		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
36	能面　猿飛出		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
37	能面　顰		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
38	狂言面　白蔵主		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
39	狂言面　狐		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
40	大宮人	内藤　伸（1882～1967）	昭和21年（1946）	佐野美術館	
〔4、人生を語る主人公たち～中国の公話・訓話〕					
41	禅宗祖師・散聖図	海北友松（1533～1615）	慶長18年（1613）	静岡県立美術館	
42	布袋図	岡本宜就（1575～1657）	桃山～江戸時代初期（17世紀前半）	静岡県立美術館	
43	三教図	狩野永納（1631～1697）	承応元年（1652）	静岡県立美術館	前期
44	二十四孝図屏風	英一蝶（1652～1724）	江戸時代	個人	前後
45	琴高仙人図	英一蝶（1652～1724）	江戸時代初期（17世紀後半）	静岡県立美術館	後期
46	酒泉猩々図	椙取魚彦（1723～1782）	江戸時代中期（18世紀）	静岡県立美術館	
47	三星抱嬰児図	岸岱（1782～1865）	天保12年（1841）	個人	
48	布袋図	白隠慧鶴（1686～1768）	江戸時代	佐野美術館	
49	南泉斬猫図	下村観山（1873～1930）		静岡県立美術館	
50	能面　野干		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
51	能面　猩々	出目元休満永（古元休）	江戸時代前期（17世紀）	佐野美術館	
52	能面　邯鄲男	河内大掾家重（?～1645）	江戸時代前期（17世紀）	佐野美術館	
53	能面　一角仙人		江戸時代中期（18世紀）	佐野美術館	
54	狂言面　恵比寿	（出目常守）	江戸時代後期（19世紀）	佐野美術館	
55	大黒天像	米原雲海（1867～1925）	大正13年（1924）	佐野美術館	

前期：1/5（火）～27（水）　後期：2/29（金）～2/14（日）

静岡県立美術館コレクション

日本画にみる風景　－富士を愛でる　山水から風景画へ－

No.	作品名	作者名	技法	制作年	備考
＜富士を愛でる＞					
1	富士曼荼羅図		紙本淡彩　掛幅装	17世紀初頭（江戸初期）	
2	富士三保松原図	原在中	絹本着色　掛幅装	1822（文政5年）年	
3	富士山図屏風	谷文晁	紙本墨画群青引　六曲一隻	1835（天保6年）	
4	神洲奇観	中村竹洞	絹本淡彩　掛幅装	1834（天保14年）頃	
5	富嶽明暁図	大久保一丘	絹本着色金泥　掛幅装	19世紀前半（江戸後期）	
6	富士山	近藤浩一路	紙本墨画　額装	1940～50（昭和10～20年代）	
7	富士山	横山大観	絹本着色　額装	1950～55（昭和25～30）頃	
8	秋富士	東山魁夷	絹本着色　額装	1955（昭和30）	
9	暁天(富士山・大仁)	梅原龍三郎	紙本着色　額装	1944～56（昭和19～31）頃	
10	不二三十六景　東都青山	歌川広重	紙　木版　色摺	1852（嘉永５）	前期
11	不二三十六景　武蔵野	歌川広重	紙　木版　色摺	1852（嘉永５）	前期
12	不二三十六景　伊豆の海浜	歌川広重	紙　木版　色摺	1852（嘉永５）	後期
13	不二三十六景　相模七里ヶ浜風波	歌川広重	紙　木版　色摺	1852（嘉永５）	後期
14	不二三十六景　駿河富士沼	歌川広重	紙　木版　色摺	1852（嘉永５）	後期
15	不士三十六景　駿河薩岳嶺	歌川広重	紙　木版　色摺	1852（嘉永５）	前期
16	不士三十六景　駿河田子の浦	歌川広重	紙　木版　色摺	1852（嘉永５）	前期
17	不二三十六景　信濃諏訪湖	歌川広重	紙　木版　色摺	1852（嘉永５）	後期
＜山水から風景へ＞					
18	柳陰帰漁図	呉春	紙本墨画淡彩　二曲一隻	1783（天明３）	
19	連山春色図	谷文晁	絹本着色　掛幅装	1797（寛政９）	
20	抱琴訪隠図	浦上玉堂	紙本墨画　掛幅装	19世紀初（江戸後期）	
21	琵琶湖八景図	塩川文麟	絹本墨画淡彩　掛幅装	1853（嘉永６）	
22	日・月蓬莱山図	下村観山・横山大観	絹本墨画淡彩　掛幅装	1900（明治33）	
23	揚州城外	竹内栖鳳	絹本着色　掛幅装	1922（大正11）	
24	草園の朝	入江波光	絹本着色　掛幅装	1926（大正15）	
25	田植図	川合玉堂	絹本着色　掛幅装	1945～1954（昭和20年代）	
26	雪庭	福田平八郎	紙本着色　額装	1958（昭和33）	
27	雨	徳岡神泉	紙本着色　額装	1964（昭和39）	
28	はつ夏	小野竹喬	紙本着色　額装	1955～64（昭和30年代）	

No.	作品名	作者名	技法	制作年	備考
29	残照	中村岳陵	紙本着色　額装	1961（昭和36）	
30	磯	中村岳陵	絹本着色　額装	1965（昭和40）	
31	天竜川	秋野不矩	絹本着色　額装	1935（昭和10）	
32	廻廊	秋野不矩	紙本金地着色　額装	1984（昭和59）	
33	ウダヤギリⅡ	秋野不矩	紙本着色　額装	1992（平成４）	
34	東海道五十三駅　おかへ	安田雷洲	紙　銅板	1844（弘化元）頃	
35	東海道五十三駅　かけがわ	安田雷洲	紙　銅板	1844（弘化元）頃	
36	東京名所図　東京新大橋雨中図	小林清親	紙　木版　色摺	1876（明治９）	前期
37	東京名所図　海運橋（第一銀行雪中）	小林清親	紙　木版　色摺	1876（明治９）	後期
38	東京名所図　柳原夜雨	小林清親	紙　木版　色摺	1881（明治14）	前期
39	東京名所図　浅草田浦太郎稲荷前	小林清親	紙　木版　色摺	1881（明治14）	後期

前期：２/20（土）～３/７（日）　後期：３/９（火）～28（日）

前期：２/20（土）～３/７（日）　後期：３/９（火）～28（日）

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

（昭和60年12月23日静岡県条例第38号）

改正　平成元年３月29日条例第43号
平成３年３月19日条例第２号
平成４年３月25日条例第14号
平成８年３月28日条例第11号
平成11年３月19日条例第16号
平成13年７月24日条例第45号
平成15年３月12日条例第２号
平成17年７月15日条例第49号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

（趣旨）

第１条　この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　美術の振興を図り、もつて県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

（一部改正〔平成３年条例２号〕）

（観覧料）

第３条　美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第１に定める額の観覧料を納めなければならない。

（特別観覧）

第４条　知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

２　前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

（一部改正〔平成３年条例２号〕）

（特別観覧料）

第５条　特別観覧をしようとする者は、別表第２に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

（使用の承認）

第６条　県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

２　前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

（一部改正〔平成３年条例２号〕）

（使用の不承認）

第７条　知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。

(2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。

(3) その他その使用を不適当と認めるとき。

（一部改正〔平成３年条例２号〕）

（使用の承認の取消し等）

第８条　知事は、第６条第１項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

(1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。

(2) 第６条第２項の規定により付された条件に違反したとき。

(3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

２　前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあつても、県はその賠償の責めを負わない。

（一部改正〔平成３年条例２号〕）

（使用料）

第９条　県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第３に定める額の使用料を前納しなければならない。

（観覧料等の減免）

第10条　知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

（観覧料等の不還付）

第11条　既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（職員）

第12条　美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。

（協議会の設置）

第13条　博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第１項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（協議会の委員）

第14条　協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。

２　委員の任期は２年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

３　委員は、再任されることができる。

（委任）

第15条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

（一部改正〔平成３年条例２号・17年49号〕）

附　則

この条例は、昭和61年１月１日から施行する。ただし、第３条から第16条までの規定は、同年４月１日から施行する。

附　則（平成元年３月29日条例第43号）

１　この条例は、平成元年４月１日から施行する。

２　この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第３の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成３年３月19日条例第２号）

１　この条例は、平成３年４月１日から施行する。

２　この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第４条第１項又は第６条第１項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第４条第１項又は第６条第１項の規定により承認を受けた者とみなす。

附　則（平成４年３月25日条例第14号）

１　この条例は、平成４年４月１日から施行する。

２　この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第３の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成８年３月28日条例第11号）

１　この条例は、平成８年４月１日から施行する。

２　この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第３の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成11年３月19日条例第16号）

１　この条例は、平成11年４月１日から施行する。

２　この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第３の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成13年７月24日条例第45号）

この条例は、平成13年10月１日から施行する。

附　則（平成15年３月12日条例第２号）

この条例は、平成15年４月１日より施行する。

附　則（平成17年７月15日条例第49号）

この条例は、公布の日から施行する。

別表第１（第３条関係）

（1）　常設展示

利　用　区　分	観　覧　料
個　人	300円
団　体	1人につき　200円

備考　１　個人とは、満15歳以上の者であつて、中学校及び高等学校の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。

２　団体とは、20人以上をいう。

３　企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

（２）企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第２（第５条関係）

利　用　区　分	特別観覧料
模　写	１点１日につき　2,000円
模　造	１点１日につき　2,000円
撮　影	１点１回につき　4,000円
熟　覧	１点１日につき　1,000円
原　板　使　用	１点１回につき　3,000円

別表第３（第９条関係）

（一部改正〔平成元年条例43号・４年14号・８年11号・11年16号・13年45号・15年２号〕）

（１）　県民ギャラリー

利　用　区　分		使用料
		10時から17時30分まで
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

（２）　講堂

使　用　料		
午　前	午　後	全　日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,550円	13,650円	21,200円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

（平成３年３月26日静岡県規則第24号）

改正　平成５年３月25日規則第13号
平成６年３月10日規則第５号
平成９年３月28日規則第51号
平成12年３月31日規則第17号
平成13年７月24日規則第59号
平成20年３月31日規則第19号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

（趣旨）

第１条　この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間及び休館日）

第２条　静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

（1）　開館時間　午前10時から午後５時30分まで。ただし、入館時間は、午後５時までとする。

（2）　休館日

ア　月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日以降の最初の休日でない日）

イ　12月27日から翌年の１月３日までの日

（一部改正〔平成９年規則51号・13年59号〕）

（観覧手続）

第３条　常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第３条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

（特別観覧手続）

第４条　条例第４条第１項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第１号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

２　館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（県民ギャラリー等の使用手続）

第５条　条例第６条第１項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第２号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

２　館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（使用の制限）

第６条　館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

（1）　館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

（2）　館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

（3）　その他館長の指示等に違反した者

（譲渡等の禁止）

第７条　第４条第２項又は第５条第２項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

（原状回復）

第８条　使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復しなければならない。条例第８条第１項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。

（損害賠償）

第９条　美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

（観覧料等の減免）

第10条　条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

（1）　身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合　観覧料の全額

（2）　前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者１人につき１人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合　観覧料の全額

（3）　70歳以上の者が常設展示を観覧する場合　観覧料の全額

（4）　70歳以上の者が企画展示を観覧する場合　観覧料（団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が２以上定められている場合にあっては一般の観覧料（小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。）をいう。）の２分の１の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）

（5）　幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合　観覧料の全額

（6）　幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合　観覧料の全額

（7）　その他館長が特別の理由があると認める場合　館長が別に定める額

２　観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第３号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第１号から第４号までに規定する者が常設展示若しくは企

画展示を観覧するとき、又は前項第７号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

３　館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（一部改正〔平成５年規則13号・９年51号・12年17号・20年19号〕）

（観覧料等の還付）

第11条　条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

（1）　観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

（2）　その他館長が特別の理由があると認めるとき。

２　観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第４号による特別観覧料（使用料）還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第１号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

（委任）

第12条　この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附　則

この規則は、平成３年４月１日から施行する。

附　則（平成５年３月25日規則第13号）

この規則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則（平成６年３月10日規則第５号）

この規則は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（平成９年３月28日規則第51号）

この規則は、平成９年４月１日から施行する。

附　則（平成12年３月31日規則第17号）

１　この規則は、平成12年４月１日から施行する。

２　この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式（以下「旧様式」という。）により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

３　この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附　則（平成13年７月24日規則第59号）

この規則は、平成13年10月１日から施行する。

附　則（平成20年３月31日規則第19号）

この規則は、平成20年４月１日から施行する。

様式第１号（第４条関係）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

（一部改正〔平成６年規則５号・12年17号〕）

特別観覧承認申請書

年　　月　　日

静岡県立美術館長　様

住所

氏名

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

<table>
<tr><td colspan="2">美術品の名称</td><td colspan="3">作者名</td><td>点数</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="3"></td><td></td></tr>
<tr><td>特別観覧の目的</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>区分</td><td colspan="5">模写　模造　撮影　熟覧　原板使用</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">年　月　日　時から　時まで
年　月　日　時から　時まで</td></tr>
<tr><td rowspan="5">内訳</td><td>模　写</td><td>点　日　円</td><td rowspan="5">合　計

円</td></tr>
<tr><td>模　造</td><td>点　日　円</td></tr>
<tr><td>撮　影</td><td>点　日　円</td></tr>
<tr><td>熟　覧</td><td>点　日　円</td></tr>
<tr><td>原板使用</td><td>点　日　円</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

様式第２号（第５条関係）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

（一部改正〔平成６年規則５号・12年17号〕）

県民ギャラリー等使用承認申請書

年　　月　　日

静岡県立美術館長　様

住所　〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名　〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

<table>
<tr><td>展覧会、講演等の名称</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>展覧会、講演等の内容</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>使用区分</td><td colspan="2">県民ギャラリー（Ａ・Ｂ）　講堂</td></tr>
<tr><td>使用期間</td><td colspan="2">年　月　日（　）　時　分から
年　月　日（　）　時　分まで
日間</td></tr>
<tr><td>入場料等の徴収の有無</td><td>有・無</td><td>円</td></tr>
<tr><td>主催者名</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>連絡責任者及び電話</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>後援者名</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

（注）展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第３号（第10条関係）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

（一部改正〔平成６年規則５号〕）

観覧料等減免申請書

年　　月　　日

静岡県立美術館長　様

住所　〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名　〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕　　印

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料　　特別観覧料　　使用料
申請の理由	
日時	年　月　日（　）　時　分から 年　月　日（　）　時　分まで
観覧人員	人
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員	人
責任者氏名	
責任者電話番号	
観覧料等	円
減免申請額	円

様式第４号（第11条関係）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

（一部改正〔平成６年規則５号〕）

特別観覧料
使用料　還付申請書

年　　月　　日

静岡県立美術館長　様

住所　〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名　〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕　　印

次のとおり特別観覧料
使用料の還付を受けたいので、申請します。

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成３年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の２分の１に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

附　則

この規程は、平成３年４月１日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）

第１条　静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成３年静岡県規則第24号）第５条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第２条　県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

２　美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）

第３条　使用期間は、原則として１週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

２　使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）

第４条　申込期間は使用希望する月の６ヶ月前の１日から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申込とする。

２　２週間以上の使用で優先使用を希望する場合は、使用希望する月の７ヶ月前の１日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

（申込方法）
第5条　使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。
（設備取り付け等）
第6条　使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。
（物品等の販売）
第7条　物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。
2　展示品の販売は、一切許可しない。
（展示品等の管理）
第8条　使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。
（現状回復義務）
第9条　搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。
（職員の立ち入り）
第10条　管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附　則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附　則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附　則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附　則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

（設置）
第1条　静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。
（職務）
第2条　委員は次に掲げる事項について意見を述べる。
(1)　美術品の選定に関すること。
(2)　その他美術に関する専門的事項に関すること。
（組織）
第3条　委員は6名以内とする。
2　特別の事項を調査する必要のあるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。
3　美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。
（委嘱）
第4条　委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。
（任期）
第5条　委員の任期は2年とする。
2　委員は再任することができる。
3　臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。
（委任）
第6条　この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附　則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。
2　静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

静岡県立美術館協議会設置要綱をここに制定する。

静岡県立美術館協議会設置要綱

（設置）
第1条　静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。
（協議会の委員）
第2条　協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。
2　委員の定数は、15人以内とする。
3　委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
4　委員は、再任することができる。
（協議会の会長等）
第3条　協議会に、会長及び副会長を置く。
2　会長及び副会長は、委員の互選により定める。
3　会長は会務を総理し、会議の議長となる。

4　副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
5　会長及び副会長にともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。
（協議会の会議）
第4条　協議会は、会長が召集する。
2　協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
（協議会の庶務）
第5条　協議会の庶務は、美術館において処理する。
（その他）
第6条　この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。
附　則
1　この要綱は、平成3年4月1日から施行する。
2　第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年12月23日条例第38号）第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。
3　前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。
附　則
この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱
（設置）
第1条　静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（職務）
第2条　委員会は、委員5人で組織する。
2　委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。
3　委員会に会長及び副会長を置く。
4　会長には県民部長、副会長には、部長代理（理事）をもってこれに充てる。
5　会長は、会務を総理する。
6　副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。
（会議）
第3条　委員会は、会長が召集する。
（専門委員会）
第4条　委員会に、専門委員会を置く。
2　専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。
3　専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。
4　専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。
5　専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。
6　専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。
（庶務）
第5条　委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。
（その他）
第6条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。
附　則
この要綱は、平成3年9月1日から施行する。
附　則
この要綱は、平成7年4月1日から施行する。
附　則
この要綱は、平成10年4月1日から施行する。
附　則
この要綱は、平成11年4月1日から施行する。
附　則
この要綱は、平成12年4月1日から施行する。
附　則
この要綱は、平成13年4月1日から施行する。
附　則
この要綱は、平成14年4月1日から施行する。
附　則
この要綱は、平成19年4月1日から施行する。
別表

県民部長　部長代理(理事)　文化学術局長 文化政策室長　美術館副館長

■静岡県立美術館協議会傍聴要領
1　傍聴する場合の手続
(1)　会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
(2)　傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。
2　傍聴に当たって守るべき事項
傍聴者は次の事項を守ってください。
(1)　会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。
(2)　会場内での飲食、喫煙はしないこと。
(3)　会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。
(4)　その他、会議の支障となる行為はしないこと。
3　秩序の維持
(1)　傍聴者は係員の指示に従ってください。
(2)　傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

組織・名簿

■事務分掌

総務課

（1）職員の人事及び服務に関すること
（2）職員の福利厚生及び保健に関すること
（3）監査に関すること
（4）文書の収受発送に関すること
（5）公印の管守及び機密に関すること
（6）予算・決算その他会計事務に関すること
（7）美術品及び物品の購入に関すること
（8）財産及び物品の管理に関すること
（9）美術館協議会に関すること
（10）他課の所管に属さないこと

学芸課

（1）美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関すること
（2）展覧会の企画及び開催に関すること
（3）美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関すること
（4）美術に関する専門的、技術的な調査研究に関すること
（5）美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関すること
（6）美術に関する講演会及び講習会等の開催に関すること
（7）前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関すること

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	8人	11人	20人
非常勤	1人			3人	4人

■美術館協議会

平野清次	静岡県立金谷高等学校長
中川正明	静岡市立清水小学校校長
江崎善三郎	静岡県文化協会長
石川たか子	（株）丸伸代表取締役社長
西村美佳孝	フリースクール「空」代表
松井純	静岡新聞社・静岡放送社長
立田洋司	静岡県立大学大学院教授
北條博厚	県立美術館友の会会長
田村孝子	グランシップ館長
広瀬純一	NHK静岡放送局長
坂本雅子	東海大学短期大学部教授
岡田恭子	資生堂アートハウス館長
谷口せい子	日本政府観光局観光情報センターシニア・スペシャリスト
杉沢教人	（株）大志建設代表取締役

■専門委員

木村重圭	甲南女子大学教授
河野元昭	秋田県立近代美術館長
坂本満	お茶ノ水女子大学名誉教授、金沢美術工芸大学客員教授
潮江宏三	京都市立芸術大学学長
建畠晢	国立国際美術館長
山梨絵美子	東京文化財研究所企画情報部、近現代視覚芸術研究室長

■資料評価委員

丸山康至	静岡県県民部長
前田幹夫	静岡県県民部部長代理
下山晃司	静岡県県民部文化学術局長
後藤淳	静岡県文化政策室長
神尾好行	静岡県立美術館副館長

■職　員

館長	宮治　昭
副館長	神尾好行
学芸部長	小針由紀隆
総務課長	小林久美子
総務係長	稲葉寿久
副主任	池澤栄誠
主事	中嶋浩美
主事	中村幸貴
管理係長	古橋智裕
主任	野仲　修
副主任	村松　斉
学芸課長	飯田　真
主任学芸員	南　美幸
主任学芸員	堀切正人
主任学芸員	新田建史（国立西洋美術館へ研修派遣）
主任	岡崎隆司
主任	鈴木雅道
学芸員	川谷承子
学芸員	村上　敬
学芸員	泰井　良
学芸員	石上充代
学芸員	福士雅也

■非常勤嘱託員及び臨時事務員

非常勤嘱託員

中村有希
岡村あさ乃
佐野成美

歳入・歳出決算

■歳入決算　　単位：千円

項　　目	金　　額
美術館観覧料	18,791
共催展収入	11,963
県民ギャラリー等使用料	2,886
財産売払・貸付・運用収入	2,962
助成金等	5,367
その他	111,232
計	153,201

■歳出決算　　単位：千円

項　　目	金　　額
人件費	175,352
管理費	272,966
運営費	45,213
施設管理費	227,753
事業費	92,922
企画展事業費	62,192
常設展事業費	10,840
資料・普及事業費	19,890
館蔵品取得費	19,950
施設整備費	150,035
基金積立	2,574
計	713,799

建築・設備概要

■建築概要

区　分	本　館	ロ　ダ　ン　館
所在地	静岡市谷田53番２号	同　左
敷　地	県文化センター内（約120,000㎡）	同　左
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上２階建	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）２階建
	建築面積：6,624.07㎡	建築面積：2,391.25㎡
	延床面積：9,238.51㎡	延床面積：3,024.36㎡
仕　上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、
	屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水	タイル打込ＰＣ板、吹付タイル
	床　：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット	屋根：カラーステンレス葺
	長尺塩化ビニールシート貼、フローリング	トップライト（アルミ、複層ガラス）
	壁　：安山岩「由良赤石」半磨仕上	床　：タイルカーペット
		壁　：大理石、インド砂岩、クロス貼
		天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工　期	昭和59年３月～昭和60年８月	平成４年３月～平成５年11月

■設備概要

区　分	本　館	ロ　ダ　ン　館
電気設備	受変電設備　受電電圧6,600Ｖ60Hz　変圧器１φ300KVA、３φ400KVAモールド型	受変電設備　受電電圧6,600Ｖ　60Hz１φ280KVA、３φ350KVA 最大電力800KW
	発電設備　ディーゼル機関４サイクル６気筒、1,800rpm出力300KVA３φ３W6,600V	発電設備　ディーゼル機関４サイクル６気筒、1,800rpm出力200KVA３φ３W220V
	蓄電池設備　キュービクル式直流電源装置、充電サイリスタ全自動整流器	蓄電池設備　屋外キュービクル式直流電源装置
	弱電設備　舞台調光、舞台音響、ITV監視、入館者表示、映像資料（ビデオ）、電話、放送、電気時計、テレビ共聴	弱電設備　ITV監視、入館表示、ハイビジョン、電話、放送、トイレ呼出表示、調光、テレビ共聴
	防災、防犯設備　警備センター集中監視複合盤（自火報、防排煙）、防犯非常錠制御盤、防災アンプ（180W）、ITV監視装置、地図式表示板	防災、防犯設備　同　左
空気調和設備	熱源機器　直焚吸収冷温水発生機（150USRT・40USRT）、温水焚吸収冷温水機（30USRT）、空気熱源回収型スクリュー式ヒートポンプ冷凍機（150USRT）、プレート式熱交換器（396,300Kcal／h）	熱源機器　直焚吸収冷温水発生機（80USRT）２基、蒸気ボイラー（250kg／h）２基、空冷チラーユニット（4.39USRT）プレート式熱交換器（86,000Kcal／h）
	蓄熱槽　冷温水槽550㎥・55㎥、ソーラー用20㎥	
	ソーラーパネル　平板型672枚	冷温水クッションタンク　５㎥ 冷水クッションタンク　１㎥
	空気調和機　収蔵庫３系統、展示室２系統、県民ギャラリー１系統、その他４系統及びパッケージ型１台、ファンコイルユニット46台、他空冷ヒートポンプパッケージエアコン、ルームエアコン	空気調和機　収蔵庫３系統、展示室４系統、全熱交換器（３台）

区　分	本　館	ロ　ダ　ン　館
衛生設備	排　煙　機　ロビー系統他　３系統３台	排　煙　機　メイン展示室他２系統４台
	給水設備　受水槽30㎥（二槽式）、高架水槽12㎥（二槽式）	給水設備　空調用自動給水装置受水槽５㎥
	排水設備　公共下水道に放流	排水設備　公共下水道に放流
	消火設備　展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋内消火栓	消火設備　展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋外消火栓
昇降機設備	身障者用　油圧式11人乗750kg	身障者用　油圧式23人乗1,500kg
	荷　物　用　油圧式3,000kg	

■建設工事費

本　館		ロ　ダ　ン　館	
建　築	3,802,838　千円	建　築	3,415,995　千円
外　構	397,162	周辺環境整備	268,509
プロムナード	173,300		
合　計	4,373,300	合　計	3,684,504

■諸室概要

■本館

実技室（114㎡）

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週３～４日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室（約20席）

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、２台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

レストラン（80席　198㎡）・カフェ（39席　36.7㎡）

レストラン「エスタ」及びカフェ（ロダン）は、日本平ホテルが運営している。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、２階のロビー内にある。静岡市内の書店３社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室（７室　1,777㎡）

展示室は２階にあり、連続した７つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部に三本、下部に一本の無紫外線蛍光灯があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるようになっている。

県民ギャラリー（２室　490㎡）

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂（262席　305㎡）

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機２台、16㎜映写機２台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室（約30席　71㎡）

美術に関する講座を行う。常設展では、展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は、担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室（12.5㎡）

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室　毎週土、日曜、祝日
10時30分～16時30分まで
２時間を限度

授乳室　開館日全て
10時～17時30分まで
（夜間開館日は20時まで）

■ロダン館

ロダンフロア（1,461㎡）

高さ20ｍの天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアは、あらゆる角度から彫刻の鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室１（98㎡）、展示室２（149㎡）

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、１階エントランスホールの両側に設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室１には、地獄門の鋳造過程の写真パネルやブロンズの製造過程を示す模型及びロダン写真資料（ＣＤ－ｒｏｍ）検索システムが設置されている。また、展示室２にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

ブリッジ・ギャラリー（276㎡）

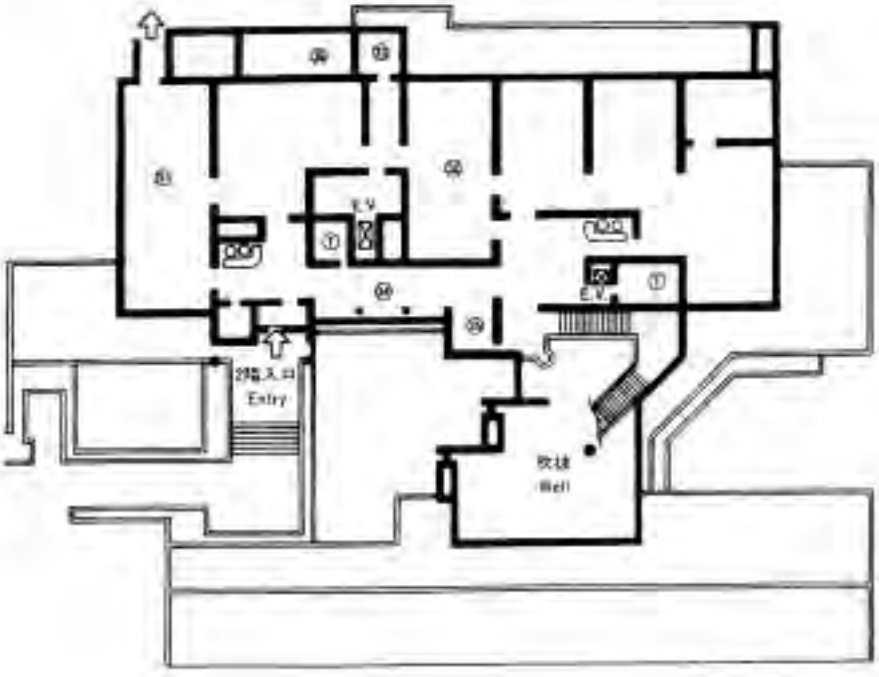
本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図

■本　館

1階 First Floor

2階 Second Floor



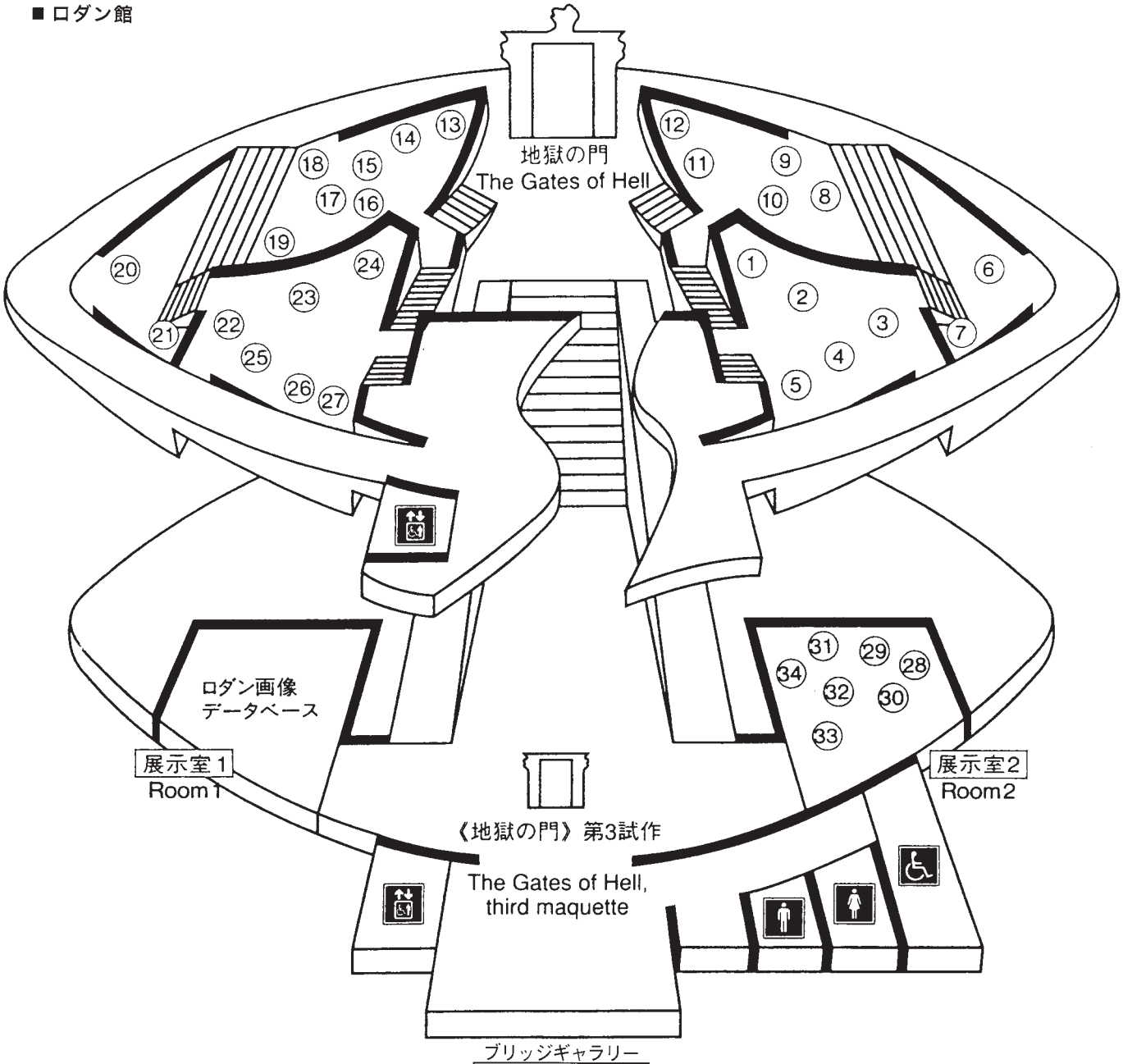
Auditorium
Library
Lecture Room
Atelier
Gallery for Looking
Delivery Room
Terrace for Sculpture
Volunteer's Room
Cloak Room
Cafe

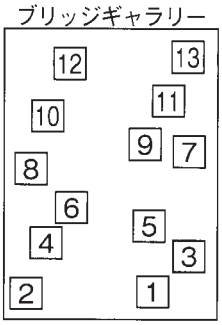
Restaurant
Nursery
Lobby
Storage Front
Storage (1)
Storage (2)
Storage (3)
Delivery Room
Packing Room
Fumigation Room

Photo Studio
Director's Room
Vice-Director's Room
Reception Room
Council Room
General Affairs Section
Curatorial Section
Restoration Room
Guards Room
Central Monitor Room

Gallery for Permanent Collection
Gallery for Loan Exhibition
Lounge
Museum Shop
Machinery Room
Bridge Gallery
E.V Elevator

■ ロダン館





ロダン，A

①《カレーの市民》ジャン・デール
②《カレーの市民》ジャン・ド・フィエンヌ
③《カレーの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
④《カレーの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
⑤《カレーの市民》アンドリュー・ダンドル
⑥《カレーの市民》ユスターシュ・ド・サン＝ピエール
⑦《カレーの市民》第一試作
⑧ ホイッスラーのためのミューズ
⑨ 裸のバルザック
⑩ バルザックの頭部
⑪ 永遠の休息の精
⑫《永遠の休息の精》のトルソ
⑬《影》のトルソ
⑭ パオロとフランチェスカ
⑮ フギット・アモール
⑯《影》の頭部
⑰ 壷をもつカリアティード
⑱ シベール
⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
⑳ 考える人
㉑ バッカス祭
㉒《ラ・フランス》習作
㉓ バスティアン＝ルパージュ
㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと呼ばれる女のトルソ
㉕ クロード・ロラン
㉖ ボードレールの頭部
㉗ 花子のマスク

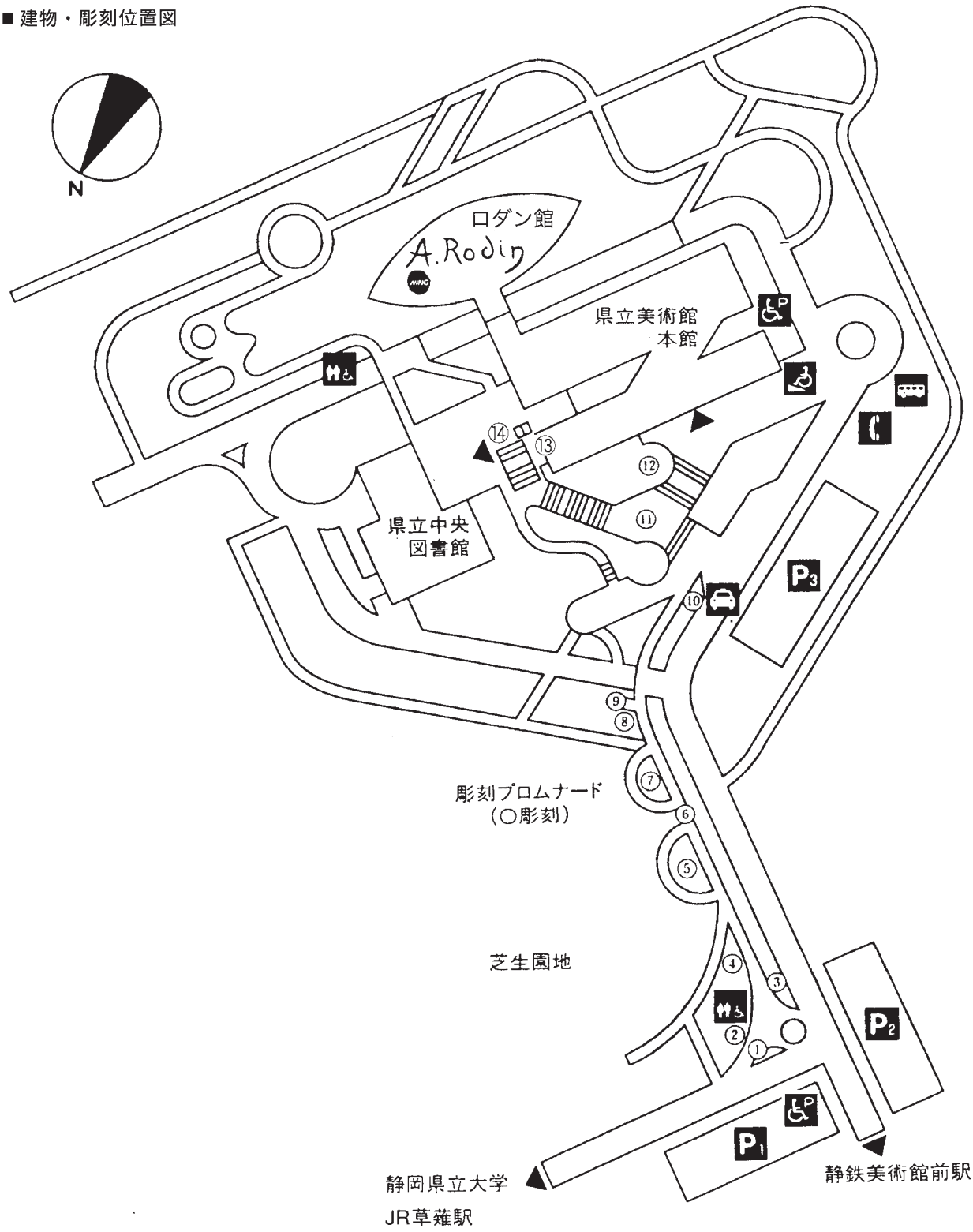
展示室2

㉘ カルボー，J.B.／ナポリの漁師の少年
㉙ カリエ＝ベルーズ，A.E／ニンフを連れ去るサテュロス
㉚ ロダン，A／バラの髪飾りの少女
㉛ カルポー，J.B.／悲しみの聖母
㉜ ダルー，A.J.／乳を与えるパリの女
㉝ フレミエ，E.／蛇使い
㉞ バリー，A.L.／ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

1 ゴーギャン，P.／オヴィリ
2 バルラッハ，E.／読書する僧たちⅢ
3 ムーア，H.／横たわる人体
4 レームブルック，W.／女のトルソ
5 ジャコメッティ，A.／横たわる女
6 アーキペンコ，A.／《化粧する女》習作
7 ブランクーシ，C.／ポガニー嬢Ⅱ
8 リプシッツ，J.／母と子
9 ロッソ，M.／病める男
10 ブールデル，E.A.／アポロンの首
11 ブールデル，E.A.／ロダンの肖像
12 マイヨール，A.／《イル・ド・フランス》のトルソ
13 クローデル，C.／波

■ 建物・彫刻位置図



① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
② J．ロザティ《アークII》
③ 舟越保武《杏》
④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
⑤ 清水九兵衛《地響》
⑥ 掛井五郎《蝶》
⑦ 大西清澄《涛の塔》
⑧ 鈴木久雄《風化儀式V－相関体》
⑨ 佐藤忠良《みどり》
⑩ 柳原義達《道標・鳩》
⑪ T．スミス《アマリリス》
⑫ G．リッキー《四つの旋回する斜線－菱形II》
⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

■開館時間　午前10時～午後５時30分
（入館は午後５時まで）
[夜間開館]　７・８月の企画展期間中の毎週土曜日、午後８時まで開館（入館は午後７時30分まで）

■休館日　毎週月曜日（但し、祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館）／年末・年始／その他展示替等のための休館日

■収蔵品展観覧料

観覧料／一般・大学生300円（団体200円）
／高校生以下・70歳以上の方は無料

■企画展観覧料

展覧会名	一般	高校・大学・70歳以上
よみがえる黄金文明展	1,200円 ＜1,000円＞	600円 ＜500円＞
柳澤紀子展	800円 ＜600円＞	400円 ＜300円＞
パウル・クレー東洋への夢	1,100円 ＜900円＞	500円 ＜400円＞
特集　狩野派の世界2009	600円 ＜400円＞	300円 ＜200円＞

＊＜　＞内は団体（20名以上）及び前売料金
＊中学生以下及び、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。

■施設利用料

（1）県民ギャラリー

利用区分		使用料 10時～17時30分
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

（2）講　堂

使用料		
午前	午後	全日
10時～12時30分	13時～17時30分	10時～17時30分
7,550円	13,650円	21,200円

交通案内　ＪＲ「草薙駅」から静鉄バス「県立美術館行き」で約６分
静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分
ＪＲ「静岡駅」南口からタクシー約20分
美術館所在地　〒422－8002　静岡市駿河区谷田53－2
電話番号　総務課（ＴＥＬ）　054－263－5755
〃　（ＦＡＸ）　054－263－5767
学芸課（ＴＥＬ）　054－263－5857
〃　（ＦＡＸ）　054－263－5742
美術館友の会事務局　054－264－0897
ミュージアムショップ　054－264－8926

●
平成21年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館©
〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755
印　　刷：株式会社アプライズ
〒422-8037 静岡市駿河区下島114 蔵敷ビル

●
Annual Report of
Shizuoka Prefectural Museum of Art,2009

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Artc
Printed by APRISE Co.,Ltd, Shizuoka
Printed in Japan 2009